

文部科学省初等中等教育局

平成25年度「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」

私立学校における学校評価について、取組状況の分析、効果的活用
を目指した資料の提供および普及のための研修等の実践的調査研究

報告書

平成26(2014)年 3月

一般財団法人 日本私学教育研究所

The Education Institute for Private Schools in Japan

ま え が き

本研究所では、文部科学省が毎年実施している公募事業に応募し、数多く採択されてきた。

本年度、文部科学省初等中等教育局 平成25年度「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」の一つとして、『私立学校における学校評価について、取組状況の分析、効果的活用を目指した資料の提供および普及のための研修等の実践的調査研究』と言うテーマで採択された。

「評価」はするもされるも嫌われがちであり、難しい制度ととらえられがちである。しかし、学校評価の目的は「学校運営の改善」であり、学校法人・学校としては、いろいろな立場はあるにしても避けては通れない重要事項である。「学校運営の改善」は、一部の担当者だけで実施するのではなく、組織全体で「学校改善活動」として取り組む制度とし、意図的・計画的にコミュニケーションをとり、客観的に明らかにした事実を関係者で共有し、有効と考えられる改善策を立案し実行していくことが肝要であろう。まだ新しい制度でもあり、基礎的な調査研究から始まり試行錯誤を繰り返しながら、各学校の文化に相応しい学校評価がなされることが期待されており、私立学校にとっても同様である。

本事業の成果が、今後の私立学校の学校評価の取り組みと私立学校のさらなる発展に役立つことができれば幸いである。

また、これらの事業を推進するためには、多くの関係者の方々にご支援・ご協力を賜りました。最後になりますが、ここに記して感謝申し上げます。

2014年3月

一般財団法人 日本私学教育研究所

所 長 中 川 武 夫
主任研究員 山 路 進
専任研究員 大 森 隆 實

目 次

第 1 章 学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究事業	3
一. 学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究事業について	3
二. 「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究事業」事業成果報告書	4
1. 事業の実施報告	4
（1）調査研究のねらい	4
（2）調査研究の実施状況	4
Ⅰ. 私立学校における学校評価の取り組み状況に関する調査研究	4
Ⅱ. 私立学校における学校評価研修	5
Ⅲ. 学校評価の資料提供	6
2. 調査研究の成果	6
調査研究の考察・課題等	6
第 2 章 私立学校における学校評価の実施と活用に関するアンケート調査 （集計と分析）	11
1. 学校評価（全体）について	11
ア. 目的	11
イ. 目標を共有するために行った工夫	13
ウ. 勤務負担を軽減するために行った工夫	14
エ. 使用した参考資料	16
オ. 参考にした学校評価に関する研修会等	17
2. 自己評価について	18
ア. 実施状況	18
イ. 評価項目（小項目）	19
ウ. 評価指標として利用したもの	21
エ. 評価結果の設置者への報告	23
オ. 評価結果の活用方法	23
カ. 保護者や地域住民等への公表の方法	25
キ. 公表している評価項目（小項目）	29
ク. 課題あるいは困難があったと感じられた点	31
3. 学校関係者評価について	32
ア. 実施状況	32
イ. 開催した回数	33
ウ. 実施していない理由	34
エ. 必要性が現時点では乏しいと考える理由	35
オ. 評価者の構成	37
カ. 実施に際して行った活動	39
キ. 評価結果の設置者への報告	40
ク. 評価結果の活用方法	41
ケ. 保護者や地域住民等への公表の方法	42
コ. 評価結果として公表した内容	44
サ. 課題あるいは困難と感じられた点	45

◎学校評価についてのご意見等	47
アンケート調査依頼状	54
アンケート調査質問用紙	55
アンケート調査回答用紙	61
学校評価についての基礎知識（アンケートに同封したもの）	63
第3章 学校評価訪問調査と好事例（参考事例）の調査研究	69
1. 学校訪問調査実施報告	69
A 校	69
B 校	71
G 校	72
H校、I校、J校、L校	73
2. 学校評価の好事例（参考事例）等	74
C 校 自己評価の実施概要	74
E 校 目標と評価の観点	76
F 校 学校評価委員会等についての学校便りの記事	76
F 校 学校関係者評価委員会「地域の声を聞く会」	77
M 校 授業参観後の懇談会の活用事例	77
N 校 学校評価制度実施規程	79
O 校 自己評価と学校関係者評価の公表事例	82
P 校 町内・自治会長の評価の取り入れ事例	83
Q 校 学校評価の企画と年間計画事例	85
R 校 学校関係者評価の評価者の選抜事例	89
S 校 第三者評価の規程と実施事例	89
T 校 学校評価実施要領および評価委員会設置要綱	91
U 校 学校関係者評価の評価事例	97
V 校 自己評価・学校関係者評価等の報告事例	103
第4章 学校評価と私学の対応研修会	119
学校評価と私学の対応研修会	119
教育課程編成と学校評価研修会	119

文部科学省初等中等教育局 平成25年度「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」
「私立学校における学校評価について、取組状況の分析、効果的活用を目指した資料の提供および普及のための研修等の実践的調査研究 報告書」は、下記の分担により執筆した。

編集者	山路 進（調査研究統括、監修、編集、著作）
第1章	山路 進、大森 隆實
第2章	山路 進、澤村 興平、原 芳典、富居 啓一、安藤 忠、波多野和彦、倉田 政彦
第3章	澤村 興平、原 芳典、富居 啓一
第4章	山路 進、大森 隆實

第 1 章

学校の総合マネジメント力の 強化に関する調査研究事業

第1章 学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究事業

平成25年3月、文部科学省初等中等教育局参事官付きより、平成25年度「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究事業」が公募された。その中に、「A 学校評価等実施状況調査（平成23年度間）踏まえた、私立学校における学校評価の取組状況の分析、好事例の収集、普及のための調査研究を行う。」が、研究課題として掲げられていた。

3. 事業の内容

(1) 研究課題

地域とともにある学校づくりを推進し、学校の総合マネジメント力の強化を図る上での課題解決のための具体的方策について、以下の研究課題に取り組むこととする。

- A 学校評価等実施状況調査（平成23年度間）を踏まえた、私立学校における学校評価の取組状況の分析、好事例の収集、普及のための調査研究を行う。
- B 学校の総合マネジメント力の強化を支える、教育行政職員（学校事務職員・教育委員会事務局職員等）に求められる資質・能力の在り方や、育成のためのプログラム開発についての調査研究を行う。
- C 家庭・地域との情報共有や校務支援システムの活用による、教育の質の向上と学校運営改善の効果検証・普及のための調査研究を行う。
- D 学校支援地域本部、学校評議員、学校関係者評価委員などの関係組織との連携の在り方など、学校運営協議会制度の発展と拡大に関する調査研究を行う。

日本私学教育研究所では、学校評価について、「学校評価の推進に関する調査研究協力者会議」の久保田宏明委員（穎明館中学・高等学校校長、日本私立中学高等学校連合会常任理事・教育制度委員長（当時））の指導を受け、この制度についての研究や対応を行ってきた。

これまで、本研究所主催による「学校評価」に関する研修会を企画し実施してきた。

- ・平成18年11月11日（土）、「学校評価と教員の能力開発研修会」、東京都・主婦会館プラザエフ
- ・平成19年6月2日（土）、「学校評価と教員の能力開発研修会」、東京都・食糧会館
- ・平成20年11月15日（土）、「学校評価と教員の能力開発研修会」、京都市・同志社女子大学今出川キャンパス

最近では、平成24年度、大森隆實専任研究員の主宰する私立小学校経営研究会による「新しい時代に対応した私立小学校の在り方」の調査研究の中で、「教師の資質向上、自己評価と学校関係者（保護者等含む）評価の活用」を調査しまとめている。

一. 学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究事業について

以下に文部科学省からの公募要領、および本研究所から応募した「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」企画書を掲載する。

この事業のテーマは、検討の結果、テーマ：「私立学校における学校評価について、取組状況の分析、効果的活用を目指した資料の提供および普及のための研修等の実践的調査研究」とした。

その結果、文部科学省から採択の通知を受け、本事業が実施された。

二. 「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究事業」事業成果報告書

本事業の事業成果報告書を以下に示す。

平成26年 3 月

事業成果報告書

団体名：一般財団法人 日本私学教育研究所

<研究課題>

○学校評価等実施状況調査（平成23年度間）を踏まえた、私立学校における学校評価の取組状況の分析、好事例の収集、普及のための調査研究を行う。

<研究テーマ>

○私立学校における学校評価について、取組状況の分析、効果的活用を目指した資料の提供および普及のための研修等の実践的調査研究

1. 事業の実施報告

（1）調査研究のねらい

学校評価は、学校運営の改善を目的とする PDCA サイクルを実現するうえで重要な活動である。私立学校においても、「学校評価」の実施は学校運営改善という観点から考えると、積極的に取り組むべき事項である。

学校評価は新しい制度でもあるために、私立学校ではその取り組み方が分からないなど、まだこの制度に着手していない学校も見られる。そこで、本調査研究では3つの事業を行い、私立学校の学校評価の推進を目的とする活動を実施した。

私立学校（小学校、中学校、高等学校、中等教育学校）における「学校評価」の取り組み状況をアンケート調査、好事例の学校訪問調査を実施する。その調査結果を基にして、「学校評価研修会」を開催し学校評価の活用について学ぶ、さらに、研修会での資料および活用マニュアルを作成し、全私立学校に配布し学校評価を基にした学校改善を広めた。

1. 私立学校における学校評価の取り組み状況に関する調査研究
2. 私立学校における学校評価研修会の実施
3. 学校評価の資料提供

（2）調査研究の実施状況

I. 私立学校における学校評価の取り組み状況に関する調査研究

私立学校全校（小学校200校、中学校800校、高等学校1300校）に「学校評価」について、アンケート調査・訪問調査を行い実態把握および研究資料を収集した。

I－I 学校評価アンケート

私立学校を対象にして、「学校評価」アンケートを実施した。自己評価、学校関係者評価などの具体的な実施状況、課題などについて調査項目を設けた。また、各学校で実施している学校評価（自己評価、学校関係者評価）の報告（学校法人に提出する報告、学校評価の内規あるいはマニュアル等）を、任意でアンケートと一緒にご恵贈いただくことができた。

☞アンケート票、回答用紙（第2章「集計と分析」pp73～80）

☞学校評価に関する基礎知識（第2章「集計と分析」pp81～84）

I－II. 私立学校における学校評価の好事例の調査研究

アンケート調査の調査表およびご恵贈いただいた学校評価の報告の中から、好事例を選び訪問調査した。学校評価に関する姿勢や取り組みについてヒアリングを行い、他校での実施に役立つ情報を収集した。

「学校評価」訪問調査校

- ・ 6月11日（火曜）A校、B校
- ・ 8月30日（金曜）C校
- ・ 10月24日（木曜）D校、E校
- ・ 10月25日（金曜）F校
- ・ 11月6日（水曜）G校
- ・ 11月14日（木曜）・15日（金曜） H校、I校、J校
- ・ 11月15日（金曜）K校
- ・ 11月27日（水曜）L校

II. 私立学校における学校評価研修

学校評価の推進に関する研修会（私立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校対象）を実施した。本研修会は、「私立学校における学校評価の実施と活用に関するアンケート調査」の調査結果（中間報告）を基にして、「学校評価と私学の対応」について研修した。

参加は、日程によって東日本地区と西日本地区に分け、どちらにでも参加できるようにした。内容は、学校評価の基本的な考え方を学ぶ講演、学校評価のアンケート調査による調査研究からの活用に向けての説明、および学校評価を実施するための研究協議などを実施した。

☞参考（第4章 学校評価と私学の対応研修会 p119）

【会期Ⅰ】日 時：平成25年11月9日（土）の午後2時から午後5時

会 場：札幌ガーデンパレス 〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目

TEL 011-261-5311

講 師：山路 進（一般財団法人日本私学教育研究所 主任研究員）

【会期Ⅱ】日 時：平成25年11月16日（土）の午後2時から午後5時

会 場：兵庫県私学会館 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通4-3-13

TEL 078-331-6623

講 師：山路 進（一般財団法人日本私学教育研究所 主任研究員）

【会期Ⅲ】日 時：平成25年11月30日（土）の午後2時から午後5時

会 場：福岡ガーデンパレス 〒810-0001 福岡市中央区天神4-8-15
TEL 092-713-1112

講 師：山路 進（一般財団法人日本私学教育研究所 主任研究員）

【会期Ⅳ】日 時：平成25年12月7日（土）

会 場：九段センタービル（L B 2階会議室）

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7

※「教育課程編成と学校評価研修会」として実施

解説2：学校評価と私学の対応

講 師：山路 進（一般財団法人日本私学教育研究所 主任研究員）

研究協議 テーマ1：教育課程編成の調査研究

テーマ2：学校評価と私学の対応

担当：山路 進（一般財団法人日本私学教育研究所 主任研究員）

山崎吉朗（一般財団法人日本私学教育研究所 専任研究員）

大森隆實（一般財団法人日本私学教育研究所 専任研究員）

Ⅲ. 学校評価の資料提供

本事業の成果をまとめ、「私立学校における学校評価について、取組状況の分析、効果的活用を目指した資料の提供および普及のための研修等の実践的調査研究 報告書」を作成し、全国の私立学校1700校（発送数：小学校200校、中高は高単独・中高・中等教育学校1450、私立学校協会50箇所）に配布し、普及をはかることとした。

2. 調査研究の成果

- 私立学校（小学校200校、中学校800校、高等学校1300校）を対象にして、「学校評価」アンケートを実施した。その結果、私立学校における学校評価の現状と課題を把握することができた。
- 学校評価に関する学校訪問調査を実施し、関係資料の入手・好事例の収集・実施体制の工夫・実施効果・改善点・課題などをまとめることができた。
- 私立学校における学校評価研修を4回実施した。研修会では、講義の傾聴がなされ、その後の質疑応答では、学校評価に関する対応・改善について議論がなされた。
- 本事業の成果をまとめ、「私立学校における学校評価について、取組状況の分析、効果的活用を目指した資料の提供および普及のための研修等の実践的調査研究 報告書」を作成し、1700部を全国の私立学校に配布し、普及をはかることとした。

調査研究の考察・課題等

- 自己評価の実施状況について調査した。時期を問わずに実施している学校は、94.9%であるが、実施していない学校が、5.1%あることが分かった。実施していない理由としては、学校評価（自己評価）についての理解や研修等が不足していたと考えられる。

学校評価アンケートの回答に添えてのお手紙には、「学校評価、私立はあまり対応しなくても良いのでは……と情報が、一部??県下では流れていたもので、ゆっくりしていた次第です。」と記述されていた。このことから、全国の私立学校に対する研修会等による周知徹底が重要である。

- 自己評価に関して、課題あるいは困難があったと感じられた点については、特に課題や困難はなかったが、10.7%あるが、意義の教職員への浸透や多忙感などの教職員への配慮、評価項目や評価指標の設定や結果の活用などの具体的な実施への構築が課題であることが指摘された。
- 研修会の研究協議により明らかになったことは、自己評価は授業評価が必須であると考えている学校があった。PDCA サイクルに基づく自己評価は実施しているにも係わらず、授業評価（＝授業アンケート）を行っていないので、自己評価は実施していないと回答している学校が複数校あった。自己評価には授業アンケートが必須と理解している学校は多い。
- 学校評価の実施に伴う勤務負担を軽減するために行った工夫については、「評価項目を重点化・精選した」が、総計では、65%で一番多く、内容を精選している。次は、「特定の担当教職員に負担が集中しないよう、分担して作業を行った」が、32%であり、担当者に集中しがちであることへの配慮が伺える。
- 自己評価結果の設置者への報告（法令上の義務）については、「設置者（学校法人）に提出した」が、88.0%、「設置者（学校法人）に提出していない」が 12.04%であった。設置者（学校法人）に報告していない理由であるが、学校法人は学校経営（経理会計）を主体に活動しており、教育学習活動は学校の教職員に任されているということであろうか。学校の総合マネジメント力の強化と言う観点からすると、この点は将来への課題である。
- 自己評価については、研修会の研究協議・学校訪問調査からの発言によると、PDC までは着実に実施できているが、A（Action）が課題であると指摘された。PDC サイクルに基づいた活動を行い自己評価の報告書や職員会議等で議論はされて役には立っているが、その結果を反映した学校改善がほんとうに実現できているかと言うとまだまだであるという課題である。
- 学校関係者評価の実施状況については、「実施している（学校関係者を構成して実施した、32.3%、学校法人の評議員会で実施した19.9%）」は、53.3%であった。実施していないが、36.1%であった。
- 学校関係者評価を実施していない理由については、「学校関係者評価を実施する必要性が現時点では乏しいと考えているため」が、11.4%である。次に多いのは、「次年度以降の実施に向けて準備中であるため」10.7%、「学校関係者評価を実施する時間的余裕がないため」7.2%、「学校関係者評価委員の確保が困難なため」7.2%などが、理由である。実施に向けて検討している傾向が伺える。
- 学校関係者評価を実施する必要性が現時点では乏しいと考える理由については、「学校法人の評議員（私立）等に教育活動その他の学校運営に関する意見をもらっており、それで十分であると考えているため」が、6.7%であった。その次の理由は、「入学等に際し、既に児童生徒や保護者の評価（選択）を受けているため」、「自己評価（外部アンケート等を含む）の実施・公表で十分だと考えているため」であった。
 その他、「①後援会組織が充実しており定期的に理事会、評議員会を開催して、相互に意見を交換できる状況にある。②学年保護者会等を定期的に開催している。」、「評議員、理事には、学識経験者、卒業生、職員など各分野での有識者が多く、十分に本来の目的を達成していると思われる。」など、すでに学校の教職員以外の関係者に意見等を聞く機会があるからと答えている。

○学校関係者評価に関して、課題あるいは困難があったと感じられたかという点については、特に課題や困難はなかったとの意見もあった。評価の活用、意義の浸透、指標の設定、多忙感など、より効果的な評価に向けて課題が示されている。

○学校評価が有効であり、さらに改善して活用したいという意見もある。アンケートから、「学校評価を実施した結果は概ね良好な内容であったが、いくつかの評価項目において、教員側の想いに対する生徒・保護者側の捉え方に相違があることに気付かされた。教員側との見解の相違そのものを「学校側としての課題」として捉え、今後の教育活動における成果獲得の糧としていきたい。」「学校評価は学校運営の改善にとってとても重要だと考えます。」など。

○まだ学校評価が、学校全体の学校運営の改善活動には至っておらず、さらに質的改善を検討しているという意見もあった。アンケートから、「全教職員の日常の教育活動と有機的に関連づけるのがかなり難しいです。また、学校評価の意義を多くの教員がしっかりと理解しておかなければ形式に流れてしまう気がします。」

○学校評価を実施するための教職員に係わる作業負担は大きい。実施に意味はあるが、その負担と効果を検討して改善することが求められている。アンケートから、「法令化されているとはいえ私学の厳しい教員数にあって年2回の評価を行い、県等に報告しなくてはいけないことは大変な労力である。実質効果の得られる状態にするためには工夫や改善が必要であり、そこまで評価に力を入れられないのが現状である。

県よりの補助金の配分があると言われればやらざるをえないが、評価のための評価、本末転倒となりかねない。私学の独自性においてももう少しゆるやかにならないものか。」「集計、報告書作成の効率化について、良いアイデアや成功事例等あれば実務者研修などで聞いてみたいです。年々評価項目が増えていく傾向にあり、それにとまって学校運営に様々な形で反映して行くのは大変良いことだと思いますが、何しろ集計が大変で困ってしまいます。」などの意見が記載されていた。

○学校評価の活動を、全教職員・学校法人・保護者等の学校関係者で共有し学校の総合マネジメント力の強化を推進するためには、継続的な教員研修が有効である。初任研、10年経験者研修、教員免許更新講習、教員研修、幹部研修など、あらゆる研修の機会に学校評価について理解と実践を学ぶことが肝心である。

○学校評価（自己評価・学校関係者評価）の取組状況は、私立学校が設置されている地区によりその状況にはばらつきが認められた。より普及に向けて全国的な広報や研修等は課題である。

○私立学校は、自主性・独自性に基づく「建学の精神」で成り立っているが、自らの学校運営の在り方についての客観的な学校評価は必要不可欠である。今後、より充実した学校運営の改善を実現するために一つの方法として学校評価（自己評価・学校関係者評価）は重要であり、そのための調査研究と研修等の普及活動は欠かせないものである。

以 上

第 2 章

私立学校における学校評価の
実施と活用に関するアンケート
調査（集計と分析）

第2章 私立学校における学校評価の実施と活用に関するアンケート調査(集計と分析)

アンケートは、2013年9月に発送し、送付締切日平成25年10月31日(木)とした。アンケート送付学校数1,626校、有効回答学校数544校(33.5%)であった。

送付発送数は、中学校と高等学校を併設している学校法人に対しては、アンケート表1通を送付するケースもあり、私立学校(小学校200校、中学校800校、高等学校1,300校、合計2,300校とは異なる)の総数ではない。

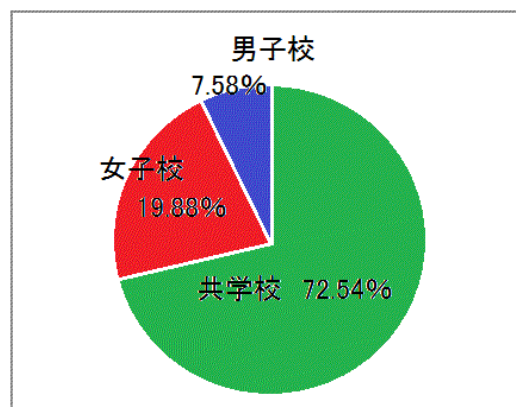
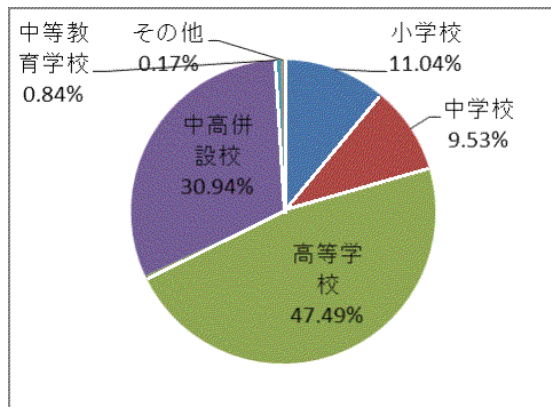
学校評価に関するアンケート調査の集計と分析を行った。分析はイタリック(斜体)で示す。

「私立学校における学校評価の実施と活用に関するアンケート調査」にご回答いただいた学校のプロフィールをまとめた。

学校区分

小学校	中学校	高等学校	中高併設校	中等教育学校	その他	計
61 校	53 校	263 校	171 校	5 校	1 校	554 校
11.04 %	9.53 %	47.49 %	30.94 %	0.84 %	0.17 %	100 %

共学校	女子校	男子校	計
402 校	110 校	42 校	554 校
72.54 %	19.88 %	7.58 %	100 %



1. 学校評価(全体)について

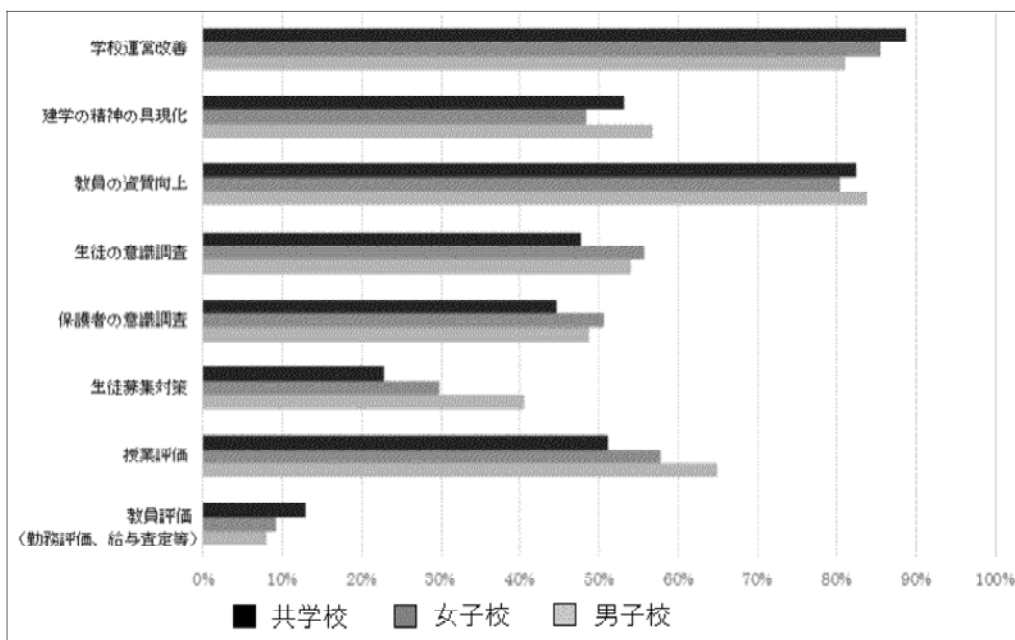
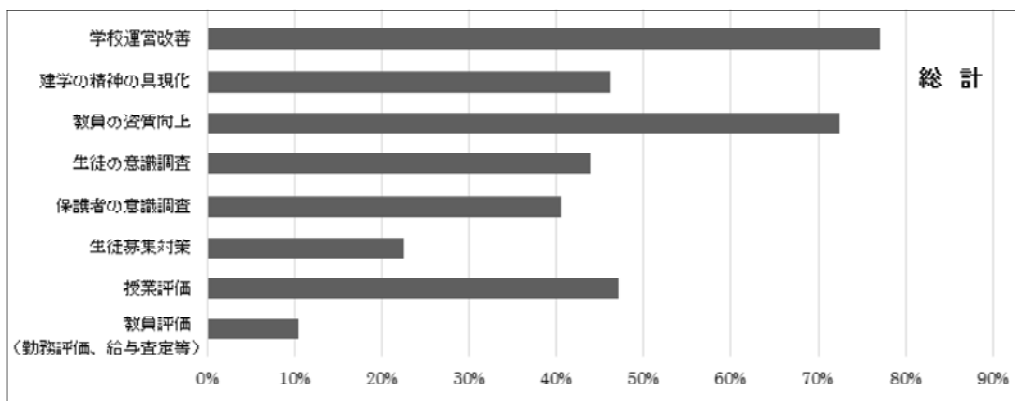
ア. 目的

ア-1 学校評価を行っている目的を、次より選んでください。(複数回答可)

- ①. 学校運営改善
- ②. 建学の精神の具現化
- ③. 教員の資質向上
- ④. 生徒の意識調査
- ⑤. 保護者の意識調査
- ⑥. 生徒募集対策
- ⑦. 授業評価
- ⑧. 教員評価(勤務評価、給与査定等)
- ⑨. その他 ※ 「⑨.その他」の主な内容を記入してください。

ア－２ 調査結果の集計

学校評価を行っている目的	計	共学校	女子校	男子校
①. 学校運営改善	77.08 %	88.70 %	85.57 %	81.08 %
②. 建学の精神の具現化	46.21 %	53.11 %	48.45 %	56.76 %
③. 教員の資質向上	72.38 %	82.49 %	80.41 %	83.78 %
④. 生徒の意識調査	43.86 %	47.74 %	55.67 %	54.05 %
⑤. 保護者の意識調査	40.61 %	44.63 %	50.52 %	48.65 %
⑥. 生徒募集対策	22.56 %	22.88 %	29.90 %	40.54 %
⑦. 授業評価	47.11 %	51.13 %	57.73 %	64.86 %
⑧. 教員評価(勤務評価、給与査定等)	10.47 %	12.99 %	9.28 %	8.11 %



⑨. その他の主な内容

- ・学校行事の施設・備品の改善など ※授業評価は2009・2011年度のみ
- ・学校評価に対する生徒と保護者の考えや意識の差をはかろうとした。
- ・教育内容、財務状況理解、情報公開、地域交流
- ・学校行事の評価 ・教育の充実 ・教員の意識調査 ・未実施

アー 3 調査結果の分析

学校評価を行っている目的は、学校運営改善 77%、教員の資質向上 72%、授業評価 47%が上位の3つであり、学校内の活動に関する評価であった。それについて、建学の精神の具現化、生徒の意識調査、保護者の意識調査であり、学校の受益者がどのように受け止めているかの評価であった。

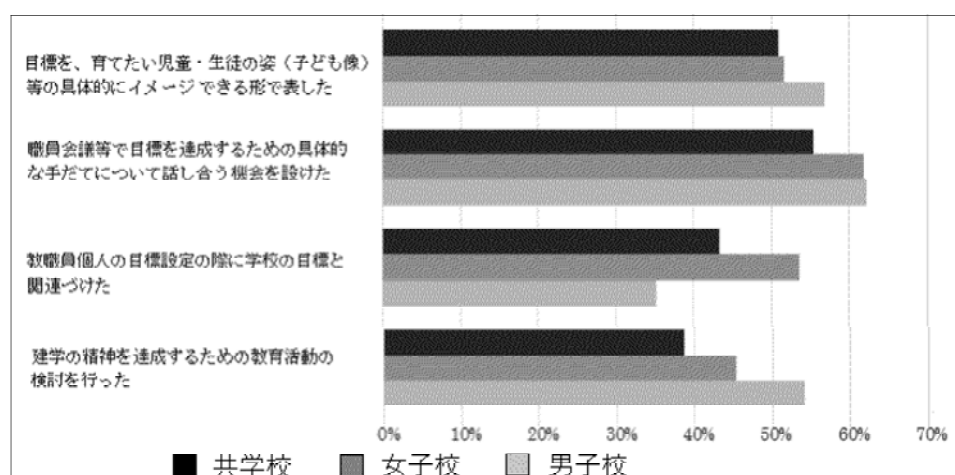
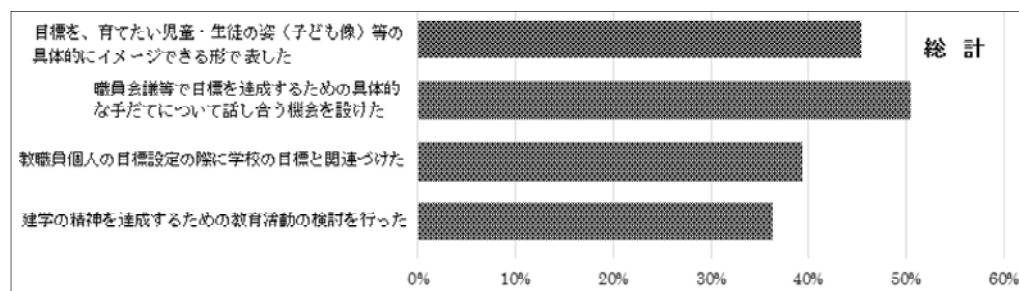
イ. 目標を共有するために行った工夫

イー 1 目標（重点目標・年度目標・達成目標など）を共有するために行った工夫について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 目標を、育てたい児童・生徒の姿（子ども像）等の具体的にイメージできる形で表した
- ②. 職員会議等で目標を達成するための具体的な手だてについて話し合う機会を設けた
- ③. 教職員個人の目標設定の際に学校の目標と関連づけた
- ④. 建学の精神を達成するための教育活動の検討を行った
- ⑤. その他 ※「⑤.その他」の主な内容を記入してください。

イー 2 調査結果の集計

目標（重点目標・年度目標・達成目標など）を共有するために行った工夫	計	男子校	女子校	共学校
①. 目標を、育てたい児童・生徒の姿（子ども像）等の具体的にイメージできる形で表した	45.31 %	56.76 %	51.55 %	50.85 %
②. 職員会議等で目標を達成するための具体的な手だてについて話し合う機会を設けた	50.36 %	62.16 %	61.86 %	55.37 %
③. 教職員個人の目標設定の際に学校の目標と関連づけた	39.35 %	35.14 %	53.61 %	43.22 %
④. 建学の精神を達成するための教育活動の検討を行った	36.28 %	54.05 %	45.36 %	38.70 %



⑤. その他の主な内容

- ・各分掌、担当者で検討した。
- ・管理職によりアンケート結果から目標を設定し内外に公表
- ・委員会を組織して検討し、具体化についての提案をした。
- ・職員研修(授業研修)－目標に沿った授業
- ・各年度はじめに作成する「教育経営計画」の中に設定した達成目標、手立てに基づいて各分掌でその達成感を評価した。
- ・学校の教育目標に沿って、各校務分掌において達成目標を定めた。
- ・生徒募集
- ・総合的学校運営および教育改善
- ・教員研修会の実施
- ・前年度から準備を開始し今年度でサイクルに持つて行くため重点目標等は今年度に決定する
- ・経営改善のための目標と関連づけた。
- ・学科コース教育目標および校務分掌における各部目標評価
- ・これまでの校務と関連づけ、重複を削るような見直しを実施中
- ・具体的手立ての話し合いは委員会ワーキング・グループで現在検討中

イー３ 調査結果の分析

目標（重点目標・年度目標・達成目標など）を共有するために行った工夫については、一番多かったのは、「②. 職員会議等で目標を達成するための具体的な手だてについて話し合う機会を設けた」であった。

すべての項目、

- ①. 目標を、育てたい児童・生徒の姿（子ども像）等の具体的にイメージできる形で表した
- ②. 職員会議等で目標を達成するための具体的な手だてについて話し合う機会を設けた
- ③. 教職員個人の目標設定の際に学校の目標と関連づけた
- ④. 建学の精神を達成するための教育活動の検討を行った

で大きな差異はなく、学校評価を活かすべくすべての項目で工夫している学校が多いのであろう。

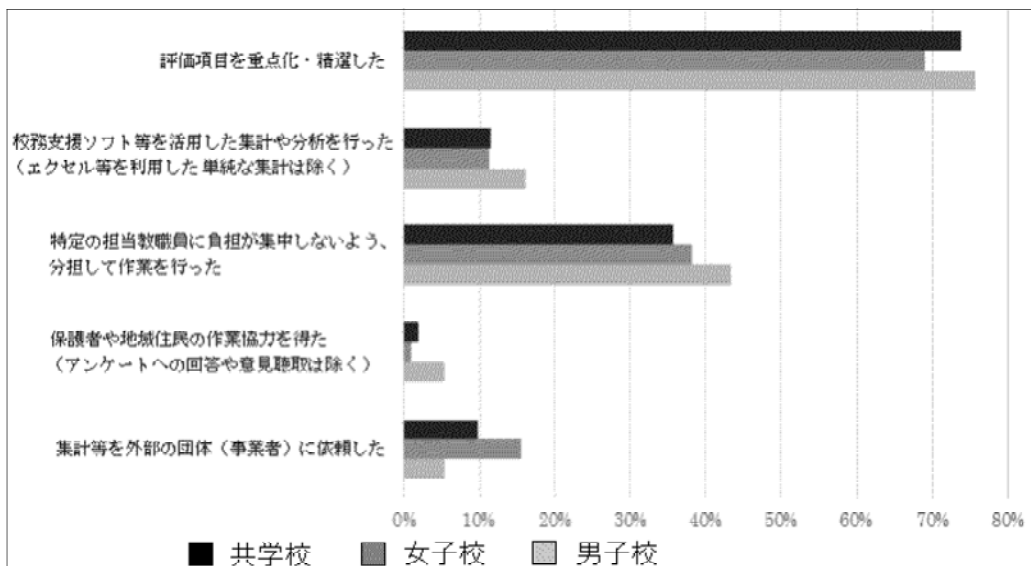
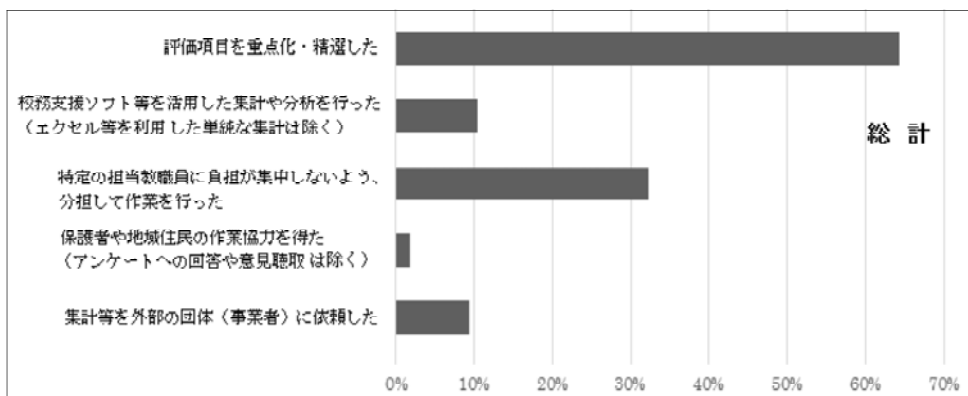
ウ. 勤務負担を軽減するために行った工夫

ウー１ 学校評価の実施に伴う勤務負担を軽減するために行った工夫について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 評価項目を重点化・精選した
- ②. 校務支援ソフト等を活用した集計や分析を行った（エクセル等を利用した単純な集計は除く）
- ③. 特定の担当教職員に負担が集中しないよう、分担して作業を行った
- ④. 保護者や地域住民の作業協力を得た（アンケートへの回答や意見聴取は除く）
- ⑤. 集計等を外部の団体（事業者）に依頼した
- ⑥. その他 ※ 「⑥. その他」の主な内容を記入してください。

ウー２ 調査結果の集計

学校評価の実施に伴う勤務負担を軽減するために行った工夫	計	共学校	女子校	男子校
①. 評価項目を重点化・精選した	64.26 %	73.73 %	69.07 %	75.68 %
②. 校務支援ソフト等を活用した集計や分析を行った(エクセル等を利用した単純な集計は除く)	10.47 %	11.58 %	11.34 %	16.22 %
③. 特定の担当教職員に負担が集中しないよう、分担して作業を行った	32.31 %	35.59 %	38.14 %	43.24 %
④. 保護者や地域住民の作業協力を得た(アンケートへの回答や意見聴取は除く)	1.81 %	1.98 %	1.03 %	5.41 %
⑤. 集計等を外部の団体(事業者)に依頼した	9.39 %	9.89 %	15.46 %	5.41 %



⑥. その他の主な内容

- ・すべて教頭が行うことで教員の負担をなくした。
- ・教頭が集計し、校長が評価を行った。 ・授業評価の集計、分析は業者に委託した。
- ・アンケートの集計はマーク式を採用、機械集計した。
- ・コンピュータで保護者がデータを打ち込み自動集計
- ・授業評価については、生徒のアンケートを中心にして、集計・分析は特定の業者に依頼した。
- ・大学全体(大学付属校)としての取り組みがなされており、本部一括で集計、結果などを集約、一部冊子として記録される。

- ・単純集計作業にアルバイトを雇った。
- ・初めてアンケートによる調査を行ったが、設問の立て方に問題を見つけたので、今年度のアンケートに生かす予定
- ・学校(法人)事務局が担当する。学校は配布・回収のみ
- ・自己評価アンケートをパソコン入力とし、データ集計をコンピュータ化しているが、負担軽減につながっているとは思えない。
- ・作業のＯＡ化、業務の分担化 ・マークシートの利用 ・授業評価のみ
- ・管理職が集計した。 ・集計は法人で実施 ・内容変更を抑える。
- ・担当を１名とした。 ・特に行っていない。

ウー３ 調査結果の分析

学校評価の実施に伴う勤務負担を軽減するために行った工夫については、「評価項目を重点化・精選した」が、総計では65％で一番多く、内容を精選している。次は、「特定の担当教職員に負担が集中しないよう、分担して作業を行った」が、32％であり、担当者に集中しがちであることへの配慮をしていることが伺える。

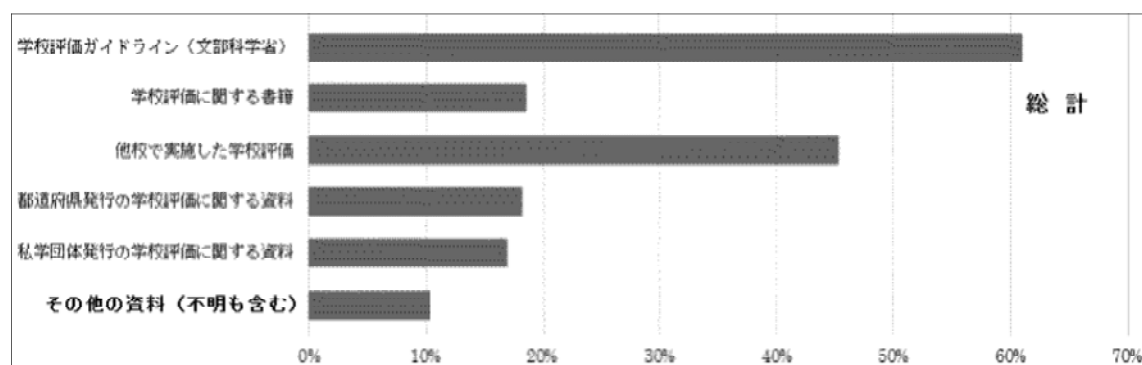
エ. 使用した参考資料

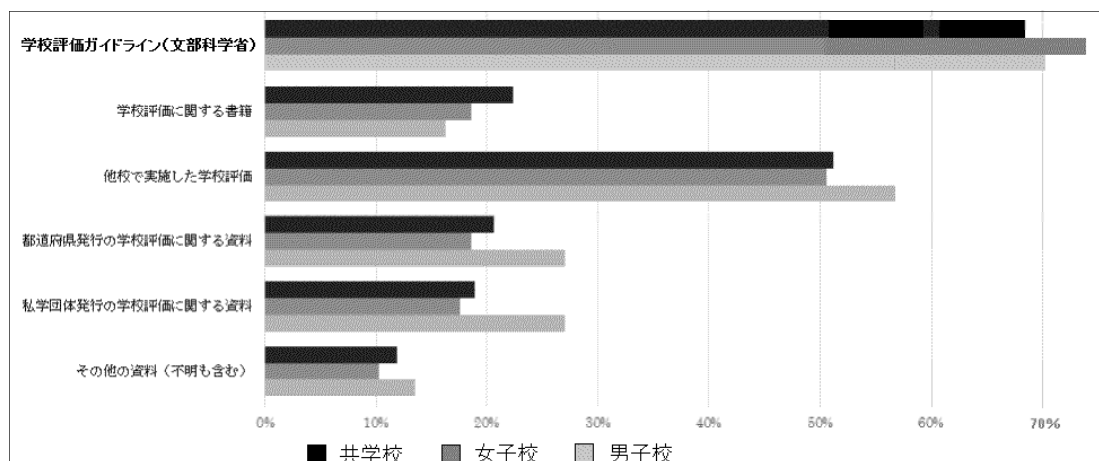
エー１ 学校評価を実施するために、どのような参考資料を使いましたか。(複数回答可)

- ①. 学校評価ガイドライン（文部科学省）
- ②. 学校評価に関する書籍
- ③. 他校で実施した学校評価
- ④. 都道府県発行の学校評価に関する資料
- ⑤. 私学団体発行の学校評価に関する資料
- ⑥. その他の資料（不明も含む）

エー２ 調査結果の集計

使用した資料	計	共学校	女子校	男子校
①. 学校評価ガイドライン（文部科学省）	61.01 %	68.08 %	73.20 %	70.27 %
②. 学校評価に関する書籍	18.59 %	22.32 %	18.56 %	16.22 %
③. 他校で実施した学校評価	45.31 %	51.13 %	50.52 %	56.76 %
④. 都道府県発行の学校評価に関する資料	18.23 %	20.62 %	18.56 %	27.03 %
⑤. 私学団体発行の学校評価に関する資料	16.97 %	18.93 %	17.53 %	27.03 %
⑥. その他の資料（不明も含む）	10.29 %	11.86 %	10.31 %	13.51 %





エー３ 調査結果の分析

学校評価を実施するために、どのような参考資料を使用しましたか。

学校評価ガイドライン(文部科学省) …61.01 % 他校で実施した学校評価…45.31 %
 学校評価に関する書籍…18.59 % 都道府県発行の学校評価に関する資料……18.23 %
 であり、学校評価ガイドライン(文部科学省)が最も活用されている。「他校で実施した学校評価」が45.31%が上位にきており、この事例集の充実が今後の課題である。

オ. 参考にした学校評価に関する研修会等

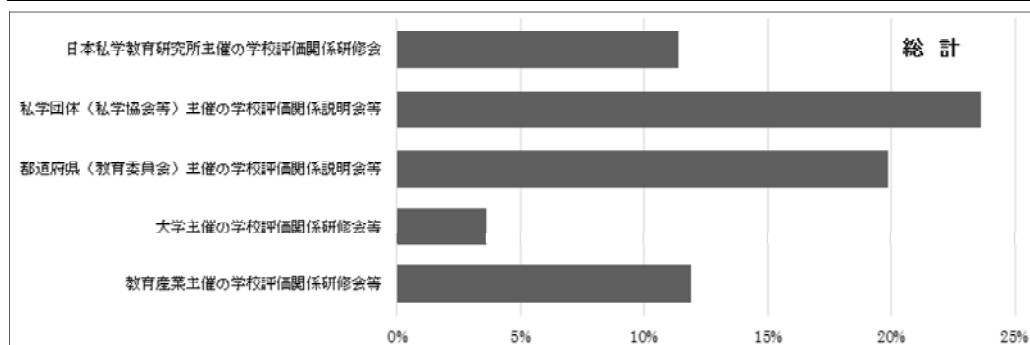
オー１ 学校評価実施にあたって、学校評価に関する研修会(説明会)を参考にされましたか。

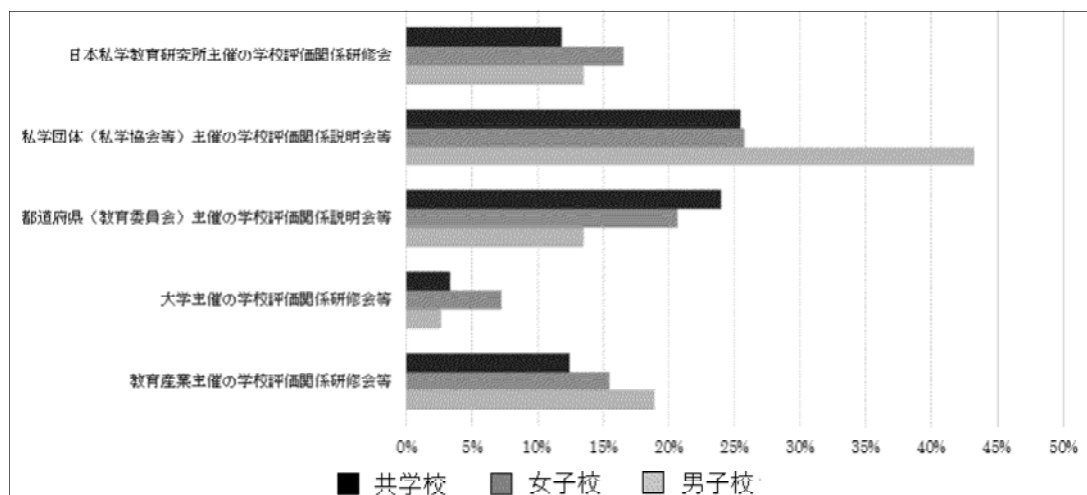
(複数回答可)

- ①. 日本私学教育研究所主催の学校評価関係研修会
- ②. 私学団体(私学協会等)主催の学校評価関係説明会等
- ③. 都道府県(教育委員会)主催の学校評価関係説明会等
- ④. 大学主催の学校評価関係研修会等
- ⑤. 教育産業主催の学校評価関係研修会等

オー２ 調査結果の集計

参考にした学校評価に関する研修会等	計	共学校	女子校	男子校
①. 日本私学教育研究所主催の学校評価関係研修会	11.37 %	11.86 %	16.49 %	13.51 %
②. 私学団体(私学協会等)主催の学校評価関係説明会等	23.65 %	25.42 %	25.77 %	43.24 %
③. 都道府県(教育委員会)主催の学校評価関係説明会等	19.86 %	24.01 %	20.62 %	13.51 %
④. 大学主催の学校評価関係研修会等	3.61 %	3.39 %	7.22 %	2.70 %
⑤. 教育産業主催の学校評価関係研修会等	11.91 %	12.43 %	15.46 %	18.92 %





オー 3 調査結果の分析

学校評価実施にあたって、学校評価に関する研修会（説明会）を参考したかについて、

- ・私学団体（私学協会等）主催の学校評価関係説明会等……23.65 %
- ・都道府県（教育委員会）主催の学校評価関係説明会等……19.86 %
- ・教育産業主催の学校評価関係研修会等……11.91 %
- ・日本私学教育研究所主催の学校評価関係研修会……11.37 %

であった。私学団体による研修が参考になっていることが示唆される。

2. 自己評価について

ア. 実施状況

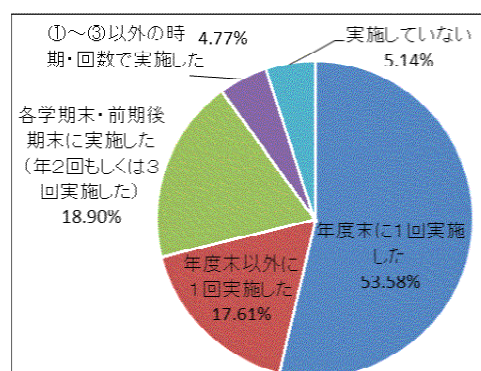
アー 1 自己評価の実施（法令上の義務）状況について、次より1つ選んでください。

- ①. 年度末に1回実施した（→以下イ、～ク、について、回答してください）
- ②. 年度末以外に1回実施した（→以下イ、～ク、について、回答してください）
- ③. 各学期末・前期後期末に実施した（年2回もしくは3回実施した）
（→以下イ、～ク、について、回答してください）
- ④. ①～③以外の時期・回数で実施した（→以下イ、～ク、について、回答してください）
- ⑤. 実施していない（→以下、3. 学校評価について、回答してください）

※ 「⑤. 実施していない」主な理由を記入してください。

アー 2 調査結果の集計

自己評価の実施状況	計
①. 年度末に1回実施	53.58 %
②. 年度末以外に1回実施	17.61 %
③. 各学期末・前期後期末に実施	18.90 %
④. ①～③以外の時期・回数で実施	4.77 %
⑤. 実施していない	5.14 %



⑤. 実施していない主な理由

- ・次年度の校務希望申請用紙の提出及び校長との面談をもって代えている。
- ・創立以来、本校は教職員全員が一つになって教育に邁進してきた。そのため当初、自己評価について必要性を感じられなかったが、現在実施を前提に検討している。
- ・記述式で改善点を挙げてもらうため、評価とは言えないのではと考える。
- ・通常業務の中で日常的に「自己評価」に近いことを行っている。外部に公表するような形では行っていない。
- ・課題が次々と発生し重点目標が立てづらい。
- ・現在、学校評価委員会を立ち上げ、学校評価の実施に向けて検討中
- ・文科省が定める内容での自己評価は実施していないが、各教職員が学校目標に対する取り組みやその成果を数値で個々に評価している。来年度には文科省が定める内容での実施を検討する。
- ・各人が自己評価で必要に応じて節目等で実施しているから
- ・現在実施に向けて評価項目を検討している段階である。全教員に対して授業評価だけは実施している。
- ・日頃から意思疎通ができていていると思っている。 ・次年度以降の実施に向けて準備中です。
- ・目標達成に向けた評価項目、指標を十分に精選することができていないため
- ・自己評価に値する必要な取り組みや達成状況についての評価は、職員会議等で共有しているため
- ・授業に関する自己評価を実施している。
- ・現在検討中 ・今年度から実施します。
- ・平成25年度の年度末に実施予定。 ・まだ実施していません。

ア－3 調査結果の分析

自己評価の実施状況について調査した。時期を問わずに実施している学校は、94.86%であるが、実施していない学校が5.14%あることが分かった。

実施していない理由としては、学校評価（自己評価）についての理解や研修等が不足していたと考えられる。学校評価アンケートの回答に添えてのお手紙には、「学校評価、私立はあまり対応しなくても良いのでは・・・と情報が、一部??県下では流れていたもので、ゆっくりしていた次第です」と記述されていた。このことから、研修会等による周知徹底が重要である。

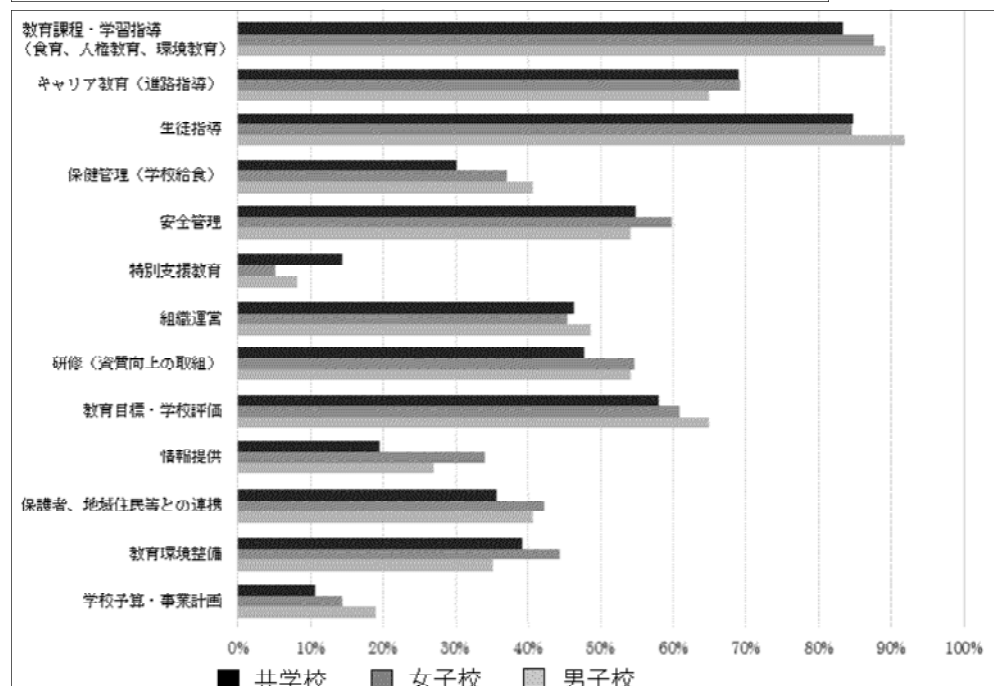
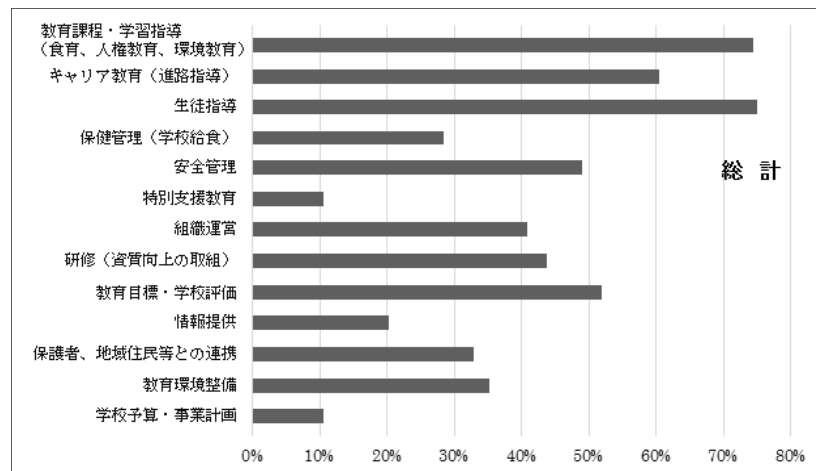
イ. 評価項目（小項目）

イ－1 自己評価の評価項目（小項目）について、次より選んでください。（複数回答可）

- | | | |
|----------------------------|--------------|---------------|
| ①. 教育課程・学習指導（食育、人権教育、環境教育） | | |
| ②. キャリア教育（進路指導） | ③. 生徒指導 | ④. 保健管理（学校給食） |
| ⑤. 安全管理 | ⑥. 特別支援教育 | ⑦. 組織運営 |
| ⑧. 研修（資質向上の取組） | ⑨. 教育目標・学校評価 | ⑩. 情報提供 |
| ⑪. 保護者、地域住民等との連携 | ⑫. 教育環境整備 | ⑬. 学校予算・事業計画 |

イー２ 調査結果の集計

自己評価の評価項目（小項目）	計	共学校	女子校	男子校
①. 教育課程・学習指導（食育、人権教育、環境教育）	74.55 %	83.33 %	87.63 %	89.19 %
②. キャリア教育（進路指導）	60.47 %	68.93 %	69.07 %	64.86 %
③. 生徒指導	75.09 %	84.75 %	84.54 %	91.89 %
④. 保健管理（学校給食）	28.52 %	30.23 %	37.11 %	40.54 %
⑤. 安全管理	49.10 %	54.80 %	59.79 %	54.05 %
⑥. 特別支援教育	10.65 %	14.41 %	5.15 %	8.11 %
⑦. 組織運営	40.79 %	46.33 %	45.36 %	48.65 %
⑧. 研修（資質向上の取組）	43.68 %	47.74 %	54.64 %	54.05 %
⑨. 教育目標・学校評価	51.99 %	57.91 %	60.82 %	64.86 %
⑩. 情報提供	20.22 %	19.49 %	34.02 %	27.03 %
⑪. 保護者、地域住民等との連携	32.85 %	35.59 %	42.27 %	40.54 %
⑫. 教育環境整備	35.20 %	39.27 %	44.33 %	35.14 %
⑬. 学校予算・事業計画	10.65 %	10.73 %	14.43 %	18.92 %



イー３ 調査結果の分析

自己評価の評価項目（小項目）については、

- ・生徒指導…… 75.09 % ・教育課程・学習指導（食育、人権教育、環境教育）… 74.55 %
- ・キャリア教育（進路指導）……… 60.47 % ・教育目標・学校評価……… 51.99 %
- ・安全管理……… 49.10 %

などの順であった。

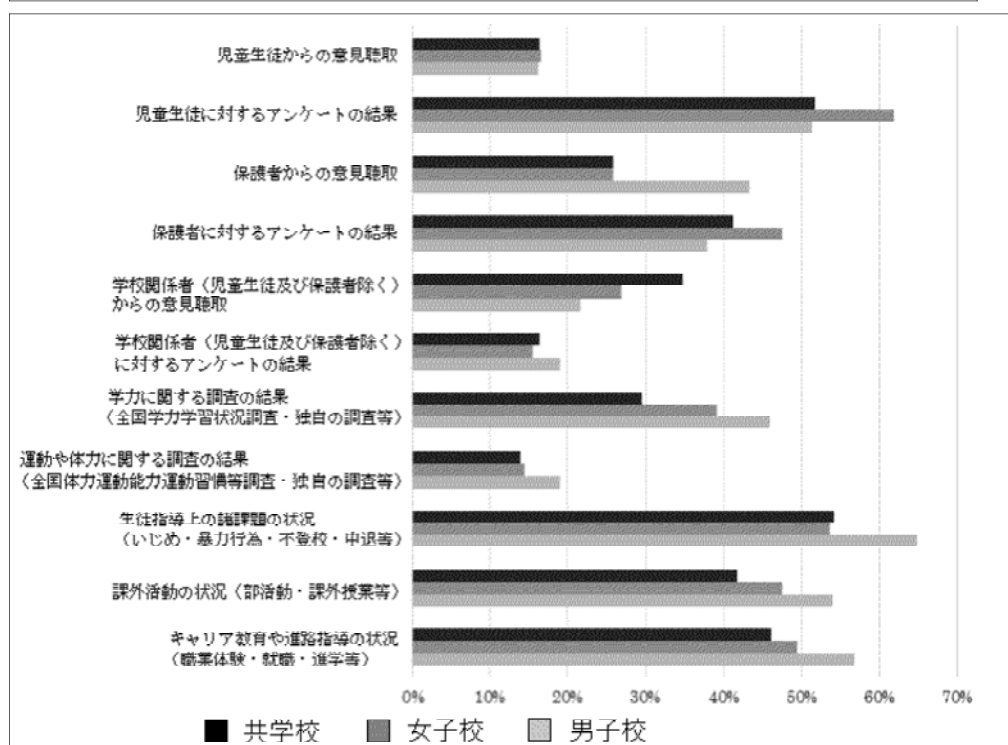
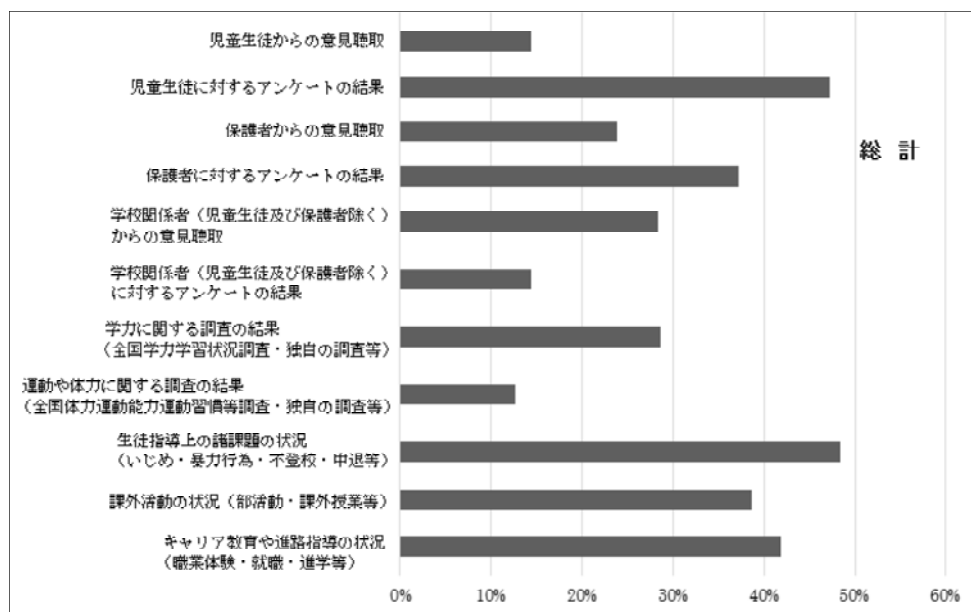
ウ. 評価指標として利用したもの

ウー１ 自己評価を実施するにあたり評価指標として利用したものについて、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 児童生徒からの意見聴取
- ②. 児童生徒に対するアンケートの結果
- ③. 保護者からの意見聴取
- ④. 保護者に対するアンケートの結果
- ⑤. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）からの意見聴取
- ⑥. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）に対するアンケートの結果
- ⑦. 学力に関する調査の結果（全国学力学習状況調査・独自の調査等）
- ⑧. 運動や体力に関する調査の結果（全国体力運動能力運動習慣等調査・独自の調査等）
- ⑨. 生徒指導上の諸課題の状況（いじめ・暴力行為・不登校・中退等）
- ⑩. 課外活動の状況（部活動・課外授業等）
- ⑪. キャリア教育や進路指導の状況（職業体験・就職・進学等）

ウー２ 調査結果の集計

評価指標として利用したもの	計	共学校	女子校	男子校
①. 児童生徒からの意見聴取	14.44 %	16.38 %	16.49 %	16.22 %
②. 児童生徒に対するアンケートの結果	47.29 %	51.69 %	61.86 %	51.35 %
③. 保護者からの意見聴取	23.83 %	25.71 %	25.77 %	43.24 %
④. 保護者に対するアンケートの結果	37.18 %	41.24 %	47.42 %	37.84 %
⑤. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）からの意見聴取	28.34 %	34.75 %	26.80 %	21.62 %
⑥. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）に対するアンケートの結果	14.44 %	16.38 %	15.46 %	18.92 %
⑦. 学力に関する調査の結果（全国学力学習状況調査・独自の調査等）	28.70 %	29.38 %	39.18 %	45.95 %
⑧. 運動や体力に関する調査の結果（全国体力運動能力運動習慣等調査・独自の調査等）	12.64 %	13.84 %	14.43 %	18.92 %
⑨. 生徒指導上の諸課題の状況（いじめ・暴力行為・不登校・中退等）	48.38 %	54.24 %	53.61 %	64.86 %
⑩. 課外活動の状況（部活動・課外授業等）	38.63 %	41.81 %	47.42 %	54.05 %
⑪. キャリア教育や進路指導の状況（職業体験・就職・進学等）	41.88 %	46.05 %	49.48 %	56.76 %



ウー 3 調査結果の分析

自己評価を実施するにあたり評価指標として利用したものについては、下記の順であった。

- ・生徒指導上の諸課題の状況（いじめ・暴力行為・不登校・中退等）…………… 48.38%
- ・児童生徒に対するアンケートの結果…………… 47.29%
- ・キャリア教育や進路指導の状況（職業体験・就職・進学等）…………… 41.88%
- ・課外活動の状況（部活動・課外授業等）…………… 38.63%
- ・保護者に対するアンケートの結果…………… 37.18%
- ・学力に関する調査の結果（全国学力学習状況調査・独自の調査等）…………… 28.70%
- ・学校関係者（児童生徒及び保護者除く）からの意見聴取…………… 28.34%
- ・保護者からの意見聴取…………… 23.83%

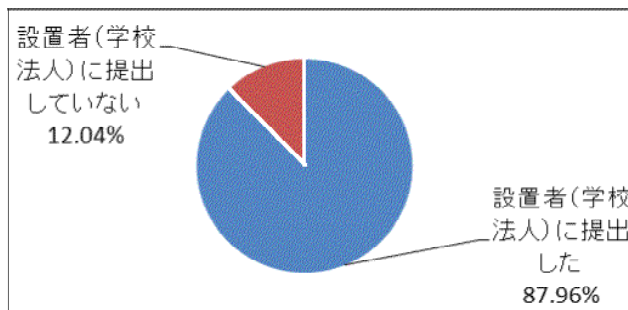
エ. 評価結果の設置者への報告

エー 1 自己評価結果の設置者への報告（法令上の義務）について、次より一つ選んでください。

- ①. 設置者（学校法人）に提出した
- ②. 設置者（学校法人）に提出していない

エー 2 調査結果の集計

自己評価結果の設置者への報告	計
①. 設置者（学校法人）に提出した	87.96 %
②. 設置者（学校法人）に提出していない	12.04 %



エー 3 調査結果の分析

自己評価結果の設置者への報告（法令上の義務）については、「設置者（学校法人）に提出した」が 87.96%、「設置者（学校法人）に提出していない」が 12.04%であった。設置者（学校法人）に報告していない理由であるが、学校法人は学校経営（経理会計）を主体に活動しており、教育学習活動は学校の教職員に任されていることであろうか。学校の総合マネジメント力の強化と言う観点からすると、この点は将来への課題である。

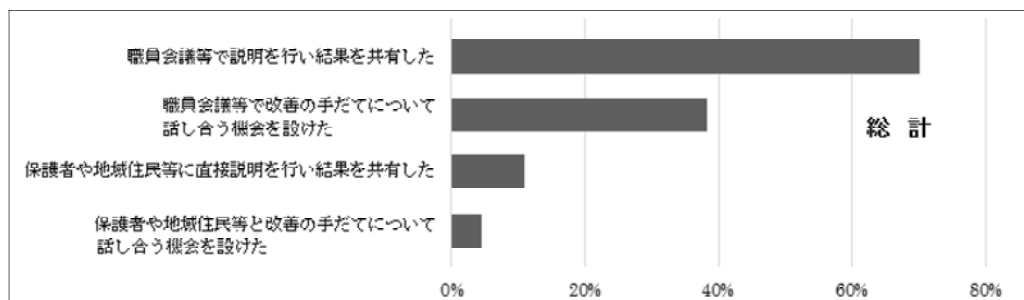
オ. 評価結果の活用方法

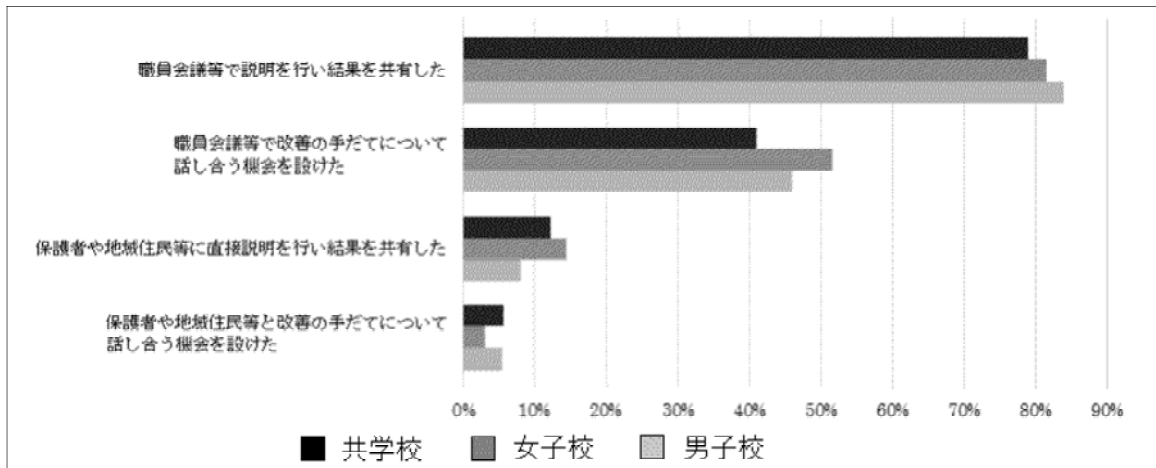
オー 1 自己評価の結果の活用方法について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 職員会議等で説明を行い結果を共有した
- ②. 職員会議等で改善の手だてについて話し合う機会を設けた
- ③. 保護者や地域住民等に直接説明を行い結果を共有した
- ④. 保護者や地域住民等と改善の手だてについて話し合う機会を設けた
- ⑤. その他 ※ 「⑤. その他」の主な内容を記入してください。

オー 2 調査結果の集計

自己評価の結果の活用方法	計	共学校	女子校	男子校
①. 職員会議等で説明を行い結果を共有した	70.22 %	78.81 %	81.44 %	83.78 %
②. 職員会議等で改善の手だてについて話し合う機会を設けた	38.27 %	40.96 %	51.55 %	45.95 %
③. 保護者や地域住民等に直接説明を行い結果を共有した	10.83 %	12.15 %	14.43 %	8.11 %
④. 保護者や地域住民等と改善の手だてについて話し合う機会を設けた	4.51 %	5.65 %	3.09 %	5.41 %





⑤. その他の主な内容

- ・ 学園ホームページに事業報告の一部として掲げた。
 - ・ 学校運営評議会に報告、委員から意見を聴取した。
 - ・ 年度末の保護者会で結果説明を行い、一部の保護者と直接意見交換して、次年度の経営計画の立案に生かした。
 - ・ ホームページに学校評価コンテンツを設け、概要を公開。
 - ・ 自己評価内容に応じ管理者との面談を実施し、確認・改善の機会とした。(但し、一部教職員)
 - ・ 管理者による面談を実施 (一部の教員)。
 - ・ 評価運営委員会を毎月第一月曜日に開催し、改善の手だてにしている。
 - ・ 学校長との個別面談を実施。
 - ・ 年2回、管理職による個人面談を実施した。
 - ・ 教員個人面談の材料の1つとした。
 - ・ 職員室内で閲覧できるようにした。
 - ・ 学校関係者評価の委員会での評価につなげた。
 - ・ 学校評価委員会に諮った。
 - ・ 説明や話し合いの機会は設けていない。
 - ・ 学校関係者評価委員会での討議資料とした。
 - ・ 各課、学年会にて評価の低い項目について改善するための話し合う機会を設けた。
 - ・ アンケートの結果などを冊子としてまとめパンフレットなどと共に配布できるようにしたりして、いつでも見ていただけるようにした。
 - ・ 結果を生徒、保護者に公表した。
 - ・ 今年度より実施のため、評価の結果を集計していない。
- | | | |
|---------------|-----------------|-----------------|
| ・ 管理職との面談時の資料 | ・ 書面で全教職員に配布 | ・ 管理職からの指導助言 |
| ・ 管理職が理解している。 | ・ ホームページ上で公開した。 | ・ 保護者に文書にて通知 |
| ・ 必要に応じ、個別に対応 | ・ 学校長による面接 | ・ 読みたい人が読む。 |
| ・ 集計結果を配付 | ・ 評議委員会への報告 | ・ 冊子にして教職員に配布 |
| ・ 自己研鑽 | ・ 校長面談 | ・ 活用なし (現在のところ) |

オー 3 調査結果の分析

自己評価の結果の活用方法については、

- ・職員会議等で説明を行い結果を共有した……………70.22%
- ・職員会議等で改善の手だてについて話し合う機会を設けた……………38.27%
- ・保護者や地域住民等に直接説明を行い結果を共有した……………10.83%

教職員で共有し改善点を考え、保護者や地域住民と共有して方向を定めることに努めている。

カ. 保護者や地域住民等への公表の方法

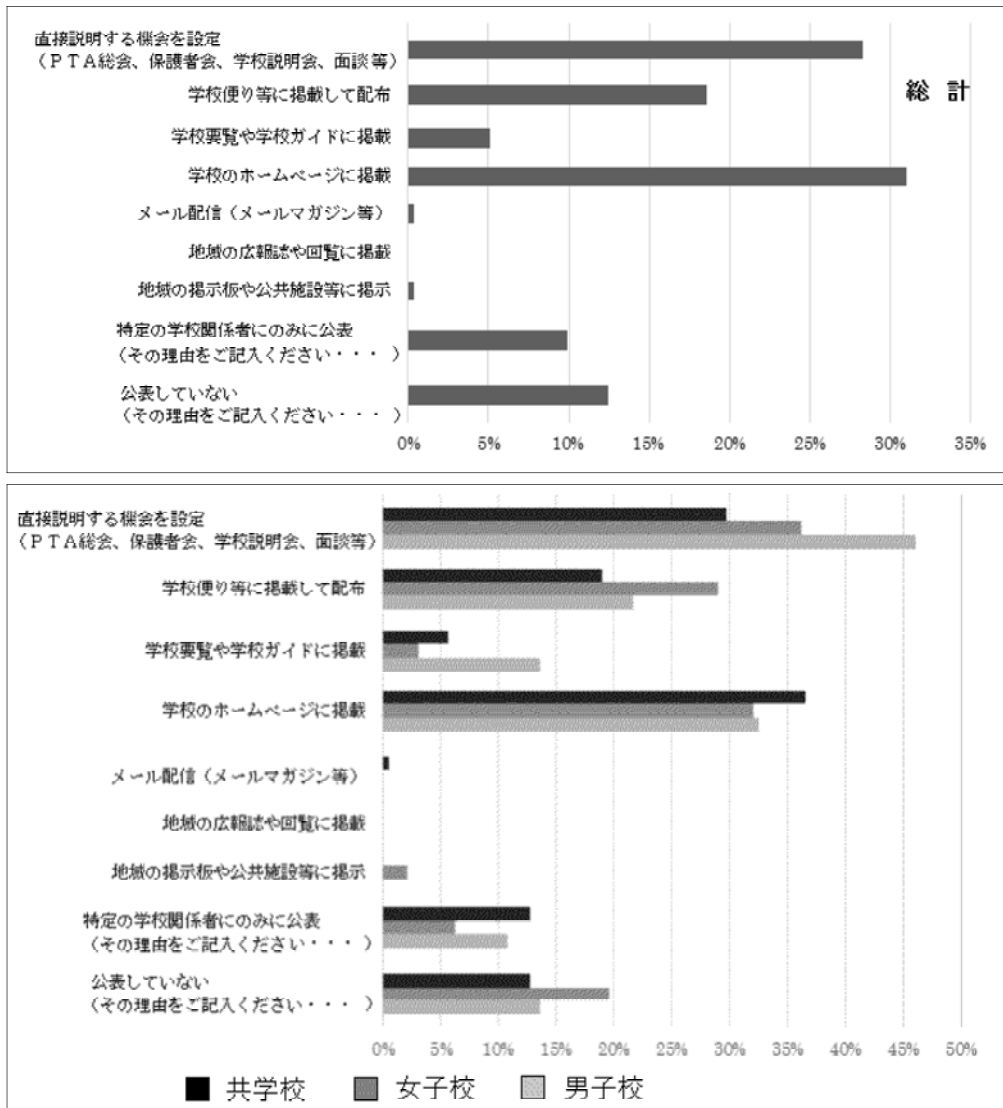
カー 1 自己評価結果の保護者や地域住民等への公表（法令上の義務）の方法について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 直接説明する機会を設定（PTA総会、保護者会、学校説明会、面談等）
- ②. 学校便り等に掲載して配布
- ③. 学校要覧や学校ガイドに掲載
- ④. 学校のホームページに掲載
- ⑤. メール配信（メールマガジン等）
- ⑥. 地域の広報誌や回覧に掲載
- ⑦. 地域の掲示板や公共施設等に掲示
- ⑧. 特定の学校関係者にのみに公表（その理由をご記入ください・・・）
- ⑨. 公表していない（その理由をご記入ください・・・）

※⑧. または⑨. を選択する場合は1つのみ選んでください。

カー 2 調査結果の集計

保護者や地域住民への公表の方法	計	共学校	女子校	男子校
①. 直接説明する機会を設定 （PTA総会、保護者会、学校明会、面談等）	28.34 %	29.66 %	36.08 %	45.95 %
②. 学校便り等に掲載して配布	18.59 %	18.93 %	28.87 %	21.62 %
③. 学校要覧や学校ガイドに掲載	5.05 %	5.65 %	3.09 %	13.51 %
④. 学校のホームページに掲載	31.05 %	36.44 %	31.96 %	32.43 %
⑤. メール配信（メールマガジン等）	0.36 %	0.56 %	0.00 %	0.00 %
⑥. 地域の広報誌や回覧に掲載	0.00 %	0.00 %	0.00 %	0.00 %
⑦. 地域の掲示板や公共施設等に掲示	0.36 %	0.00 %	2.06 %	0.00 %
⑧. 特定の学校関係者にのみに公表 （その理由をご記入ください・・・）	9.93 %	12.71 %	6.19 %	10.81 %
⑨. 公表していない （その理由をご記入ください・・・）	12.45 %	12.71 %	19.59 %	13.51 %



⑧.「特定の学校関係者のみに公表」の理由

- ・全評価項目を発表すると大部なものとなるため、一部を公開している。
- ・一般には公表しづらい評価項目もあるため
- ・私立学校であるため、理事、評議員等に限定した
- ・学校関係者に対するアンケートしか行っていないため
- ・理事会、評議員会で報告
- ・実施年数が浅く完成度が低いため学園理事会で報告することで現在は十分であると考えられる。
- ・まだ研究途上であるため
- ・第三者からの意見を取り入れたものではないため
- ・現在、校内での学校運営のみの利用としている。外部への公表を検討中である。
- ・理事を含めた運営会議(各校校長・教頭で組織された幼稚園～高校の会議)にて報告をした。
- ・年度末に理事会及び評議員会があり、その会において公表している。
- ・学校評価がまだ自己評価の枠内にとどまっているため、現状では評議員会が保護者組織の本部役員会のレベルでの公表にとどめている。
- ・自己評価を含めた形での学校評価を実施しており、その評価者が、特定の学校関係者であるため

- ・学校関係者評価委員会（保護者、学校評議委員、地域の人々など学校に関わりのある方々によって構成されている）で報告し、ご意見をいただき、改善につとめている。
- ・勤務評価として用いる色彩が濃い
- ・校内職員、法人関係者及び学校関係者評価委員への周知で充分と考える。
- ・日頃から保護者や地域の方と十分に意思疎通の機会を設け、理解と協力を得られているため
- ・学校評議員には保護者も含まれており、評議員に公表することが、学校評価公表先としての出発点であり、かつ有効なフィードバックが成され得ると考えられるから
- ・後援会評議委員会で説明、保護者の代表に聞いていただいている。
- ・校内掲示板に掲示公開のため、学校に出入りする限られた関係者への公開となっている。
- ・学校の中長期の運営目標の策定や年度ごとの教育方針を定める上での資料としての意味合いを持たせているため
- ・法人が保護者への公表についての判断を下していない段階であるので、学校関係者にとどめている。
- ・ホームページに掲載して、一般に公表する予定であったが、準備不足のためにできなかった。
- ・他私学の状況をみて、学校モニターの範囲に留めた。
- ・生徒や保護者対象の意識調査等が十分実施できていないままの、教職員だけの自己評価になっており、対象を限定しない公表により齟齬をきたす恐れがあるため
- ・日頃から保護者や地域住民等とは、十分に意思疎通ができているため
- ・私学として、児童や保護者から常に評価を受けているため
- ・全体に公表する段階ではないと判断、PTA本部役員に公表、意見を聞いた。
- ・グループ校の他の一貫教育校、担当理事間で公表しあい、討議することで、改善点などを相互に収集することができるため
- ・今年度より実施し、試用期間と位置づけているため、学校評価委員会（第三者を含む）以外公開いたしませんでした。
- ・自己評価を開始し、まだ数年目である。まずは教員が自校について評価し認識を共有しあうことが必要と感じ、教員会議と理事・評議委員会でのみ発表というかたちをとっている。
- ・自己評価が本校教育の改善につながることを主な目的としているため
- ・評価委員会を設置しその委員会に公表したため
- ・誤解を招かないように説明してから配付するため
- ・個々の目標達成状況や取組状況を責任者（特定の学校関係者）が知っておくのは当然で改善方策を検討していかなければならないので
- ・ホームページに掲載するかどうかを検討中である。
- ・私学として常に生徒や保護者から評価を受けているため
- ・学校関係者評価として実施
- ・PTA総会ではなく、実行委員での報告にとどまっている。
- ・主に校内で学校改善に活用するため
- ・学校評議員、学校関係者評価委員に説明し、意見等をいただくため
- ・特に必要としないため
- ・公表法令上の義務に対する認識不足 ・説明不十分による誤解を避けるため
- ・必要性が乏しいため ・PTA役員に説明 ・法人への報告のみ実施
- ・大学の付属機関である ・校内掲示 ・検討中 ・①～⑦の機会がなかったため

⑨. 「公表していない」の理由

- ・保護者への公表がより建設的な学校改善へ結びつくとは考えにくい
- ・毎年6月にオープンクラスウィークを実施し、教員間での評価を行っている。また、年数回のクラス学級保護者会が開催され、必要に応じてフィードバックを行っている。
- ・理事会及び評議員に報告しているため
- ・学内での活用で良いと判断している。
- ・学園の都合による。
- ・特になし
- ・公表に適さない。
- ・公表については今後の検討課題
- ・時期尚早と判断したため
- ・公表に向けての全体のコンセンサスがまだ不十分なため
- ・一部のみ公表（学校便り等）自己評価を公表して実施していないため
- ・特別な理由はありません。ホームページ等に掲載予定
- ・学校では公表していないが法人本部が設置校をとりまとめて公表している。
- ・今後、検討する予定
- ・学校関係者評価と合わせて実施方法を準備、検討中のため
- ・外部への公表の方法を検討中
- ・校内での結果共有を優先しすぎたため。次年度改善
- ・評価項目が本校独自の様式内容であり、公表は目的としていない。
- ・体制を整えていない。
- ・学校評価の内容には、私立学校独自の経営施策や運営上の問題点等が含まれるため、公表することが父兄等学校関係者共通の期待に反する場合がある。
- ・直接質問等があった場合は開示又は説明を行う。（職員の個人情報保護のため、問題点のないものについては公表している。下記キ）
- ・関係者からの申込がある場合
- ・学校が自己評価に対する整備中であり公表まで至っていない。
- ・特に必要と思わないから
- ・公表のタイミングを逃してしまった。
- ・繁忙のため
- ・どのような形で公表するか具体案（計画）ができ上がっていないので公表していない。計画が具体化すればすぐにでも公表できる。作業が遅れている。
- ・現在検討中 ・公表する方法を検討中 ・保護者への公表は検討中
- ・学園の都合による。
- ・公表できる段階ではないと判断
- ・特になし（校内の共有で充分）
- ・教科のアンケート結果を（分析も加え）をホームページで公表したが、ページ数が多すぎるため、考慮中
- ・評価結果だけがひとり歩きをして学校のイメージがつくられることを恐れているから
- ・公表するに際しての、職員間の相互理解が十分になされていないため
- ・公表する段階ではないので

- ・あくまでも教職員による自己評価であり、結果をもとに改善すべき課題を検討する資料として活用することを前提としているので、公表する資料には適していないと考える。
- ・ホームページ等で公表する方向で検討中
- ・十分な形で実施していると言えないため
- ・自己研鑽・資質向上に活用する目的のため
- ・校長先生のご判断
- ・次年度に向け公表する準備をしています。
- ・準備・検討中のため
- ・今年度からの実施のため、公表については、これから検討していく。
- ・今年度以降、公表の方法を検討
- ・個人情報に関する部分があるので
- ・ホームページへの掲載を考えている。
- ・全体が70ページにも及ぶもので例えばPDFファイルにしてネット上に公開する場合の負担を誰が負うか問題となるため、また保護者が読むことを希望しているとも思えない。全校生徒の学校に対するアンケート結果は、後援会評議員会で公表している。
- ・本人の成長、反省のために使う。
- ・自己評価の方法が未だ稚拙であるから

カー 3 調査結果の分析

自己評価結果の保護者や地域住民等への公表（法令上の義務）の方法については、

- ・公表していない（その理由をご記入ください・・・）…………… 12.45 %
- ・学校のホームページに掲載…………… 31.05 %
- ・直接説明する機会を設定（PTA総会、保護者会、学校説明会、面談等）… 28.34 %
- ・学校便り等に掲載して配布…………… 18.59 %
- ・特定の学校関係者にのみに公表（その理由をご記入ください・・・）…… 9.93 %
- ・学校要覧や学校ガイドに掲載…………… 5.05 %

公表していない学校が、12.45%ある。公表は、Web・直接説明する機会を設定・学校便り等に掲載して配布によるところが多い。

キ. 公表している評価項目（小項目）

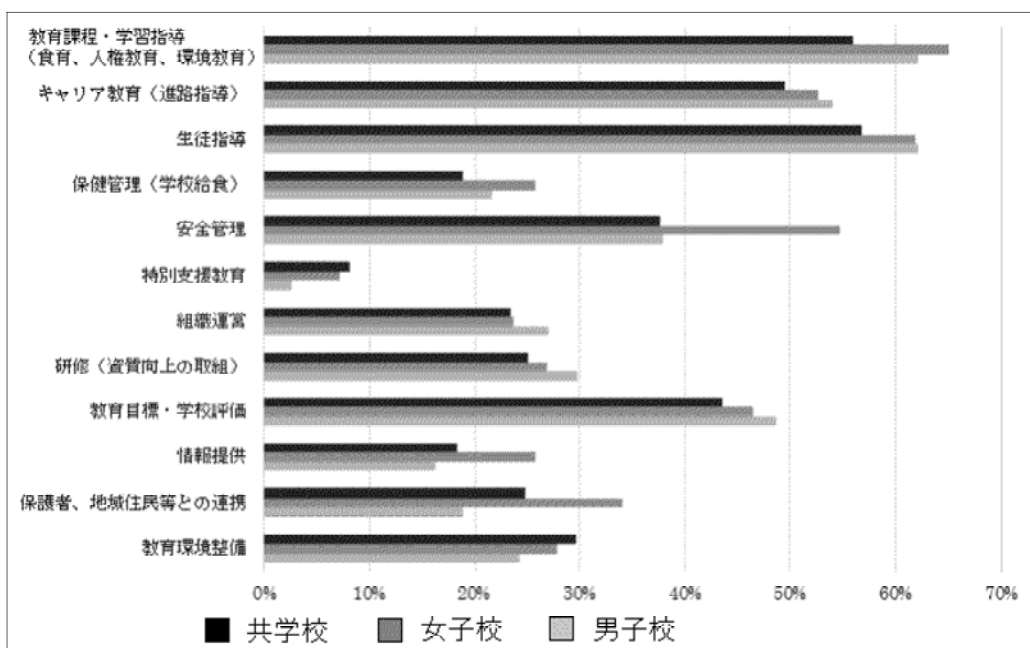
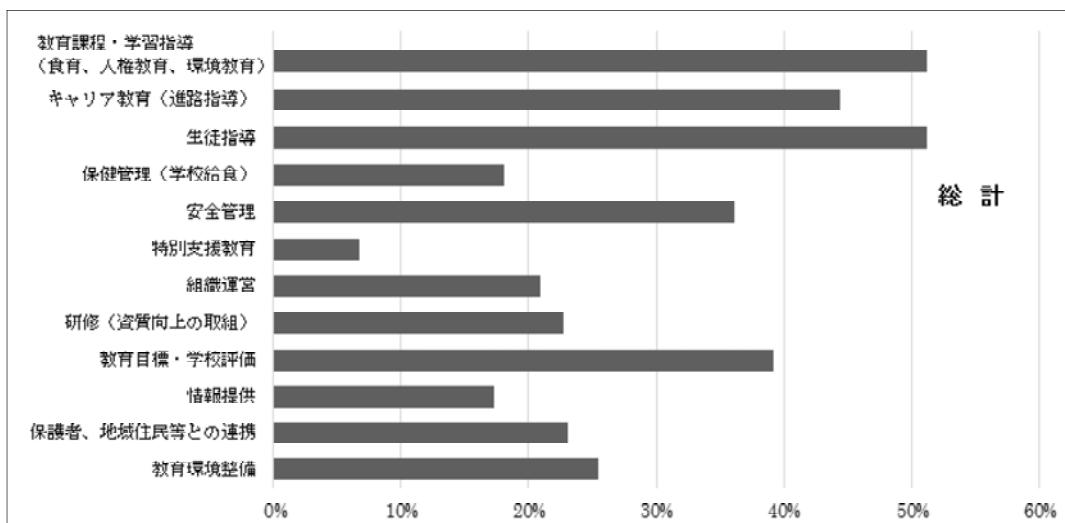
キー 1 公表している自己評価の評価項目（小項目）について、次より選んでください。

（複数回答可） ※カ.で、①. から⑦. と回答した場合のみ回答

- | | |
|----------------------------|------------------|
| ①. 教育課程・学習指導（食育、人権教育、環境教育） | |
| ②. キャリア教育（進路指導） | ③. 生徒指導 |
| ④. 保健管理（学校給食） | ⑤. 安全管理 |
| ⑥. 特別支援教育 | ⑦. 組織運営 |
| ⑧. 研修（資質向上の取組） | ⑨. 教育目標・学校評価 |
| ⑩. 情報提供 | ⑪. 保護者、地域住民等との連携 |
| ⑫. 教育環境整備 | |

キー２ 調査結果の集計

公表している自己評価の評価項目（小項目）	計	共学校	女子校	男子校
①. 教育課程・学習指導（食育、人権教育、環境教育）	51.26 %	55.93 %	64.95 %	62.16 %
②. キャリア教育（進路指導）	44.40 %	49.44 %	52.58 %	54.05 %
③. 生徒指導	51.26 %	56.78 %	61.86 %	62.16 %
④. 保健管理（学校給食）	18.05 %	18.93 %	25.77 %	21.62 %
⑤. 安全管理	36.10 %	37.57 %	54.64 %	37.84 %
⑥. 特別支援教育	6.68 %	8.19 %	7.22 %	2.70 %
⑦. 組織運営	20.94 %	23.45 %	23.71 %	27.03 %
⑧. 研修（資質向上の取組）	22.74 %	25.14 %	26.80 %	29.73 %
⑨. 教育目標・学校評価	39.17 %	43.50 %	46.39 %	48.65 %
⑩. 情報提供	17.33 %	18.36 %	25.77 %	16.22 %
⑪. 保護者、地域住民等との連携	23.10 %	24.86 %	34.02 %	18.92 %
⑫. 教育環境整備	25.45 %	29.66 %	27.84 %	24.32 %



キー 3 調査結果の分析

公表している自己評価の評価項目（小項目）については、

- ・生徒指導…………… 51.26 %
- ・教育課程・学習指導（食育、人権教育、環境教育）…………… 51.26 %
- ・キャリア教育（進路指導）…………… 44.40 %
- ・教育目標・学校評価…………… 39.17 % ・安全管理…………… 36.10 %

などが上位であるが、項目間の差は少ない。評価項目（小項目）に上げた項目は、すべて実施している。

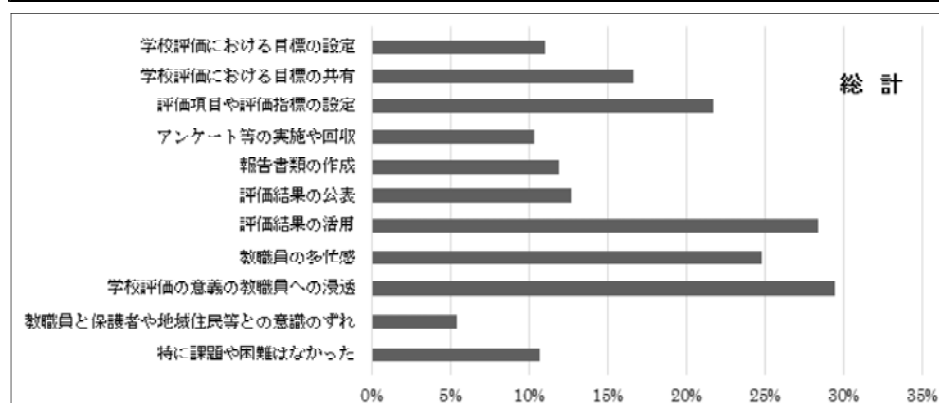
ク. 課題あるいは困難があったと感じられた点

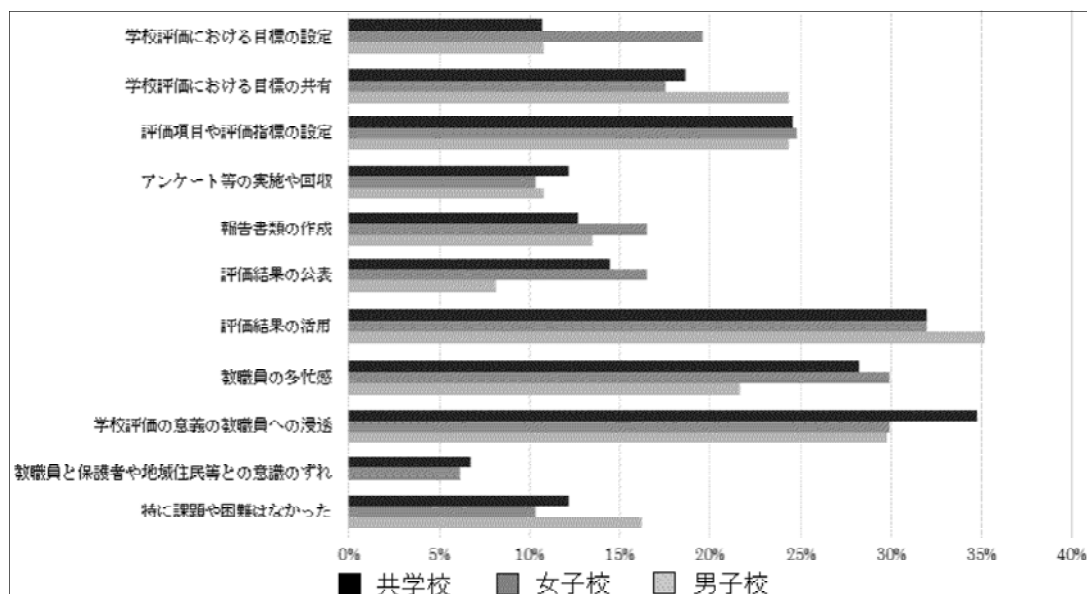
クー 1 自己評価に関して、課題あるいは困難があったと感じられた点について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 学校評価における目標の設定 ②. 学校評価における目標の共有
- ③. 評価項目や評価指標の設定 ④. アンケート等の実施や回収
- ⑤. 報告書類の作成 ⑥. 評価結果の公表
- ⑦. 評価結果の活用 ⑧. 教職員の多忙感
- ⑨. 学校評価の意義の教職員への浸透 ⑩. 教職員と保護者や地域住民等との意識のずれ
- ⑪. 特に課題や困難はなかった ※⑪. を選択する場合は⑪のみ選んでください。

クー 2 調査結果の集計

自己評価に関して、課題あるいは困難があったと感じられた点	計	共学校	女子校	男子校
①. 学校評価における目標の設定	11.01 %	10.73 %	19.59 %	10.81 %
②. 学校評価における目標の共有	16.61 %	18.64 %	17.53 %	24.32 %
③. 評価項目や評価指標の設定	21.66 %	24.58 %	24.74 %	24.32 %
④. アンケート等の実施や回収	10.29 %	12.15 %	10.31 %	10.81 %
⑤. 報告書類の作成	11.91 %	12.71 %	16.49 %	13.51 %
⑥. 評価結果の公表	12.64 %	14.41 %	16.49 %	8.11 %
⑦. 評価結果の活用	28.34 %	31.92 %	31.96 %	35.14 %
⑧. 教職員の多忙感	24.73 %	28.25 %	29.90 %	21.62 %
⑨. 学校評価の意義の教職員への浸透	29.42 %	34.75 %	29.90 %	29.73 %
⑩. 教職員と保護者や地域住民等との意識のずれ	5.42 %	6.78 %	6.19 %	0.00 %
⑪. 特に課題や困難はなかった	10.65 %	12.15 %	10.31 %	16.22 %





クー 3 調査結果の分析

自己評価に関して、課題あるいは困難があったと感じられた点については、特に課題や困難はなかったが 10.65%あるが、意義の教職員への浸透や多忙感などの教職員への配慮、評価項目や評価指標の設定や結果の活用などの具体的な実施への構築が課題であることが指摘された。

- ・特に課題や困難はなかった…………… 10.65 %
- ・学校評価の意義の教職員への浸透…………… 29.42 %
- ・評価結果の活用…………… 28.34 %
- ・教職員の多忙感…………… 24.73 %
- ・評価項目や評価指標の設定…………… 21.66 %

3. 学校関係者評価^(※)について

(※) 教職員による自己評価の結果を踏まえた、保護者等学校関係者による評価

ア. 実施状況

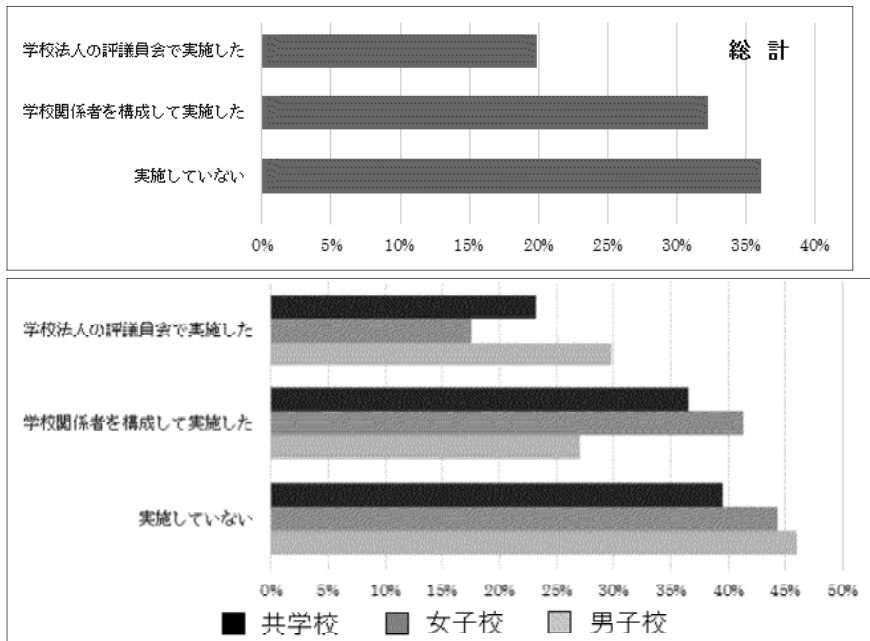
アー 1 学校関係者評価の実施（法令上の努力義務）状況について、次より選んでください。

(①. ②は、複数回答可)

- ①. 学校法人の評議員会で実施した・・・(→以下カ.～サ.について、回答してください)
- ②. 学校関係者を構成して実施した・・・(→以下イ.およびエ. サ.について、回答してください)
- ③. 実施していない……………(→以下ウ.について、回答してください)

アー 2 調査結果の集計

学校関係者評価の実施状況	計	共学校	女子校	男子校
①. 学校法人の評議員会で実施した	19.86 %	23.16 %	17.53 %	29.73 %
②. 学校関係者を構成して実施した	32.31 %	36.44 %	41.24 %	27.03 %
③. 実施していない	36.10 %	39.55 %	44.33 %	45.95 %



アー 3 調査結果の分析

学校関係者評価の実施状況については、実施している（学校関係者を構成して実施した 32.31%、学校法人の評議員会で実施した 19.86%）で 53.27%であった。実施していないが、36.10%であった。

イ. 開催した回数

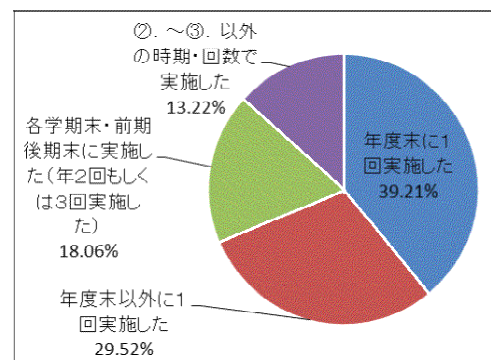
イー 1 学校関係者評価を開催した回数は、どのくらいですか。次より 1 つ選んでください。

※ア. で、②.（学校関係者を構成して実施）と回答した場合に回答

- ①. 年度末に 1 回実施した
- ②. 年度末以外に 1 回実施した
- ③. 各学期末・前期後期末に実施した（年 2 回もしくは 3 回実施した）
- ④. ②. ～③. 以外の時期・回数で実施した

イー 2 調査結果の集計

学校関係者評価を開催した回数	計
①. 年度末に 1 回実施	39.21 %
②. 年度末以外に 1 回実施	29.52 %
③. 各学期末・前期後期末に実施 (年 2 ～ 3 回)	18.06 %
④. ②. ～③. 以外の時期・回数で実施	13.22 %



ウ. 実施していない理由

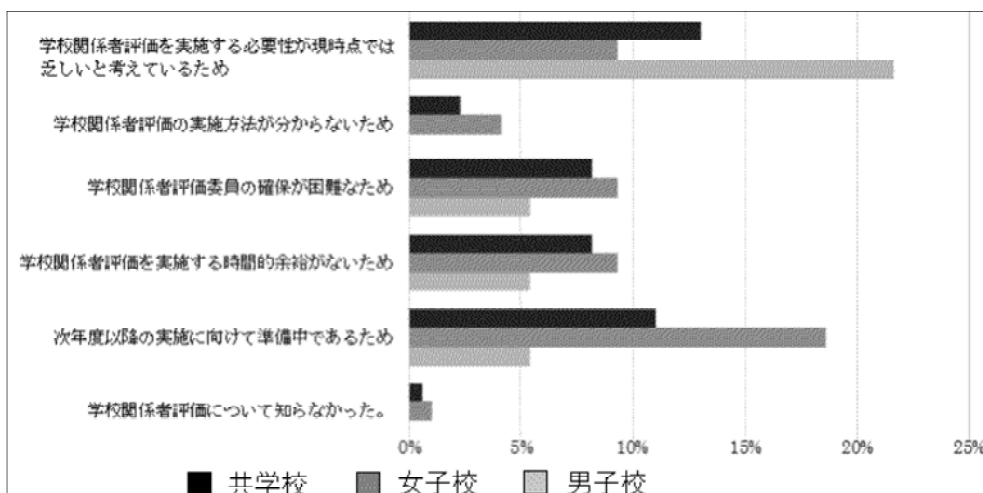
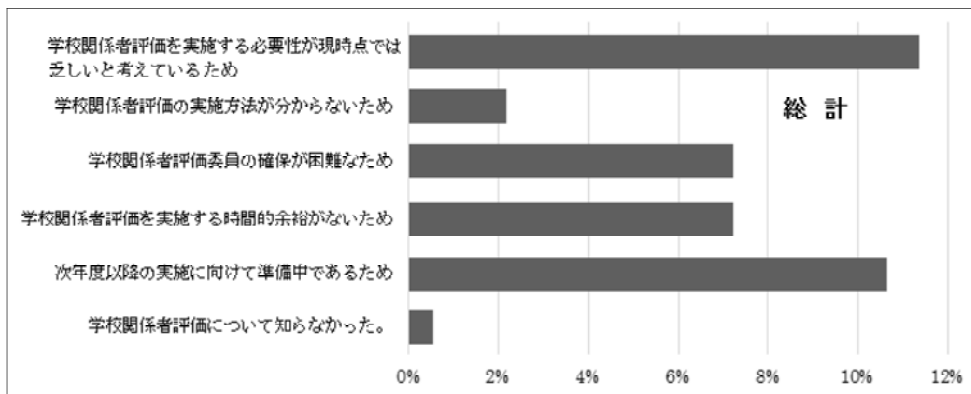
ウー１ 学校関係者評価を実施していない理由について、次より選んでください。（複数回答可）

※ア.で、③.（実施していない）と回答した場合のみ回答

- ①. 学校関係者評価を実施する必要性が現時点では乏しいと考えているため
.....（→以下エ. について回答してください。エ. で終了）
- ②. 学校関係者評価の実施方法が分からないため （ここで、終了）
- ③. 学校関係者評価委員の確保が困難なため （ここで、終了）
- ④. 学校関係者評価を実施する時間的余裕がないため （ここで、終了）
- ⑤. 次年度以降の実施に向けて準備中であるため （ここで、終了）
- ⑥. 学校関係者評価について知らなかった （ここで、終了）
- ⑦. その他（ここで、終了） ※ 「⑦. その他」の主な内容を記入してください。

ウー２ 調査結果の集計

学校関係者評価を実施していない理由	総計	共学校	女子校	男子校
①. 学校関係者評価を実施する必要性が現時点では乏しいと考えているため	11.37 %	12.99 %	9.28 %	21.62 %
②. 学校関係者評価の実施方法が分からないため	2.17 %	2.26 %	4.12 %	0.00 %
③. 学校関係者評価委員の確保が困難なため	7.22 %	8.19 %	9.28 %	5.41 %
④. 学校関係者評価を実施する時間的余裕がないため	7.22 %	8.19 %	9.28 %	5.41 %
⑤. 次年度以降の実施に向けて準備中であるため	10.65 %	11.02 %	18.56 %	5.41 %
⑥. 学校関係者評価について知らなかった。	0.54 %	0.56 %	1.03 %	0.00 %



⑦. その他の主な内容

- ・校長より理事長へ報告書の提出と説明、今後の計画等について伝達しているため
- ・理事会、評議員会で意見を聴取している。
- ・保護者アンケート及び生徒アンケートの実施により同等の目的を達せられると考えたため
- ・本校は通信制課程であるため、生徒の就学観及び家庭環境等がきわめて複雑・多様であり、また保護者の教育観・学校観もまちまちであるとともに、学校に対する帰属意識も低い。創立12年目で、未だ十分熟成されていないことも影響していると思われるので、もう少し学校としての成長を遂げた上で取り組んでいきたい。
- ・年度末に保護者対象の評価(20項目)を実施しており、これを学校関係者評価とし整理している。
- ・平成25年度法人の学年評議委員会で実施予定 ・まだ実施していません。
- ・保護者・生徒へのアンケートは実施しているが自己評価をふまえての評価ではないので
- ・保護者及び生徒にアンケートを実施し、その結果を集計・公表している。

ウー 3 調査結果の分析

学校関係者評価を実施していない理由については、「学校関係者評価を実施する必要性が現時点では乏しいと考えているため」が、11.37%である。次に多いのは、「次年度以降の実施に向けて準備中であるため」10.65%、「学校関係者評価を実施する時間的余裕がないため」7.22%、「学校関係者評価委員の確保が困難なため」7.22%などが、理由である。実施に向けて検討している傾向が伺える。

エ. 必要性が現時点では乏しいと考える理由

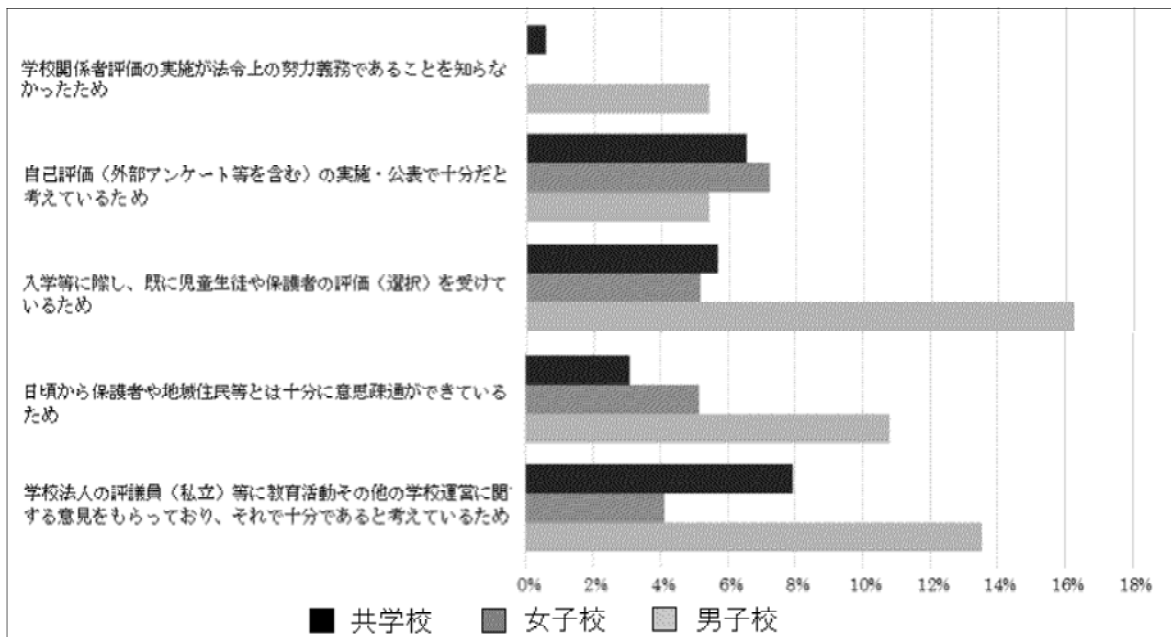
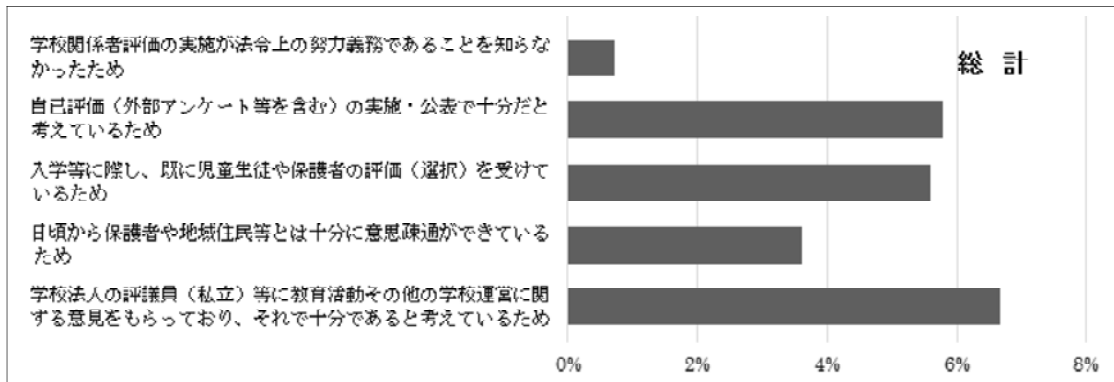
エー 1 学校関係者評価を実施する必要性が現時点では乏しいと考える理由について、次より選んでください。(複数回答可)

※ウ.で、①.(必要性が現時点では乏しい)と回答した場合のみ回答

- ①. 学校関係者評価の実施が法令上の努力義務であることを知らなかったため
- ②. 自己評価(外部アンケート等を含む)の実施・公表で十分だと考えているため
- ③. 入学等に際し、既に児童生徒や保護者の評価(選択)を受けているため
- ④. 日頃から保護者や地域住民等とは十分に意思疎通ができているため
- ⑤. 学校法人の評議員(私立)等に教育活動その他の学校運営に関する意見をもらっており、それで十分であると考えているため
- ⑥. その他 ※「⑥. その他」の主な内容を記入してください。

エー 2 調査結果の集計

学校関係者評価を実施する必要性が現時点では乏しいと考える理由	計	共学校	女子校	男子校
①. 学校関係者評価の実施が法令上の努力義務であることを知らなかったため	0.72 %	0.56 %	0.00 %	5.41 %
②. 自己評価(外部アンケート等を含む)の実施・公表で十分だと考えているため	5.78 %	6.50 %	7.22 %	5.41 %
③. 入学等に際し、既に児童生徒や保護者の評価(選択)を受けているため	5.60 %	5.65 %	5.15 %	16.22 %
④. 日頃から保護者や地域住民等とは十分に意思疎通ができているため	3.61 %	3.11 %	5.15 %	10.81 %
⑤. 学校法人の評議員(私立)等に教育活動その他の学校運営に関する意見をもらっており、それで十分であると考えているため	6.68 %	7.91 %	4.12 %	13.51 %



⑥. その他の主な内容

- ・実施する必要性は認めるが現時点では準備が整っていない。 ・「努力義務」だから
- ・学校説明会、オープンスクール等で学校の教育活動や学校評結果について説明し、授業を参観してもらった上で志願してきているので、学校関係者評価を実施しているようなものだと考えている。
- ・①後援会組織が充実しており定期的に理事会、評議員会を開催して、相互に意見を交換出来る状況にある。②学年保護者会等を定期的に開催している。
- ・評議員、理事には、学識経験者、卒業生、職員など各分野での有識者が多く、十分に本来の目的を達成していると思われる。
- ・自己評価のアンケートの自由記述の中に保護者の意見が入れられている。担任は常に保護者と連絡を取りあい、保護者からも連絡を受け、緊密な関係を保っている。学校法人内で、月に1回、一貫教育校の会議があり、そこで情報交換を行っています。
- ・学校の実態を知る機会が少ない（「仕事」を持っている等）
- ・評価の事前準備は学校側でしなければならず、そこまでの労力を要して評価を実施する必要性が感じられないから

エー３ 調査結果の分析

学校関係者評価を実施する必要性が現時点では乏しいと考える理由については、「学校法人の評議員（私立）等に教育活動その他の学校運営に関する意見をもらっており、それで十分であると考えているため」が 6.68%であった。その次の理由は、「入学等に際し、既に児童生徒や保護者の評価（選択）を受けているため」、「自己評価（外部アンケート等を含む）の実施・公表で十分だと考えているため」であった。

その他として、「①後援会組織が充実しており定期的に理事会、評議員会を開催して、相互に意見を交換出来る状況にある。②学年保護者会等を定期的に開催している。」、「評議員、理事には、学識経験者、卒業生、職員など各分野での有識者が多く、十分に本来の目的を達成していると思われる。」など、すでに学校の教職員以外の関係者に意見等を聞く機会があるからと答えている。

オ．評価者の構成

オー１ 学校関係者評価の評価者の構成について、次より選んでください。（複数回答可）

※イ.で、②.（年度末以外に１回実施）と回答した場合のみ回答

- ①.（現役）ＰＴＡ役員
- ②.（元）ＰＴＡ役員
- ③. ①～②以外の保護者
- ④. 自治会等関係者（自治会、町内会、地区の役員等）
- ⑤. 社会福祉施設・団体関係者（社会福祉協議会職員、民生委員、児童委員、老人ホーム職員等）
- ⑥. 社会教育施設・団体関係者（公民館、子ども会、青年団、婦人会、スポーツ少年団の役員等）
- ⑦. 地元企業・ＮＰＯ関係者
- ⑧. 卒業生・同窓生
- ⑨. 学校評議員
- ⑩. 学校運営協議会委員（公立学校のみ）
- ⑪. 学校法人の評議員（私立学校のみ）
- ⑫. 学校支援組織のコーディネーター・ボランティア
- ⑬. 他校の教職員 ⑭. 元教職員 ⑮. 学識経験者等
- ⑯. その他

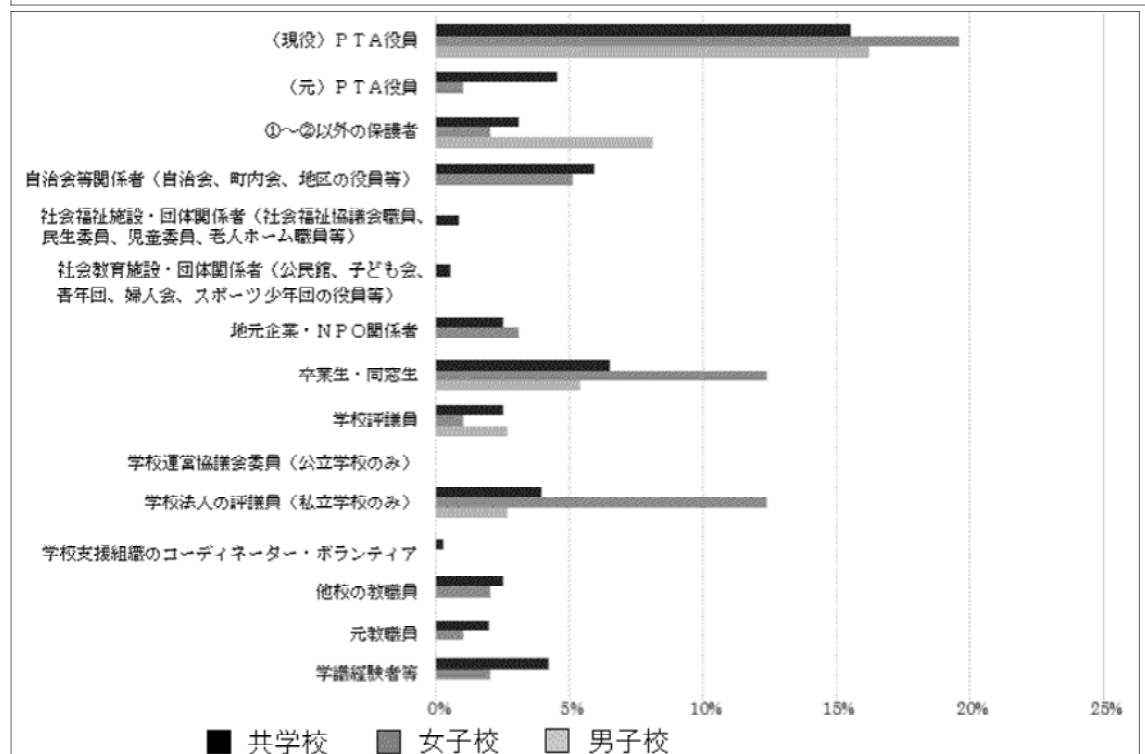
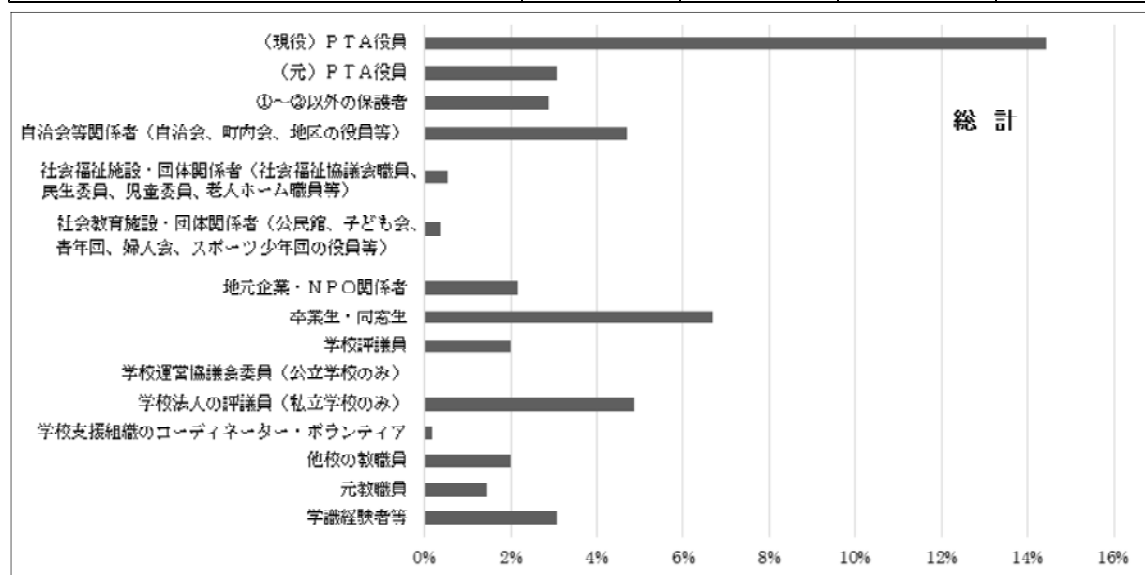
※「⑯. その他」の主な内容を記入してください。

※１人の学校関係者評価委員が複数の属性に該当する場合は、委嘱するに当たって、最も重要視した属性を１つ選択して下さい。

オー２ 調査結果の集計

学校関係者評価の評価者の構成	計	共学校	女子校	男子校
①.（現役）ＰＴＡ役員	14.44 %	15.54 %	19.59 %	16.22 %
②.（元）ＰＴＡ役員	3.07 %	4.52 %	1.03 %	0.00 %
③. ①～②以外の保護者	2.89 %	3.11 %	2.06 %	8.11 %
④. 自治会等関係者（自治会、町内会、地区の役員等）	4.69 %	5.93 %	5.15 %	0.00 %
⑤. 社会福祉施設・団体関係者（社会福祉協議会職員、民生委員、児童委員、老人ホーム職員等）	0.54 %	0.85 %	0.00 %	0.00 %

⑥. 社会教育施設・団体関係者（公民館、子ども会、青年団、婦人会、スポーツ少年団の役員等）	0.36 %	0.56 %	0.00 %	0.00 %
⑦. 地元企業・NPO関係者	2.17 %	2.54 %	3.09 %	0.00 %
⑧. 卒業生・同窓生	6.68 %	6.50 %	12.37 %	5.41 %
⑨. 学校評議員	1.99 %	2.54 %	1.03 %	2.70 %
⑩. 学校運営協議会委員（公立学校のみ）	0.00 %	0.00 %	0.00 %	0.00 %
⑪. 学校法人の評議員（私立学校のみ）	4.87 %	3.95 %	12.37 %	2.70 %
⑫. 学校支援組織のコーディネーター・ボランティア	0.18 %	0.28 %	0.00 %	0.00 %
⑬. 他校の教職員	1.99 %	2.54 %	2.06 %	0.00 %
⑭. 元教職員	1.44 %	1.98 %	1.03 %	0.00 %
⑮. 学識経験者等	3.07 %	4.24 %	2.06 %	0.00 %



⑩. その他の主な内容

- ・設問イをアと読み替えて回答しました
- ・中高でまとめたものを大学(理事)が読んでくださり指示を下さる。
- ・併設大学代表(学長) 教区主教(キリスト教主義学校により母教会の主教)
- ・前中学校校長 ・附属幼稚園長、附属中学校長 ・大手塾の役員
- ・塾関係者 ・幼児教室長 ・駅長、警察署長
- ・学園の幼稚園長、中高の校長、短大の学長 ・卒業生の保護者

オー 3 調査結果の分析

学校関係者評価の評価者の構成については、下記の対象者であった。

- ・(現役) P T A 役員…………… 14.44 %
- ・卒業生・同窓生…………… 6.68 %
- ・学校法人の評議員(私立学校のみ) …… 4.87 %
- ・自治会等関係者(自治会、町内会、地区の役員等) …… 4.69 %
- ・学識経験者等…………… 3.07 %
- ・(元) P T A 役員 …… 3.07 %
- ・①～②以外の保護者…………… 2.89 %

カ. 実施に際して行った活動

カー 1 学校関係者評価委員が評価の実施に際して行った活動について、次より選んでください。

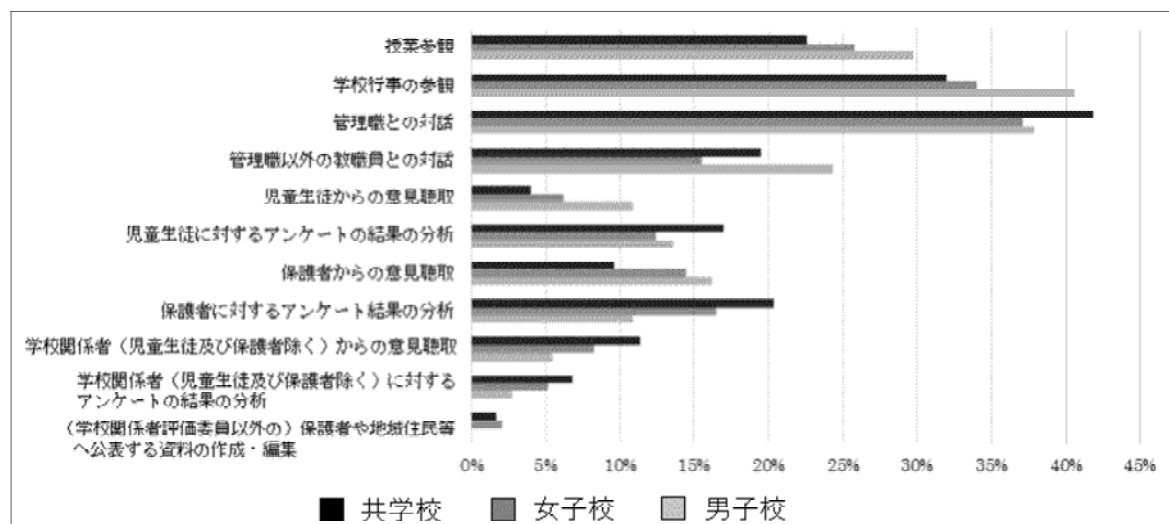
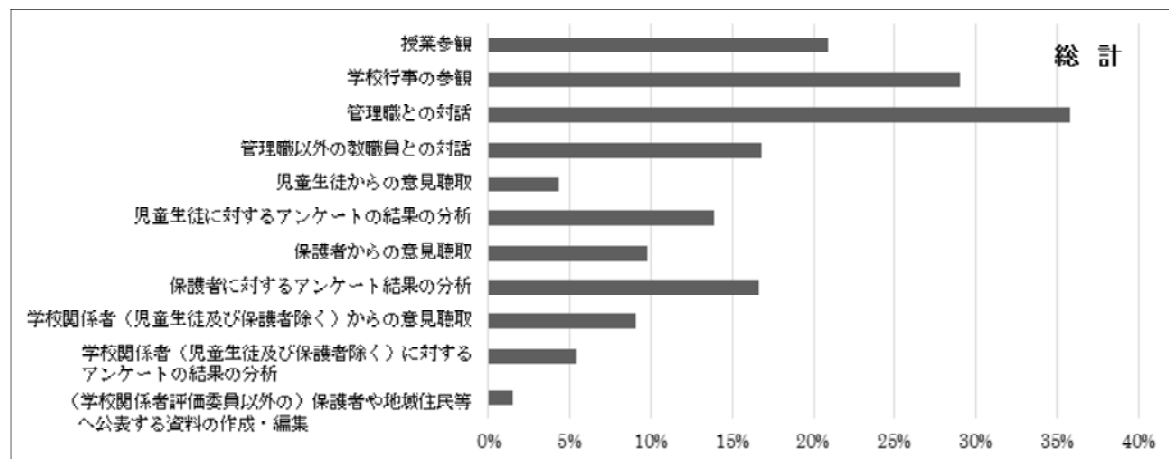
(複数回答可)

- ①. 授業参観 ②. 学校行事の参観 ③. 管理職との対話
- ④. 管理職以外の教職員との対話 ⑤. 児童生徒からの意見聴取
- ⑥. 児童生徒に対するアンケート結果の分析
- ⑦. 保護者からの意見聴取 ⑧. 保護者に対するアンケート結果の分析
- ⑨. 学校関係者(児童生徒及び保護者除く)からの意見聴取
- ⑩. 学校関係者(児童生徒及び保護者除く)に対するアンケート結果の分析
- ⑪. (学校関係者評価委員以外の) 保護者や地域住民等へ公表する資料の作成・編集

カー 2 調査結果の集計

学校関係者評価委員が評価の実施に際して行った活動	計	共学校	女子校	男子校
①. 授業参観	20.94 %	22.60 %	25.77 %	29.73 %
②. 学校行事の参観	29.06 %	31.92 %	34.02 %	40.54 %
③. 管理職との対話	35.74 %	41.81 %	37.11 %	37.84 %
④. 管理職以外の教職員との対話	16.79 %	19.49 %	15.46 %	24.32 %
⑤. 児童生徒からの意見聴取	4.33 %	3.95 %	6.19 %	10.81 %
⑥. 児童生徒に対するアンケート結果の分析	13.90 %	16.95 %	12.37 %	13.51 %
⑦. 保護者からの意見聴取	9.75 %	9.60 %	14.43 %	16.22 %
⑧. 保護者に対するアンケート結果の分析	16.61 %	20.34 %	16.49 %	10.81 %
⑨. 学校関係者(児童生徒及び保護者除く)からの意見聴取	9.03 %	11.30 %	8.25 %	5.41 %

⑩. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）に対するアンケート結果の分析	5.42 %	6.78 %	5.15 %	2.70 %
⑪. （学校関係者評価委員以外の）保護者や地域住民等へ公表する資料の作成・編集	1.44 %	1.69 %	2.06 %	0.00 %



カー 3 調査結果の分析

学校関係者評価委員が評価の実施に際して行った活動について、下記の順であった。

- ・管理職との対話…………… 35.74 %
- ・学校行事の参観…………… 29.06 %
- ・授業参観…………… 20.94 %
- ・管理職以外の教職員との対話…………… 16.79 %
- ・保護者に対するアンケート結果の分析…………… 16.61 %
- ・児童生徒に対するアンケート結果の分析…………… 13.90 %

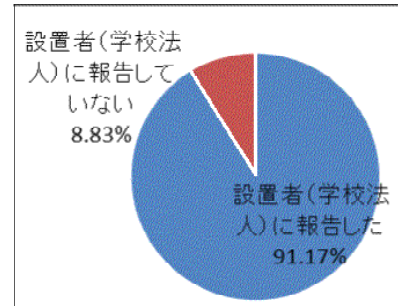
キ. 評価結果の設置者への報告

キー 1 学校関係者評価結果の設置者への報告について、次より一つ選んでください。

- ①. 設置者（学校法人）に報告した
- ②. 設置者（学校法人）に報告していない

キー 2 調査結果の集計

学校関係者評価結果の設置者への報告	計
①. 設置者（学校法人）に報告した	91.17 %
②. 設置者（学校法人）に報告していない	8.83 %



キー 3 調査結果の分析

学校関係者評価結果の設置者への報告については、「設置者（学校法人）に報告した」が 91.17%、「設置者（学校法人）に報告していない」が 8.83%あった。

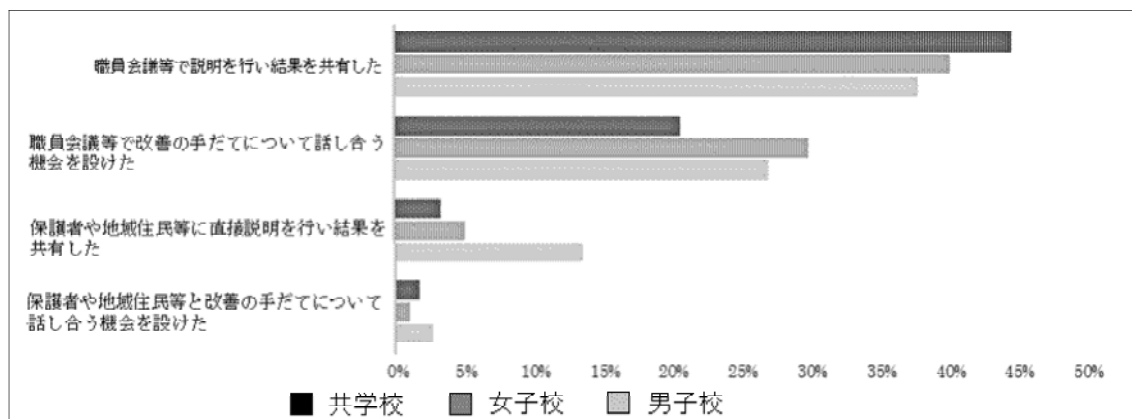
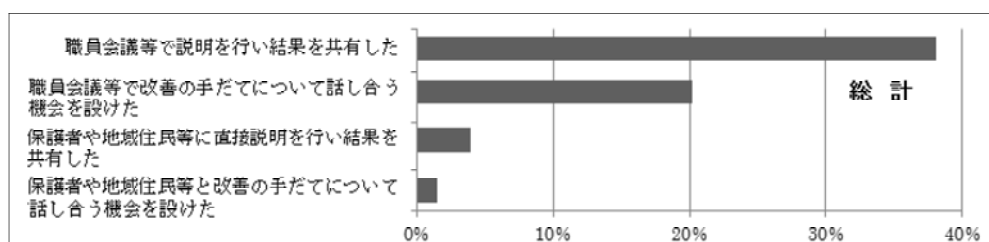
ク. 評価結果の活用方法

クー 1 学校関係者評価の結果の活用方法について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 職員会議等で説明を行い結果を共有した
- ②. 職員会議等で改善の手だてについて話し合う機会を設けた
- ③. 保護者や地域住民等に直接説明を行い結果を共有した
- ④. 保護者や地域住民等と改善の手だてについて話し合う機会を設けた
- ⑤. その他 ※ 「⑤. その他」の主な内容を記入してください。

クー 2 調査結果の集計

学校関係者評価の結果の活用方法	計	共学校	女子校	男子校
①. 職員会議等で説明を行い結果を共有した	38.09 %	44.63 %	40.21 %	37.84 %
②. 職員会議等で改善の手だてについて話し合う機会を設けた	20.22 %	20.62 %	29.90 %	27.03 %
③. 保護者や地域住民等に直接説明を行い結果を共有した	3.97 %	3.39 %	5.15 %	13.51 %
④. 保護者や地域住民等と改善の手だてについて話し合う機会を設けた	1.44 %	1.69 %	1.03 %	2.70 %



⑤. その他の主な内容

- ・管理職が学校関係者評価を踏まえて、次年度の学校目標を立てるための手段とした。
- ・保護者のみに直接説明を行い、結果を共有した。
- ・客観性を高める標（評価・指標）の作成
- ・書面で全教職員に配布
- ・年度初めに理事長より職員への訓事及び報告
- ・報告内容を公表し、各教員が改善の手立てとした。
- ・教職員個人面談の資料、管理職会議の議題として
- ・評価をホームページで公開
- ・ホームページに公表した。
- ・学校広報誌に掲載した。
- ・教職員個々及び組織(分掌学年教科等) で活用するとともに、管理職としても、学校全体の動きにも活用した。
- ・目下、検討中 ・今年度からの取り組みのため検討中 ・特になし

ケ. 保護者や地域住民等への公表の方法

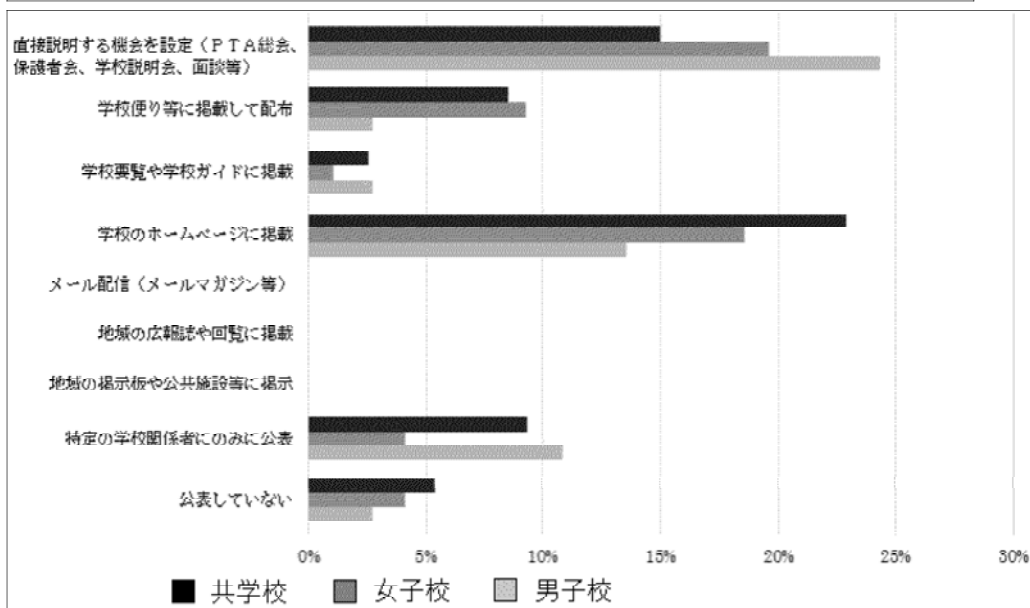
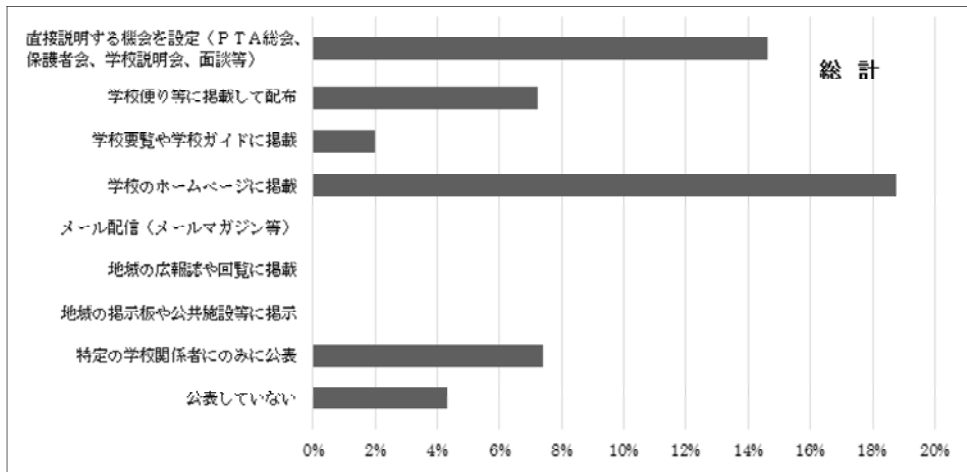
ケー１ 学校関係者評価結果の保護者や地域住民等への公表（法令上の努力義務）の方法について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 直接説明する機会を設定（ＰＴＡ総会、保護者会、学校説明会、面談等）
 ②. 学校便り等に掲載して配布 ③. 学校要覧や学校ガイドに掲載
 ④. 学校のホームページに掲載 ⑤. メール配信（メールマガジン等）
 ⑥. 地域の広報誌や回覧に掲載 ⑦. 地域の掲示板や公共施設等に掲示
 ⑧. 特定の学校関係者のみに公表
 ⑨. 公表していない（その理由をご記入ください・・・）

※⑨. を選択する場合は⑨のみを選んでください。

ケー２ 調査結果の集計

学校関係者評価結果の保護者や地域住民等への公表の方法	計	共学校	女子校	男子校
①. 直接説明する機会を設定（ＰＴＡ総会、保護者会、学校説明会、面談等）	14.62 %	14.97 %	19.59 %	24.32 %
②. 学校便り等に掲載して配布	7.22 %	8.47 %	9.28 %	2.70 %
③. 学校要覧や学校ガイドに掲載	1.99 %	2.54 %	1.03 %	2.70 %
④. 学校のホームページに掲載	18.77 %	22.88 %	18.56 %	13.51 %
⑤. メール配信（メールマガジン等）	0.00 %	0.00 %	0.00 %	0.00 %
⑥. 地域の広報誌や回覧に掲載	0.00 %	0.00 %	0.00 %	0.00 %
⑦. 地域の掲示板や公共施設等に掲示	0.00 %	0.00 %	0.00 %	0.00 %
⑧. 特定の学校関係者のみに公表	7.40 %	9.32 %	4.12 %	10.81 %
⑨. 公表していない	4.33 %	5.37 %	4.12 %	2.70 %



⑨. 公表していない理由

- ・十分に検討がされていないため
- ・努力義務の段階だから
- ・公表しない方が、学校関係者委員の方もはっきり物がいえるのではないかと考えている。
- ・自己評価と学校関係者評価をまとめたものをホームページにアップしているため
- ・現在、公表範囲・公表方法を検討しています。
- ・生徒及び保護者アンケート結果を公表しているので、それで十分と考える。
- ・保護者、地域住民向けの内容がなかった。
- ・教職員間での結果共有を優先したため
- ・学校関係者評価の結果について内容・方法等の公表を検討中のため
- ・日頃から保護者や地域住民等とは、十分に意思疎通ができていたため
- ・設置者同席の中、対話による評価だったので、文章化して公表するに至らなかった。
- ・公表の機会を逃してしまった。
- ・本年度より開始したため、評価結果の公表にまで至ってない。
- ・評議委員会を利用して行っているが、その上に校務分掌上、主な長が出席しているので、自己評価の項目に反映しているため
- ・検討中
- ・方法検討中
- ・外部への公表の方法を検討中
- ・特に必要と感しない。

コ. 評価結果として公表した内容

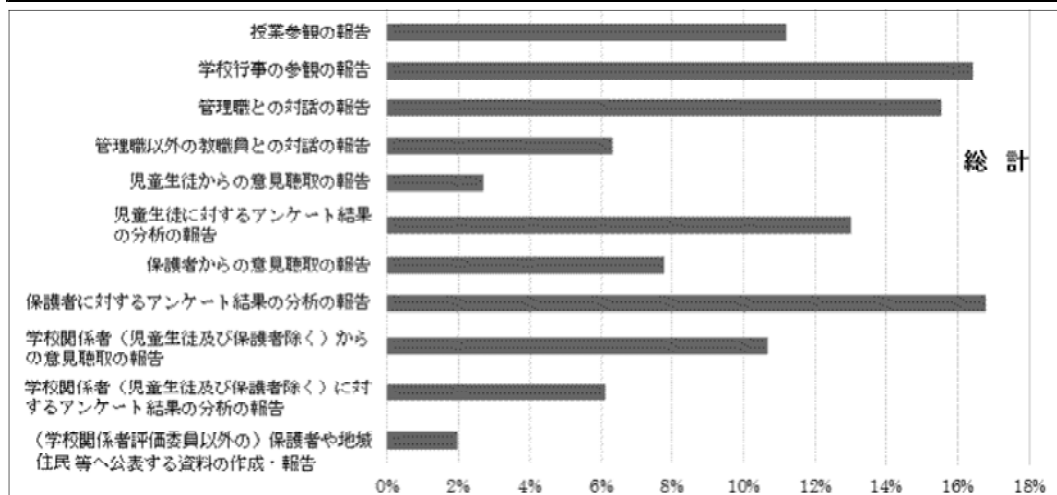
コー１ 学校関係者評価結果として公表した内容を、次より選んでください。(複数回答可)

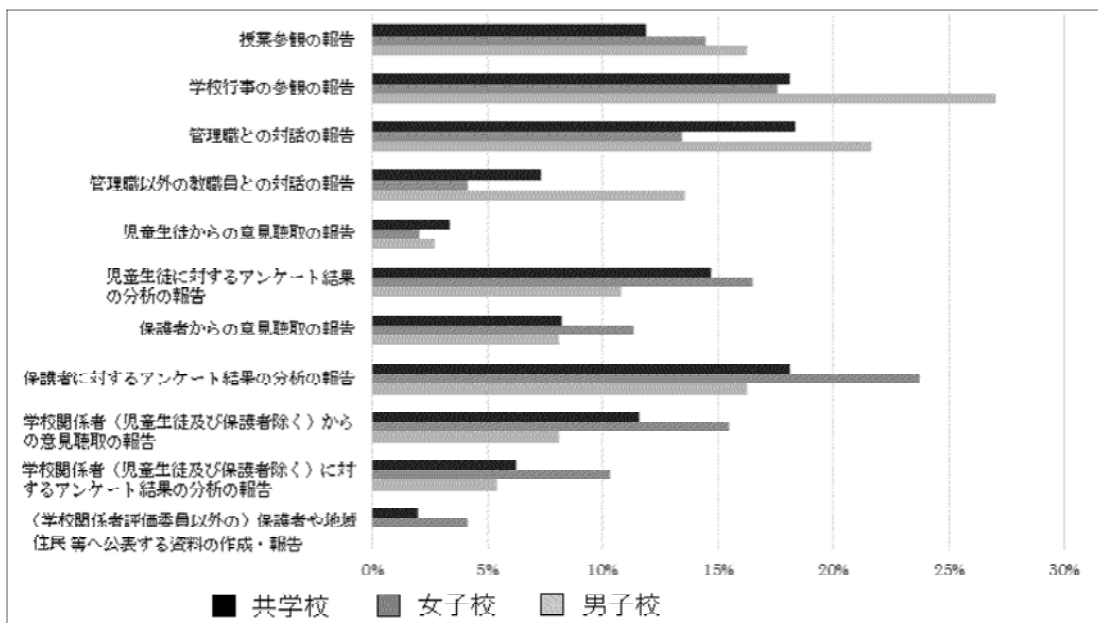
※ケ.で①.から⑧.の場合

- ①. 授業参観の報告
- ②. 学校行事の参観の報告
- ③. 管理職との対話の報告
- ④. 管理職以外の教職員との対話の報告
- ⑤. 児童生徒からの意見聴取の報告
- ⑥. 児童生徒に対するアンケート結果の分析の報告
- ⑦. 保護者からの意見聴取の報告
- ⑧. 保護者に対するアンケート結果の分析の報告
- ⑨. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）からの意見聴取の報告
- ⑩. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）に対するアンケート結果の分析の報告
- ⑪. (学校関係者評価委員以外の) 保護者や地域住民等へ公表する資料の作成・報告

コー２ 調査結果の集計

学校関係者評価結果として公表した内容	計	共学校	女子校	男子校
①. 授業参観の報告	11.19 %	11.86 %	14.43 %	16.22 %
②. 学校行事の参観の報告	16.43 %	18.08 %	17.53 %	27.03 %
③. 管理職との対話の報告	15.52 %	18.36 %	13.40 %	21.62 %
④. 管理職以外の教職員との対話の報告	6.32 %	7.34 %	4.12 %	13.51 %
⑤. 児童生徒からの意見聴取の報告	2.71 %	3.39 %	2.06 %	2.70 %
⑥. 児童生徒に対するアンケート結果の分析の報告	13.00 %	14.69 %	16.49 %	10.81 %
⑦. 保護者からの意見聴取の報告	7.76 %	8.19 %	11.34 %	8.11 %
⑧. 保護者に対するアンケート結果の分析の報告	16.79 %	18.08 %	23.71 %	16.22 %
⑨. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）からの意見聴取の報告	10.65 %	11.58 %	15.46 %	8.11 %
⑩. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）に対するアンケート結果の分析の報告	6.14 %	6.21 %	10.31 %	5.41 %
⑪. (学校関係者評価委員以外の) 保護者や地域住民等へ公表する資料の作成・報告	1.99 %	1.98 %	4.12 %	0.00 %





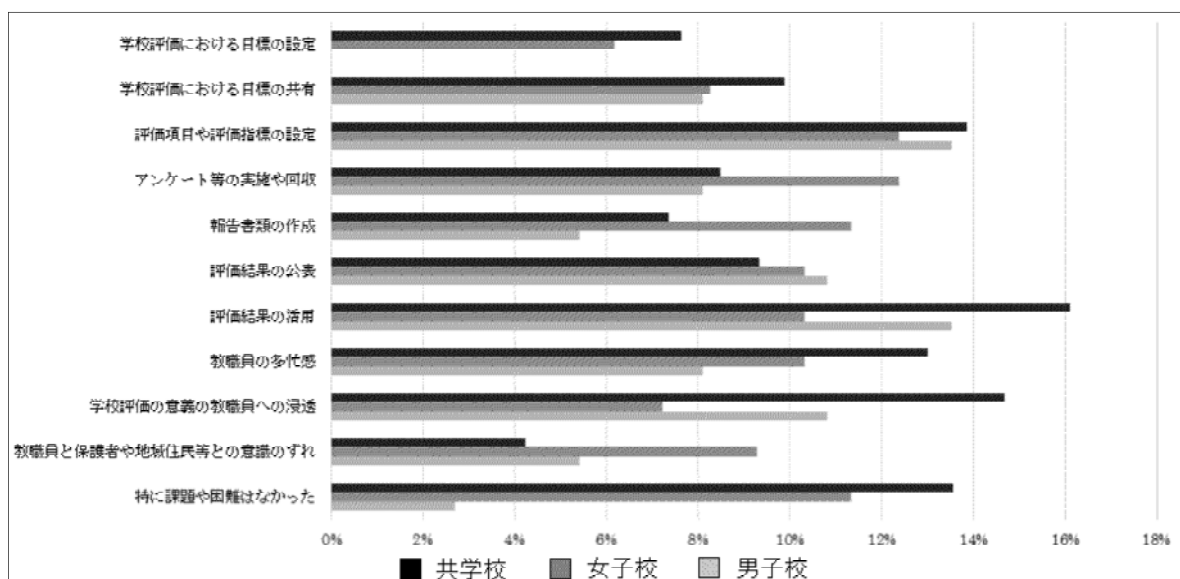
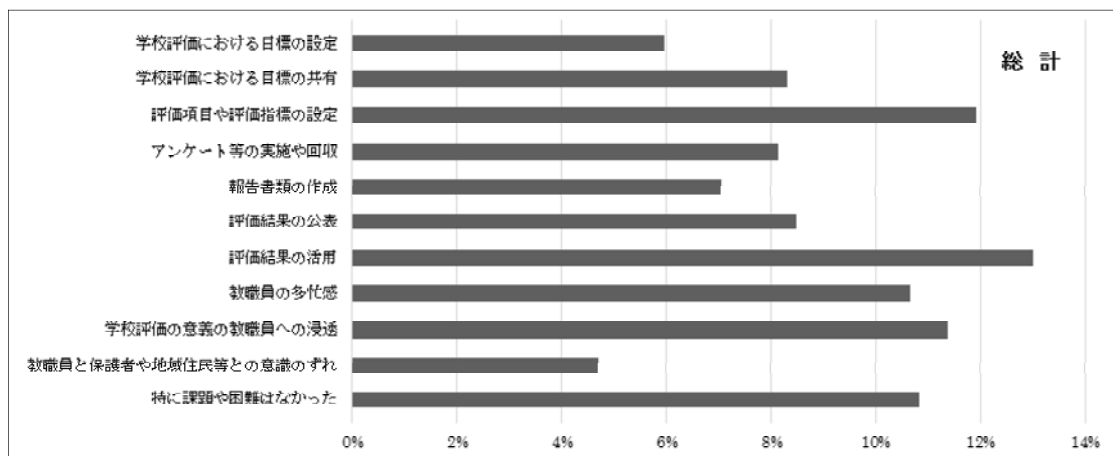
サ. 課題あるいは困難と感じられた点

サー 1 学校関係者評価に関して、課題あるいは困難があったと感じられた点について、次より選んでください。（複数回答可）

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ①. 学校評価における目標の設定 | ②. 学校評価における目標の共有 |
| ③. 評価項目や評価指標の設定 | ④. アンケート等の実施や回収 |
| ⑤. 報告書類の作成 | ⑥. 評価結果の公表 |
| ⑦. 評価結果の活用 | ⑧. 教職員の多忙感 |
| ⑨. 学校評価の意義の教職員への浸透 | ⑩. 教職員と保護者や地域住民等との意識のずれ |
| ⑪. 特に課題や困難はなかった | |

サー 2 調査結果の集計

学校関係者評価に関する課題あるいは困難と感じられた点	計	共学校	女子校	男子校
①. 学校評価における目標の設定	5.96 %	7.63 %	6.19 %	0.00 %
②. 学校評価における目標の共有	8.30 %	9.89 %	8.25 %	8.11 %
③. 評価項目や評価指標の設定	11.91 %	13.84 %	12.37 %	13.51 %
④. アンケート等の実施や回収	8.12 %	8.47 %	12.37 %	8.11 %
⑤. 報告書類の作成	7.04 %	7.34 %	11.34 %	5.41 %
⑥. 評価結果の公表	8.48 %	9.32 %	10.31 %	10.81 %
⑦. 評価結果の活用	13.00 %	16.10 %	10.31 %	13.51 %
⑧. 教職員の多忙感	10.65 %	12.99 %	10.31 %	8.11 %
⑨. 学校評価の意義の教職員への浸透	11.37 %	14.69 %	7.22 %	10.81 %
⑩. 教職員と保護者や地域住民等との意識のずれ	4.69 %	4.24 %	9.28 %	5.41 %
⑪. 特に課題や困難はなかった	10.83 %	13.56 %	11.34 %	2.70 %



サー 3 調査結果の分析

学校関係者評価に関しては、課題あるいは困難があったと感じられた点については、特に課題や困難はなかったもあった。評価の活用、意義の浸透、指標の設定、多忙感など、より効果的な評価に向けて課題が示されている。

- ・特に課題や困難はなかった…………… 10.83 %
- ・評価結果の活用…………… 13.00 %
- ・学校評価の意義の教職員への浸透…………… 11.37 %
- ・評価項目や評価指標の設定…………… 11.91 %
- ・教職員の多忙感…………… 10.65 %

◎ 学校評価についてのご意見等

学校評価についてのご意見等がありましたら、ご記入ください。

- ・個人的には学校評価というものの意義が理解できません。法令なので行っておりますが、形がありながらも中身は十分には伴っているとは言えません。建学の精神の継承や学校全体が目指す教育目標についての吟味や検討は折にふれて行っており、それについては教員一同が一定以上の満足を感じております。
- ・全教職員の日常の教育活動と有機的に関連づけるのがかなり難しいです。また、学校評価の意義を多くの教員がしっかりと理解しておかなければ形式に流れてしまう気がします。
- ・本校では教員（個人）の評価は教科目指導、生徒指導（生活）並びに校務運営に限定して実施しております。生徒・保護者との要望のズレが生じており、意識の変革が必要と思われる。
- ・2年前は学校関係者評価を毎年行っていたが、形式化と担当の多忙等で現在は行っていないのが現状です。“何か良い方法があれば…”と思います。先進的な学校を紹介していただきたい。
- ・本校では平成19年～22年の4年間学校評価を実施しましたが、平成23年からは実施していません。平成25年は業務を整理して実施できればと考えていますが、まだ未定です。
- ・前任者より引き継ぎ業務の状況にあり、目標・意義等の理解が不十分な状態で実施している。研修の必要性を強く感じている。
- ・自己評価、学校評価が校内の様々な分野で機能的に活用できるようになることが大切だと思う。
- ・公表をどのようにすることが、学校教育に上手にフィードバックできるかを苦慮しております。
- ・学校評価を実施した結果は概ね良好な内容であったが、いくつかの評価項目において、教員側の想いに対する生徒・保護者側の捉え方に相違があることに気付かされた。教員側との見解の相違そのものを「学校側としての課題」として捉え、今後の教育活動における成果獲得のための糧としていきたい。
- ・元々、学校評価につながる様な取り組みを長年行っている経過があるため、比較的円滑かつ有効に運用・活用が出来ていると思われます。
- ・学校評価の結果から課題を抽出、次年度の改善目標に上げるも改善できないケースが多い。
- ・学校関係者評価については、評価委員が日常的に学校に関わっているわけではないので、学校の実情が把握できず、項目によっては評価が困難である。
- ・学校評価は学校運営の改善にとってとても重要だと考えます。
- ・学校評価の集計を外部機関に頼っている。そのため費用がかかり困っている。私学で共通して使え、かつ安価なシステム機材があれば助かる。
- ・教員による「自己評価」。理事・評議員・保護者による学校教育活動の視察や意見交換する「学校関係者評価」。以上2つの評価は実施しており、私立にあつてはあえて評価委員会を設けなくても、従来から理事・評議員による理事会等で審議されているところである。

- ・本校では「学校評価の実施」につきましては、検討中でまだ実施に至っていません。早急に進めていきたいと思っています。本校では、担任全員に学校用携帯電話を持たせ、生徒の様子や家庭の状況などいつも密に連絡を取り合っています。また、夜中でもメールが入るようにし、心の変化等細かい所に配慮しながら対応できるようにしています。
- ・評価基準はあるが教員により意識が違う。学校評議員により見方がかなり違う。
- ・自己評価は1年間に1回提出してもらうだけでなく、教科指導に関しては学期ごとに提出し、校長と教務部で確認している。学校評価も2年前に評価項目25項目はできているが、記述的内容をどこまで入れるかとそれをいかに利用し、学校関係者評価を取り入れるかということで現在検討しているところである。
- ・学校評価の実施については、次年度実施に向けて準備中です。申し訳ありません。
- ・参考資料や研修会をもとに、本校の実態に即した学校評価をすべく、毎年度改善をしているところです。特に評価項目の重点化、精選に力を入れ、教員の多忙感を軽減すると共に、より客観点で実効性のある学校評価を目指しています。
- ・建学の精神の確認、学校運営の改善など教職員の意識改革や質的向上にとっても役立っている。又、生徒達の本音も垣間見ることも出来る。教師、生徒、保護者、及び地域の方々のつながりを確認し新たな方向性を探る良い機会となっている。更に発展させることを目指して努力していきたい。
- ・教職員にて十分理解されてきており教育活動の改善に役立ってきている。
- ・私立学校の学校評価の一つは入学選択に直に反映し、本校が入学する生徒、保護者、学校からどのように評価されているかが良くわかる。また、もう一つの地域の評価も地域懇談会や各種地域の会議、地域の催し物などを通して学校運営に対する理解と協力が得られていることがわかる。評価をする課題としては、客観性を持たせるために数値化することもひとつの方法ではあるが、数値にしにくい部分も多々有り、その辺りの評価方法について更なる検討が必要と考えている。
- ・学校関係者評価を今年は実施する年度なので少し忙しくなる。
- ・本校では ISO9001 を取得しており、その要求事項に沿う形で年度計画、中期ビジョン、課題の抽出など PDCA サイクルをまわしている。これを自己評価として公表する形で、文科省の定義に合致できるのではないかと考えている。ご指導をいただきたい。
- ・学校評価項目を設定し、アンケート実施、集計、検証、報告書作成まで一部の教員に対しかなりの負担となっていることは事実である。しかし、学校評価を実施することにより、自校の進むべき方向を全教員が共有し、その目標に向かうための道標となっていることに大きな意義があると思われる。米国で実施されているような多角的な評価を取り入れることは困難であるが、自校の教育全般を改善するためには現在本校の規模で毎年実施することは意義の有る活動と思われる。
- ・私学においては建学の精神のもと独自の教育活動を行っており、この教育活動に共感を覚えた者が入学してくるのが原則である。従って第三者が学校の教育のあり方に対して評価することの意識を学校経営にどのように反映させていくかが課題と考える。
- ・私学は学校評価が入学者数に直接影響してくる。経営については理事会、評議員会があるので、第三者評価は必要なしと思う。

- ・学校における諸組織の活動の評価と来年度の課題を単なる名目におわらせず、教職員の中で具体的に理解し、実際に改善する取り組みにつなげるような報告書のあり方（読みやすく、それぞれの組織で実際に使えるような内容）をどうするかが、大きな課題だと認識している。
- ・研修会に参加します。ご指導いただけたら幸いです。
- ・法令化されているとはいえ私学の厳しい教員数にあって年2回の評価を行い、県等に報告しなくてはいけないことは大変な労力である。実質効果の得られる状態にするためには工夫や改善が必要であり、そこまで評価に力を入れられないのが現状である。県よりの補助金の配分があると言われればやらざるおえないが、評価のための評価、本末転倒となりかねない。私学の独自性においてももう少しゆるやかにならないものか。
- ・現状では、教職員・生徒・保護者に対するアンケートを実施し、集計・分析する程度しか行っていない。今後、研修などに参加し、実施内容・方法などについて見直していきたい。
- ・中学男女、高校男女、中等教育学校 すべて同じ回答です。
- ・「学校評価」をきちんとした形で実施していきたい旨を校長に伝えている状況です。是非、12月7日の研修会に参加させていただき、それを機に、前向きに取り組みたいと考えています。
- ・教員に対しては「人事考課」を導入してボーナスに反映しています。評価の一番のポイントは教員に対する授業評価です。教員の関心は、そちらが大きくなっています。
- ・集計、報告書作成の効率化について、良いアイディアや成功事例等あれば実務者研修などで聞いてみたいです。年々評価項目が増えていく傾向にあり、それにとまって学校運営に様々な形で反映して行くのは大変良いことだと思いますが、何しろ集計が大変で困ってしまいます。
- ・学校評価する中で、私学人として不満を持つのは教育内容を充実させることの重要性は理解できるが、公立に比べ、何か対応しようと思うと、財政的壁に打ち当たる。他国のように教育には公私問わず国費を投入すべきである。
- ・日本私学教育研究所主催の学校評価研修会をブロック別（地域別）で開催していただきたい。
- ・自己評価に関しましては、評価項目を検討しています。
- ・公開する範囲をどこまで広げるべきか迷っている。第三者評価を具体的にまだ行えていない。
- ・〇〇大学全学部、格下校すべて早くからこの自己点検、外部点検を実施しながら次年度に向けて改善する努力をしています。今後はさらに教員同志の共有と反省をふかめていければと考えています。
- ・学校関係者評価に際して、事前アンケートを実施し各項目について回答を得るが、後援会（PTA）役員への調査は比較的容易であるが、保護者全体となると回答数が少なく全体意見（評価）の把握が難しい。後援会役員からの回答は概ね好意的なものとなるため、問題点の洗い出しに関して情報が不足する。
- ・今年度はじめて教員研修センター主催の学校評価指導者養成研修に参加させていただきました。その中で、学校評価のあり方、方法等学び理解することができたと同時に他学校の先生方との意見、情報交換は有意義でした。私学においてもこのような研修会はあると思いますが、参加できていません。県レベルはもちろん地区レベルでの研修会で学ぶことは大切だと思います。

- ・平成20年度から自己評価と生徒・保護者に対するアンケートを実施してきた。生徒・保護者アンケートの集計結果を関係者評価として発表した。平成23年度から学校関係者で評価委員会を設置し、その評価を評価委員会報告として発表してきたが、平成25年度から評価委員会の報告を関係者評価として公表する。
- ・学校をよりよくする目的とはいえ、「学校評価」が始まってから、その準備、実施、結果報告等にかかなり労力を使っている。当初は改善が目に見やすく励みになったが、だんだんとマンネリ化しているのが実情（教員、生徒、保護者も）。数字での結果はわかりやすいが、それに一喜一憂するのではなく、数字の裏にある実情や隠れた声を見出して改善、改革に努めなければならないと感じる。
- ・意見ではありませんが、当学園の実施状況について報告いたします。文科省の学校評価ガイドライン、私学の研修会等の研修を受けて学校評価の必要性は痛感いたしております。ガイドラインでは学校の教育活動の一部になるのかと判断手法として ISO9001：2008 品質マネジメントシステムを2011年4月に取得し、従前より実施しておりました。学校評価をこのしくみのなかに取り入れております。
- ・各教員の自己評価において、しっかりとやっている教員ほど評価基準が厳しく、低く評価する傾向が見られ、評価結果に妥当性がない。私立学校は児童あるいは生徒募集・経営という観点から考えると、学校評価を一般の方へ公表するのは難しいことがある。
- ・生徒の学校評価・自己評価と職員の自己評価（業務評価・授業評価）については、学校運営上必要を感じます。生徒の生活・学習向上を目的とする。職員の質向上、授業力向上のために評価することは大切であり、職員会議等（研修会）で共有する意識付けができる。地域の方の評価については本校学校サポーター会を設置しており意見交換を年三回実施している。保護者の評価（意見）については保護者懇談会（会長・後援役員が招集）を実施し意見を聞く場を設けている。
- ・地方私学の状況が厳しい中、多様な生徒を受入れざるを得ない。この様な中で、保護者との連携を保ち、学校評価規準を一定レベル以上とすることに困難を感じている。
- ・本校では保護者アンケートとして実施しています。その他の学校評価は実施しておりません。
（10/28現在）＊全体生徒数（全校児童数）は116名と少数です。＊1学年1クラスです。幼小中高一貫校なので小学校独自の学校評価は実施しておりません。よろしくお願い申し上げます。
- ・色々勉強になりました。
- ・本校は、広域通信制高校のため、ホームページ等での外部への発表は行っておりません。現在検討中です。
- ・学校関係者評価について、評価結果の公表を含め、活用法を検討しなければならないと再認識した。
- ・PDCA の A をよりよく実現するために学校評価が重要であると思われる。
- ・私学は公立と違って児童募集の面で、いろいろな角度から厳しい評価を受けていますので、評価のための評価や形式主義におちいらないように気をつけたいと思っております。
- ・質問の事項や公表のあり方を再検討し、今年度の学校評価に反映させていきたいと考えている。

- ・評価項目を限定しながら進めているが、全体としての学校評価は膨大なものとなり、現職教員だけではできない。会議の数も多くなり多忙を極めているのが実情である。
教育活動は将来目標を設定し、年度末には評価し翌年にそれを生かす方向で組み立てられているので、学校評価（自己）は行われているものと理解している。公表については、何を、どのように公表するかは、本校の課題として、現在、その公表方法について検討している。
- ・「2. 自己評価について」は、イ以降誤って記載してしまいました。平成25年度実施予定なので、まだ実施していません。
- ・様々な評価について積極的に現段階では取り組んでいないので今後検討を加えていきたい。
- ・自己評価を含め、学校運営全般について常に改善点を確認し、改善してはいるが、そのことを公表するまでの形にまとめる余裕がないのが現状です。
- ・学校関係者評価は3年に一度実施している。全付属校で統一された形で実施している。
- ・全私研大阪大会で学校関係者評価と法人評議会の関係を教えて頂きました。今年度からその形で実施したいと思います。ありがとうございました。
- ・学校評価をすることにより、教職員と共通理解をもつとともに学校の改善のために教職員と連携・協力を図る。学校運営の質を高めていきたい。
- ・2012年度、学校評価アンケート結果については、設問のみ別紙同封しております。
- ・〇〇大学では①全学自己点検評価委員会、②大学評価専門委員会、③付属高等学校評価専門委員会を設置し組織的に学校自己点検・評価を行っている。3年毎に外部評価（学校関係者による）を実施している。卒業生、保護者、有識者（塾、予備校関係者、他校関係者、地元関係者）から3～4名を選任し評価を依頼している。平成21年度、24年度に実施。
- ・学校評価の内容を精査してより良いものにしていきたいと思います。
- ・生徒の意識調査項目及び教職員との目標・学校評価に対する意識共有についてそれぞれの課題がある。何より目標を実質的に定めていくことそのものが難しい。
- ・何の評価も行っていなかった頃に比べれば、客観的に数字で表れるデータをもとにして、学校のあり方を見直すことができる点もたしかにある。
- ・実施に直接関わっているものの負担は大きいですが、効果的に活用できていない。
- ・本校の学校評価への取り組みは遅れています。そのためアンケート調査に回答できない項目があります。これから勉強させていただき、実施へ向けて努力するつもりです。よろしく願いいたします。
- ・今年度内に、「自己評価」実施を予定して、詳細を検討中です。従いまして、アンケート内容には次年度以降回答できるものと思っております。
- ・学校評価について、教員間の授業公開・見学を主体として行っており、「評価」として、まだ不十分なところもあります。
- ・今年度、来年度中に、問題のない形で行えるよう調整しております。

- ・学校評価における、自己評価、学校関係者評価、第三者評価の頻度をどの様に定めるべきであるかという点について、各学校の主体性にまかされるべきところなのではないか（特に私学においては）という思いがある。評価作業へのエネルギーは大きなものであるため、大きな評価は3～5年に一度として、その間は略式のことを重ねるという形が現実的ではないかと思っている。我々の法人は5年に一度海外からのスタッフによる **Evalutation** を受けているが、この形を日本にあてはめて、行えるといいように思っている。
- ・日本私学教育研究所の山路氏らが訪問の際もお話したが、9月末に最高裁の判決が出た法廷での騒ぎを6年間もやり「〇〇県魅力ある私立高校づくり支援事業」の評価委員会の実施と校内における教職員の意識の改革等をにらみ、学校評価に取り組んできたが、まだ第一歩を踏み出したと考えている。むしろ、これからである。
- ・学校評価は大切なものであるということは十分承知をしていますが、二学期末に実施し、それをまとめ、職員会議で説明し、それを各部会に持ちかえり、新年度に向けて目標を設定するという一連の動きが、年度末に迎える様々行事、事務的なことと(式辞処理等)重なり、十分に全教員が審議に関わっているのか、という不安を抱えている。
- ・学校評価の重要性を理解し、その十分な活用を目指しているが、道半ばである。今後とも積極的に改善していきたい。
- ・できるだけ簡易にかつ有効に行うよう努めています。“見た目”よりは、現実に関に立っているかどうかを重視しております。まだ、校長の私自身の中に「やらされている」という感覚が残っており、その分十分な学校評価になっていないことは自覚しています。今後更に勉強せねばなりません。職員に多忙感を与えるとマイナスになると考えますので、極力、既存の組織をフルに活用しております。
- ・各分掌の目標と学校教育目標との関係をより密接とするため項目をしぼっていききたい（来年度の課題）。
- ・評価後の教職員へのフィードバックがあって初めて効用があるものと思います。本校では今後の課題です。
- ・学校評価については実施しているが、十分な活用までには至っていない。
- ・現在本校では正式な形で学校評価を行っておりません。後援会総会や年に一回生徒の居住地区を一週間に渡り教員が訪問する地区後援会で直接保護者との対話は行っておりますが、法令に則った形では行っておりません。（自己評価も行っておりません）学校関係者評価は、本校評議員により行っておりますが、それを年に3回の評議員会のみで報告し、職員や保護者、地域の方との話し合い等に活用はしておりません。法令遵守の観点からも早急に対処するように努めたいと思います。
- ・現在学校関係者評価についてどのようにすべきか検討はしております。保護者の多忙を考えるとお願いしにくい面があり保留となっております。保護者のアンケートを記名にするか無記名にするか悩んでいるところです。
- ・先日は御来校いただき有り難うございました。学校評価等についてよく知らず、説明していただいて納得いたしました。来年度の実施のために準備いたしたいと考えています。

- ・自己評価の8割程度は、校務分掌組織ごとのPDCAと重ねて行っている、改善のために活用しやすいためである。そのため目標設定、評価の視点は年度により異なる場合が多く、本校の実情には有効と考えている。一方広く展開することを考えると現在の実施方法では理解されにくいと思われ、課題である。私学は改善向上のための努力は惜しんではいけないのであるから学校の独自性を尊重してほしいと願っている。
- ・設置者よりも県からの計画結果の提出を求められることが続きます。枠にはまった評価になりがちなので、学校の独自性を求め、また見出せる、柔軟な評価のあり方を考えて行きたいと思います。

ご協力、ありがとうございました。

アンケート調査依頼状

日私教研究発713031号
平成25年10月8日

私立小学校・中学校・高等学校・中等教育学校長 殿

一般財団法人日本私学教育研究所
所 長 中 川 武 夫
〔公印略〕

【 文部科学省 初等中等教育局 委託事業 】 「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」

私立学校における学校評価の実施と活用に関するアンケート調査の実施について(依頼)

一般財団法人日本私学教育研究所は、文部科学省初等中等教育局参事官付（学校運営支援担当）平成25年度「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」事業において、「私立学校における学校評価について、取組状況の分析、効果的活用を目指した資料の提供および普及のための研修等の実践的調査研究」を委託されました。本調査研究では、私立学校（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校）における「学校評価」の取り組み状況についてアンケート調査および好事例の学校訪問調査を実施いたします。このアンケート調査結果を基にして、「学校評価と私学の対応研修会」を開催し、学校評価の活用について研修等を通して学校の総合マネジメント力の強化を目指してまいります。

学校評価は、平成19年6月に学校教育法を改正し、第42条において学校評価に関する根拠となる規定を設け、さらに第43条において学校の積極的な情報提供についての規定が新たに設けられました。現在は、学校の教職員が行う「自己評価」については、**法令上全ての学校について、その実施と結果の公表の義務**が課せられております。また、**保護者及び学校関係者等による「学校関係者評価」については、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校・家庭・地域の連携協力を高め、地域とともにある学校づくりを推進する上で重要であることから、法令上の努力義務**となっております。

文部科学省の「学校評価等実施状況調査（平成23年度間）」によれば、私立学校の学校評価の実施率は、**自己評価87.7%**（小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校）、**学校関係者評価52.2%**（同左）であり、まだ実施率は低い状況です。次回は平成26年度に同様の調査が予定されており、私立学校はその対応を強く求められております。

本調査の結果につきましては、調査報告書としてまとめ、貴校にお知らせする予定です。本調査にご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。なお、学校名の公表はいたしません。

また、本調査研究の内容をより深めるために、学校評価を公開した結果の関係資料、学校評価に関する規則等ございましたら、可能な限り回答用紙に同封してお送りいただければ幸いです。

記

送 付 方 法 回答用紙・資料等を同封の大型返信用封筒（着払い）に入れてご返送いただくか、着払いの宅急便等でご送付ください。

送 付 締 切 日 平成25年10月31日（木）

送付・問合せ先 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷UNビル6階

一般財団法人日本私学教育研究所 研究調査係 宛

担 当：山路進（主任研究員）、山崎吉朗・大森隆實（専任研究員）、横山嗣巳（事務）

TEL 03-3222-1621 FAX 03-3222-1683 E-mail yokoyama@shigaku.or.jp

以 上

アンケート調査質問用紙

文部科学省初等中等教育局

平成25年度「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」

私立学校における学校評価の実施と活用に関するアンケート調査

一般財団法人 日本私学教育研究所

下記の学校評価に関するアンケート調査に、ご協力をお願いいたします。

1. 学校評価（全体）について

ア. 学校評価を行っている目的を、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 学校運営改善
- ②. 建学の精神の具現化
- ③. 教員の資質向上
- ④. 生徒の意識調査
- ⑤. 保護者の意識調査
- ⑥. 生徒募集対策
- ⑦. 授業評価
- ⑧. 教員評価（勤務評価、給与査定等）
- ⑨. その他

※「⑨. その他」の主な内容を記入してください。

イ. 目標（重点目標・年度目標・達成目標など）を共有するために行った工夫について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 目標を、育てたい児童・生徒の姿（子ども像）等の具体的にイメージできる形で表した
- ②. 職員会議等で目標を達成するための具体的な手だてについて話し合う機会を設けた
- ③. 教職員個人の目標設定の際に学校の目標と関連づけた
- ④. 建学の精神を達成するための教育活動の検討を行った
- ⑤. その他

※ 「④. その他」の主な内容を記入してください。

ウ. 学校評価の実施に伴う勤務負担を軽減するために行った工夫について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 評価項目を重点化・精選した
- ②. 校務支援ソフト等を活用した集計や分析を行った（エクセル等を利用した単純な集計は除く）
- ③. 特定の担当教職員に負担が集中しないよう、分担して作業を行った
- ④. 保護者や地域住民の作業協力を得た（アンケートへの回答や意見聴取は除く）
- ⑤. 集計等を外部の団体（事業者）に依頼した。
- ⑥. その他

※ 「⑥. その他」の主な内容を記入してください。

エ. 学校評価を実施するために、どのような参考資料を使いましたか。（複数回答可）

- ①. 学校評価ガイドライン（文部科学省）
- ②. 学校評価に関する書籍
- ③. 他校で実施した学校評価
- ④. 都道府県発行の学校評価に関する資料
- ⑤. 私学団体発行の学校評価に関する資料
- ⑥. その他の資料（不明も含む）

オ. 学校評価実施にあたって、学校評価に関する研修会（説明会）を参考にされましたか。
（複数回答可）

- ①. 日本私学教育研究所主催の学校評価関係研修会
- ②. 私学団体（私学協会等）主催の学校評価関係研修会
- ③. 都道府県（教育員会）主催の学校評価関係研修会
- ④. 大学主催の学校評価関係研修会
- ⑤. 教育産業主催の学校評価関係研修会

2. 自己評価について

ア. 自己評価の実施（法令上の義務）状況について、次より1つ選んでください。

- ①. 年度末に1回実施した・・・・・・（→以下イ. ～ク. について回答してください）
- ②. 年度末以外に1回実施した・・・・・・（→以下イ. ～ク. について回答してください）
- ③. 各学期末・前期後期末に実施した（年2回もしくは3回実施した）
・・・・・・（→以下イ. ～ク. について回答してください）
- ④. ①～③以外の時期・回数で実施した・・（→以下イ. ～ク. について回答してください）
- ⑤. 実施していない

※ 「⑤. 実施していない」主な理由を記入してください。

イ. 自己評価の評価項目（小項目）について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 教育課程・学習指導（食育、人権教育、環境教育）
- ②. キャリア教育（進路指導）
- ③. 生徒指導
- ④. 保健管理（学校給食）
- ⑤. 安全管理
- ⑥. 特別支援教育
- ⑦. 組織運営
- ⑧. 研修（資質向上の取組）
- ⑨. 教育目標・学校評価
- ⑩. 情報提供
- ⑪. 保護者、地域住民等との連携
- ⑫. 教育環境整備
- ⑬. 学校予算・事業計画

ウ. 自己評価を実施するにあたり評価指標として利用したものについて、次より選んでください。
（複数回答可）

- ①. 児童生徒からの意見聴取
- ②. 児童生徒に対するアンケートの結果
- ③. 保護者からの意見聴取
- ④. 保護者に対するアンケートの結果
- ⑤. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）からの意見聴取
- ⑥. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）に対するアンケートの結果
- ⑦. 学力に関する調査の結果（全国学力学習状況調査・独自の調査等）
- ⑧. 運動や体力に関する調査の結果（全国体力運動能力運動習慣等調査・独自の調査等）
- ⑨. 生徒指導上の諸課題の状況（いじめ・暴力行為・不登校・中退等）
- ⑩. 課外活動の状況（部活動・課外授業等）
- ⑪. キャリア教育や進路指導の状況（職業体験・就職・進学等）

エ. 自己評価結果の設置者への報告（法令上の義務）について、次より一つ選んでください。

- ①. 設置者に提出した
- ②. 設置者に提出していない

オ. 自己評価の結果の活用方法について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 職員会議等で説明を行い結果を共有した
- ②. 職員会議等で改善の手だてについて話し合う機会を設けた
- ③. 保護者や地域住民等に直接説明を行い結果を共有した
- ④. 保護者や地域住民等と改善の手だてについて話し合う機会を設けた
- ⑤. その他

※ 「⑤. その他」の主な内容を記入してください。

カ. 自己評価結果の保護者や地域住民等への公表（法令上の義務）の方法について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 直接説明する機会を設定（PTA総会、保護者会、学校説明会、面談等）
- ②. 学校便り等に掲載して配布
- ③. 学校要覧や学校ガイドに掲載
- ④. 学校のホームページに掲載
- ⑤. メール配信（メールマガジン等）
- ⑥. 地域の広報誌や回覧に掲載
- ⑦. 地域の掲示板や公共施設等に掲示
- ⑧. 特定の学校関係者にのみに公表（その理由・・・）
- ⑨. 公表していない（その理由・・・）

※⑧. または⑨. を選択する場合は1つのみ選んでください。

◆カ. で、①から⑦. と回答した場合のみ回答

キ. 公表している自己評価の評価項目（小項目）について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 教育課程・学習指導（食育、人権教育、環境教育）
- ②. キャリア教育（進路指導）
- ③. 生徒指導
- ④. 保健管理（学校給食）
- ⑤. 安全管理
- ⑥. 特別支援教育
- ⑦. 組織運営
- ⑧. 研修（資質向上の取組）
- ⑨. 教育目標・学校評価
- ⑩. 情報提供
- ⑪. 保護者、地域住民等との連携
- ⑫. 教育環境整備

ク. 自己評価に関して、課題あるいは困難があったと感じられた点について、次より選んでください。（複数回答可）

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ①. 学校評価における目標の設定 | ②. 学校評価における目標の共有 |
| ③. 評価項目や評価指標の設定 | ④. アンケート等の実施や回収 |
| ⑤. 報告書類の作成 | ⑥. 評価結果の公表 |
| ⑦. 評価結果の活用 | ⑧. 教職員の多忙感 |
| ⑨. 学校評価の意義の教職員への浸透 | ⑩. 教職員と保護者や地域住民等との意識のずれ |
| ⑪. 特に課題や困難はなかった | ※⑪. を選択する場合は⑪のみ選んでください。 |

3. 学校関係者評価（※）について

（※）教職員による自己評価の結果を踏まえた、保護者等学校関係者による評価

ア. 学校関係者評価の実施（法令上の努力義務）状況について、次より選んでください。

（①. ②. は複数回答可）

- ①. 学校法人の評議員会で実施した・・・（→以下カ. ～サ. について、回答してください）
- ②. 学校関係者を構成して実施した・・・（→以下イ. およびエ. サ. について、回答してください）
- ③. 実施していない・・・・・・・・・・・・（→以下ウ. について、回答してください）

◆ア. で②. と回答した場合に回答

イ. 学校関係者評価を開催した回数は、どのくらいですか。次より1つ選んでください。

- ①. 年度末に1回実施した
- ②. 年度末以外に1回実施した
- ③. 各学期末・前期後期末に実施した（年2回もしくは3回実施した）
- ④. ②. ～③. 以外の時期・回数で実施した

◆ア. で③. と回答した場合のみ回答

ウ. 学校関係者評価を実施していない理由について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 学校関係者評価を実施する必要性が現時点では乏しいと考えているため
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（→以下エ. について回答してください。エ. で終了）
 - ②. 学校関係者評価の実施方法が分からないため（ここで、終了）
 - ③. 学校関係者評価委員の確保が困難なため（ここで、終了）
 - ④. 学校関係者評価を実施する時間的余裕がないため（ここで、終了）
 - ⑤. 次年度以降の実施に向けて準備中であるため（ここで、終了）
 - ⑥. 学校関係者評価について知らなかった。（ここで、終了）
 - ⑦. その他
- ※ 「⑦. その他」の主な内容を記入してください。

◆ウ. で①. と回答した場合のみ回答

エ. 学校関係者評価を実施する必要性が現時点では乏しいと考える理由について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 学校関係者評価の実施が法令上の努力義務であることを知らなかったため
 - ②. 自己評価（外部アンケート等を含む）の実施・公表で十分だと考えているため
 - ③. 入学等に際し、既に児童生徒や保護者の評価（選択）を受けているため
 - ④. 日頃から保護者や地域住民等とは十分に意思疎通ができているため
 - ⑤. 学校法人の評議員（私立）等に教育活動その他の学校運営に関する意見をもらっており、それで十分であると考えているため
 - ⑥. その他
- ※ 「⑥. その他」の主な内容を記入してください。

◆イ. で②..と回答した場合のみ回答

オ. 学校関係者評価の評価者の構成について、次より選んでください。(複数回答可)

- ①. (現役) P T A役員
- ②. (元) P T A役員
- ③. ①～②以外の保護者
- ④. 自治会等関係者 (自治会、町内会、地区の役員等)
- ⑤. 社会福祉施設・団体関係者 (社会福祉協議会職員、民生委員、児童委員、老人ホーム職員等)
- ⑥. 社会教育施設・団体関係者 (公民館、子ども会、青年団、婦人会、スポーツ少年団の役員等)
- ⑦. 地元企業・N P O関係者
- ⑧. 卒業生・同窓生
- ⑨. 学校評議員
- ⑩. 学校運営協議会委員 (公立学校のみ)
- ⑪. 学校法人の評議員 (私立学校のみ)
- ⑫. 学校支援組織のコーディネーター・ボランティア
- ⑬. 他校の教職員
- ⑭. 元教職員
- ⑮. 学識経験者等
- ⑯. その他

※ 「⑯. その他」の主な内容を記入してください。

※ 1 人の学校関係者評価委員が複数の属性に該当する場合は、委嘱するに当たって、最も重要視した属性を 1 つ選択して下さい。

カ. 学校関係者評価委員が評価の実施に際して行った活動について、次より選んでください。
(複数回答可)

- ①. 授業参観
- ②. 学校行事の参観
- ③. 管理職との対話
- ④. 管理職以外の教職員との対話
- ⑤. 児童生徒からの意見聴取
- ⑥. 児童生徒に対するアンケート結果の分析
- ⑦. 保護者からの意見聴取
- ⑧. 保護者に対するアンケート結果の分析
- ⑨. 学校関係者 (児童生徒及び保護者除く) からの意見聴取
- ⑩. 学校関係者 (児童生徒及び保護者除く) に対するアンケート結果の分析
- ⑪. (学校関係者評価委員以外の) 保護者や地域住民等へ公表する資料の作成・編集

キ. 学校関係者評価結果の設置者への報告について、次より一つ選んでください。

- ①. 設置者 (学校法人) に報告した
- ②. 設置者 (学校法人) に報告していない

ク. 学校関係者評価の結果の活用方法について、次より選んでください。(複数回答可)

- ①. 職員会議等で説明を行い結果を共有した
- ②. 職員会議等で改善の手だてについて話し合う機会を設けた
- ③. 保護者や地域住民等に直接説明を行い結果を共有した
- ④. 保護者や地域住民等と改善の手だてについて話し合う機会を設けた
- ⑤. その他

※ 「⑤. その他」の主な内容を記入してください。

ケ. 学校関係者評価結果の保護者や地域住民等への公表（法令上の努力義務）の方法について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 直接説明する機会を設定（ＰＴＡ総会、保護者会、学校説明会、面談等）
- ②. 学校便り等に掲載して配布
- ③. 学校要覧や学校ガイドに掲載
- ④. 学校のホームページに掲載
- ⑤. メール配信（メールマガジン等）
- ⑥. 地域の広報誌や回覧に掲載
- ⑦. 地域の掲示板や公共施設等に掲示
- ⑧. 特定の学校関係者にのみに公表
- ⑨. 公表していない（その理由をご記入ください・・・）

※⑨. を選択する場合は⑨のみを選んでください。

◆ケ. で①. から⑧. の場合

コ. 学校関係者評価結果として公表した内容を、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 授業参観の報告
- ②. 学校行事の参観の報告
- ③. 管理職との対話の報告
- ④. 管理職以外の教職員との対話の報告
- ⑤. 児童生徒からの意見聴取の報告
- ⑥. 児童生徒に対するアンケート結果の分析の報告
- ⑦. 保護者からの意見聴取の報告
- ⑧. 保護者に対するアンケート結果の分析の報告
- ⑨. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）からの意見聴取の報告
- ⑩. 学校関係者（児童生徒及び保護者除く）に対するアンケート結果の分析の報告
- ⑪. （学校関係者評価委員以外の）保護者や地域住民等へ公表する資料の作成・報告

サ. 学校関係者評価に関して、課題あるいは困難があったと感じられた点について、次より選んでください。（複数回答可）

- ①. 学校評価における目標の設定
- ②. 学校評価における目標の共有
- ③. 評価項目や評価指標の設定
- ④. アンケート等の実施や回収
- ⑤. 報告書類の作成
- ⑥. 評価結果の公表
- ⑦. 評価結果の活用
- ⑧. 教職員の多忙感
- ⑨. 学校評価の意義の教職員への浸透
- ⑩. 教職員と保護者や地域住民等との意識のずれ
- ⑪. 特に課題や困難はなかった

◎学校評価についてのご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力、ありがとうございました。

アンケート調査回答用紙

私立学校における学校評価の実施と活用に関するアンケート調査 回答用紙

() 内に①. ②. ③. ……の記号を、【……】の欄には必要事項をご記入ください。

0. ご記入者のプロフィール

【ご記入年月日 平成25年 月 日】

【都道府県名】	【学校名】
【ご記入者職名・氏名】	
【貴校の学校区分】 ※該当する数字及び英記号に○印を付してください。 1．小学校 2．中学校 3．高等学校 4．中高併設校 5．中等教育学校 6．その他 [] ※1.～5. の区分に当てはまらない場合その他としてご記入ください。 A．男子校 B．女子校 C．共学校（男女校を含む）	

※本調査研究の内容をより深めるために、学校評価を公開した結果の関係資料、学校評価に関する資料等がございましたら、可能な限り本回答用紙に同封してお送りいただければ幸いです。

1. 学校評価（全体）について

ア. ()	ウ. ()
【⑨の内容】	【⑥の内容】
イ. ()	エ. ()
【⑤の内容】	オ. ()

2. 自己評価について

ア. ()	【⑤の内容】
【⑤の理由】	
イ. ()	カ. ()
ウ. ()	【⑧または⑨の理由】
エ. ()	
	キ. ()
	ク. ()

3. 学校関係者評価について

ア. ()	カ. ()
イ. ()	キ. ()
ウ. ()	ク. ()
【⑦の内容】	【⑤の内容】
エ. ()	ケ. ()
【⑥の内容】	【⑨の理由】
オ. ()	コ. ()
【⑩の内容】	サ. ()

◎学校評価についての御意見

【御意見等ございましたらご記入ください】

ご協力ありがとうございました。一般財団法人 日本私学教育研究所 研究調査係

学校評価についての基礎知識（アンケートに同封したもの）

学校評価についての基礎知識

一般財団法人 日本私学教育研究所

現在の学校評価についての基礎知識を整理しました。今回のアンケートの参考資料としてご活用ください。

1. 学校評価の必要性と目的

学習指導要領の「基準性」などにより学校の裁量が拡大し、自主性・自律性が高まってきている。そのため、教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、児童生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育の水準の向上と保証を図ることが重要である。また、学校運営の質に対する保護者等の関心が高まる中、学校が適切に説明責任を果たすとともに、学校の状況に関する共通理解を持つことにより相互の連携協力の促進が図られることが期待される。これらのことから、学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校及び設置者等が学校運営の改善を図ること、及び、評価結果等を広く保護者等に公表していくことが求められる。

このことから、学校評価は、以下の3つを目的として実施するものであり、これにより児童生徒がより良い教育活動等を享受できるように、学校運営の改善と発展を目指すための重要な教育活動である。

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2. 学校評価の定義（自己評価、学校関係者評価、第三者評価）

学校評価は、これまで3つの形式に分けられてきた（学校教育法等の一部を改正、平成19年12月26日）。しかし、従来広く用いられてきた「外部評価」の用語は、狭くは保護者や地域住民による評価を、広くは第三者評価も含めて学校外の有識者等による評価を指す用語として使われており、同じ語を用いながらその具体的内容は様々であった。

そこで、「外部評価」を構成する要素やその性質に鑑み、これを保護者や地域住民など学校と密接な関係を有する者による「学校関係者評価」と、学校運営に関する外部の専門家等による「第三者評価」の2つに、概念上分けて整理している。

	これまでの定義	新定義
当該学校の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価	自己評価	自己評価
保護者、学校評議員、地域住民、青少年健全育成関係団体の関係者、接続する学校（小学校に接続する中学校など）の教職員その他の学校関係者 などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価	外部評価	学校関係者評価
その学校に直接かわりをもたない専門家等が、自己評価及び学校関係者評価の結果等も資料として活用しつつ、教育活動その他の学校運営全般について、専門的・客観的(第三者的)立場から評価	第三者評価	第三者評価

3. 学校評価に関する法律

学校評価の実施については、「学校教育法等の一部を改正する法律の施行期日を定める政令」（平成19年政令第362号）の公布・施行により、平成19年12月26日より施行することとされた。

学校教育法

第42条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。
※幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等にもそれぞれ準用。

学校教育法施行規則

第66条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第67条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

第68条 小学校は、第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。
※幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等にもそれぞれ準用。

これにより、各学校は法令上、

- ① 教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること、
- ② 保護者などの学校の関係者による評価（「学校関係者評価」）を行うとともにその結果を公表するよう努めること、
- ③ 自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者に報告すること、

が必要となる。これを表にすると、下記になる。私立学校もこの法律の範囲になり、学校評価の実施が求められている。

	実施 (学校法人に報告を含む)	公表 (外部者が参照)
自己評価	法令上の義務	法令上の義務
学校関係者評価	法令上の努力義務	法令上の努力義務

学校評価（自己評価、学校関係者評価）の提出先は、設置者である「学校法人」である。

4. 自己評価は法令上の義務（公表も）

自己評価は、学校評価の最も基本となるものであり、校長のリーダーシップの下で、当該学校の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うものである。

学校の教育活動は、学校が自らの責任のもとに、主体性をもって意図的・計画的に行うものです。そこで、自己評価では、最初に重点的に取り組むことが必要な単年度の目標を具体的・明確に定める。その目標の達成に向けた評価項目・指標を精選して設定する。各学校は、評価項目・指標に基づき、目標の達成状況や取組状況を評価するとともに、その改善方策を検討する。自己評価を行うに当たり、児童生徒、保護者、（地域住民等）から寄せられた具体的な意見や要望、児童生徒による授業評価など、児童生徒・保護者を対象とするアンケート等の結果を活用する。

この学校運営の改善のための自己評価の実施にあたっては、PDCA サイクルによる改善活動が有効である。学校評価のPDCA サイクルでは、

- ① 成果や課題を基に、目標と具体的方策を設定する。(Plan)
- ② 計画に基づき、具体的方策を実践する。(Do)
- ③ 実践した具体的方策の達成状況を自己評価する。(Check)
- ④ 目標の達成状況を診断・分析し、成果や課題を洗い出す。(Action)

という段階が関連しながらサイクルとして機能していく必要がある。また、児童生徒や保護者、地域住民等の意見を学校の教育目標や活動に反映させて教育の質の向上を図り、より良い学校づくりをめざして取り組むことが重要である。

・自己評価の結果の公表、報告書の設置者への提出が法令上の義務

各学校は、自己評価の結果について、それを踏まえた今後の改善方策と併せて、広く保護者や地域住民等に公表する。また、**各学校は、自己評価の結果及び今後の改善方策をとりまとめた報告書を設置者（学校法人）に提出する。また、公表についても法令上の義務である。**

学校評価は、その結果の報告書の作成自体が目的化するという「評価のための評価」となることなく、今後の改善につながる実効性ある取組とすることが重要である。

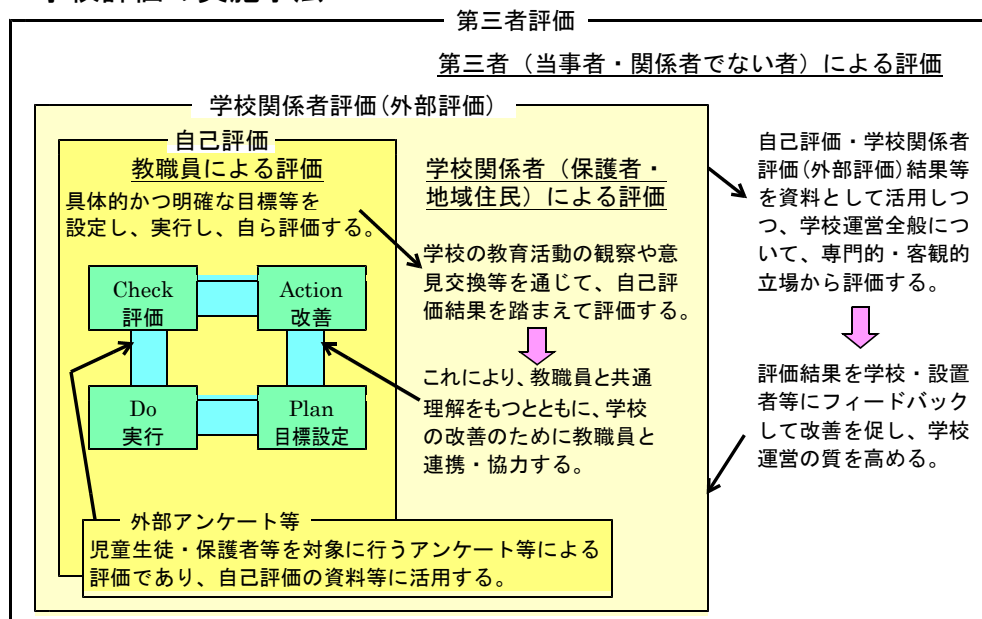
5. 学校関係者評価は法令上の努力義務

学校関係者評価は、保護者、学校評議員、地域住民、青少年健全育成関係団体の関係者、接続する学校（小学校に接続する中学校など）の教職員その他の学校関係者などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本として行うものである。

教職員による自己評価と保護者等による学校関係者評価は、学校運営の改善を図る上で不可欠のものとして、有機的・一体的に位置付けるべきものである。

さらに、学校関係者評価は、「教職員による自己評価の結果を踏まえた、保護者等学校関係者による評価」であるが、私立学校の場合、学校法人に設置される評議員会は、この学校関係者の機能を有する。従って、評議員会において学校関係者評価に相当する働きを行えば学校関係者評価を実施していると言える。

学校評価の実施手法



※自己評価・学校関係者評価(外部評価)・第三者評価の囲みは、定義として内に含む範囲ではなく評価対象として含む範囲を指す。

自己評価を踏まえた学校関係者評価

学校関係者評価には、自己評価の結果を評価することを通じて、

- ① 自己評価の客観性・透明性を高めること、
 - ② 学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たること、
- が期待されており、学校・家庭・地域を結ぶ「コミュニケーション・ツール」としての活用を図ることが重要

主体的・能動的な評価活動

外部アンケート等の実施で学校関係者評価に代えることは適当ではない。

アンケートへの回答や自己評価結果についての単なる意見聴取などの受動的な評価ではなく、評価者の主体的・能動的な評価活動が重要

・保護者にアンケートするだけでは学校関係者評価にはならない

保護者へのアンケートや懇談会の実施を「外部評価」ととらえてきた例もみられたが、現在はそれに留まらず、「学校関係者評価」としての保護者等による評価の実施に努めることが法令上求められている。アンケート等については、学校の自己評価を行う上で、目標等の設定・達成状況や取組の適切さ等について評価するためのものととらえることが適当であり、学校関係者評価とは異なることに留意する。

・教員評価と学校評価（自己評価・学校関係者評価）の共通性と相違点

一般に、教員評価では、各学校の目標等をもとに、教員一人一人が目標設定を行い、その目標の達成度を評価する目標管理型の評価制度を目指すものが多い。各学校の目標設定を出発点とする点で、このような教員評価は学校評価と共通している。

「教員評価」の用語は多義的であるが、例えば、

- ① 地方公務員法等に基づき法律上の義務として行われる教員の勤務評定であって、その評定の結果に基づき人事・給与等の処遇が行われるようなもの、
 - ② 授業観察を通じて教員がわかりやすい授業に取り組んでいるかどうかや、割り当てられた校務分掌を適切に処理しているかなどの教員の取組を検証することにより、教員が抱える課題の発見や今後の改善につなげるためのもの、
- など、様々な類型があり得る。

しかしながら、教員評価が適切な人事管理や個々の教員の職能の開発を目的とし、その結果は公表になじまないものであるのに対し、学校評価では、組織的活動としての学校運営の改善を目的とし、その結果を公表し、説明責任を果たすこととしているため、両者は、その目的が大きく異なる。

6. 第三者評価について

第三者評価は、学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について、専門的視点から評価を行うものである。

第三者評価は、実施者の責任の下で、第三者評価が必要であると判断した場合に行うものであり、法令上、実施義務や実施の努力義務を課すものではない。

参考文献

- ・学校評価ガイドライン〔平成22年改訂〕、文部科学省、平成22年7月20日

第 3 章

学校評価訪問調査と好事例 （参考事例）の調査研究

第3章 学校評価訪問調査と好事例（参考事例）の調査研究

学校評価の好事例の収集と現状把握を実施するため、学校訪問調査を日程と予算の範囲内で行った。
訪問校の選択は、

- ・第2章の学校評価アンケートの回答から、好事例あるいは特色ある学校評価を行っている学校
- ・学校評価研修会等でご参加いただいた学校関係者等に依頼あるいはご紹介いただいた学校
- ・Web など教育関係書籍資料から、好事例あるいは特色ある学校評価を行っている学校

などから選び、連絡を取り訪問調査をご快諾いただけた学校を訪問した。

「学校評価」訪問調査校

- ・6月11日（火）A校、B校
- ・8月30日（金）C校
- ・10月24日（木）D校、E校
- ・10月25日（金）F校
- ・11月6日（水）G校
- ・11月14日（木）・15日（金）H校、I校、J校
- ・11月15日（金）K校
- ・11月27日（水）L校

また、好事例および参考になる学校評価の事例を、学校評価アンケート調査時にご恵贈いただいた資料の中から選びまとめた。

1. 学校訪問調査実施報告

A 校

訪問調査を行う端緒として、ホームページ上で実施状況が掲載されていたA校で聞き取り調査を行うことにした。

調査期日 平成25年6月11日（火曜日）

調査委員 山路 進、大森 隆實、原 芳典、富居 啓一、澤村 興平、横山 嗣巳

同行者 文部科学省初等中等教育局担当官3名

説明者 学校長

学校概要

A幼稚園（昭和39年設立）が母体となり、健常児と自閉症児の混合教育が始まる。その後、昭和52年に小学校が、昭和58年に中学校が設立される。さらに、昭和61年に技能高等専修学校が設立され現在に至る。創立者は、****と****で、「混合教育」と自閉症児の自立を促進する「生活療法」を柱とし、健常児と自閉症児の双方に教育成果が見られることに特色がある。

学校評価について

＜学校自己点検・評価＞

各年度の目標を立て、具体的な取り組みを通し、その成果と達成度を評価する。評価の尺度としては、

- ・生徒個々の能力に合った教材が選定されているか
- ・個々の生徒が主体的に発信する意識が育っているか
- ・教員・生徒が、日々の教育活動の中で積極的に推進し浸透しているか
- ・保護者への浸透度は

＜教育環境・教育課程の評価＞

- ・教育環境の質的・量的整備は適切か
- ・カリキュラムの特色は適切か。特に、自閉症児クラスの教科カリキュラムは社会自立に役立つものか

＜教科指導の評価＞

- ・習熟度別授業を重視し、そのためのカリキュラムと教員配置は適切か
- ・各種の資格取得は成果を挙げているか
- ・学期ごとに生徒による授業評価を実施

＜その他の評価＞

- ・生徒の活動、進路指導、研修、教育活動の公開性、安全・危機管理 保健・衛生等についてそれぞれ校長の立場で評価する。

これらの評価について、次年度の教育活動に役立てるためには、秋までにその年度の評価をし、年度内に次年度の計画を立案させることが肝要との、校長の言葉が印象的であった。

学校見学

校長の案内で、学校施設及び授業風景を見学する。

混合教育の名の通り、自閉症児も能力に応じて健常児のクラスに混じり教育がなされているが、校長の説明がなければどの子が自閉症児か判別できない。全教員が、生徒の実態と能力をきめ細かく把握し、情報交換を常に行っているために可能なこととの説明があった。校長が、一人ひとりの生徒を実に良く把握しておられ、教員同士および校長と教員との間での情報交換が効果をあげていることが分かる案内であった。

感 想

発達障害児教育と学校経営

幼稚園で自閉症の幼児を預かることから始まった学園が、小学校へ進学する児童の保護者の要望に応え小学校を設立し、さらに、中学校を設立、技能専修高等学校を設立という経緯で発展してきた学園であるが、多数の正規雇用の教員を抱え、経営は決して楽ではなさそうである。しかし、自閉症児をも指導する学校として教員間の意思の疎通や、情報交換の早さ正確さが問われることから、非常勤の講師が多くては成果が上がらないことは頷けるところである。

幼から中までの一貫教育と混合教育の成果

小学校または中学からの中途入学生もいるが、幼稚園からの在校生がかなりの人数を占めており、障害を持った生徒十数人を一人または二人の教員で授業を行っていることに正直な驚きと感動を覚えた。長い目でそして丁寧な指導がなされてきたからこそその風景と思う。専任教員が多く目の見、しかも、健常児と共に育てられてきた成果であろう。

入試に際しての家庭・親の考え方の重視

障害を持つ児童生徒との混合教育に対し、健常児の保護者は違和感や疎外感を持たないのであろうか。校長は、自閉症児が健常児から学ぶことも多いが、健常児にとっても混合教育は意義のある物であると明言されていた。他人を想う優しさは、この環境だからこそごく自然に育まれていくという。

健全児の保護者も幼稚園時代からそうした中で育っていく我が子を誇りにしているようである。

前項であげた中途入学生の入試に際しても、保護者の混合教育に対する考え方や理解度を重視しているとのことであった。

理事・評議委員会の組織にも工夫がなされているようで、自閉症の児童生徒との混合教育に見識と理解を持った委員で組織されていることがうかがえた。

建学の精神に基づく私立学校の在り方を実践し具現している学校、私学の独自性を大切にしている学校との感を強く感じさせられた。
(富居 啓一)

B 校

調査期日 平成25年6月11日（火曜日）

調査委員 山路 進、大森 隆實、原 芳典、富居 啓一、澤村 興平、横山 嗣巳

同行者 文部科学省初等中等教育局担当官3名

説明者 学校長、教頭

学校概要と学校評価の関わり

前身の**中・高校（女子）の定員の充足率が例年30%であったが平成21年4月に校名を変更し、周知徹底した後、平成22年4月から共学部を設置、大規模な学校改革に着手している。改革に当たっての留意点は以下の5項目である。

- ① 教育の理念を高く掲げると共に進学に強い学校を目指す。
- ② 新設校であるので学校説明会等で説明してきた約束等に対する検証を具体的に実施して行く。
- ③ 学校教育活動のあらゆる分野を保護者、生徒からみえるようにする。
- ④ 具体的に目標の数値化を計る。
- ⑤ システムを作って提示する。

学校評価制度

I. 長期教育計画書の作成

4カ年の長期教育計画基本方針を提出する。

（ア）教育目標

（イ）目指す学校→6項目をあげる。

II. 単年度実施計画書の作成（6分野）

- ・教育検証部（総務部）
- ・生徒活動部（生徒指導部）
- ・学力向上部（進路指導部）
- ・教育設計部（教務部）
- ・入試管理部（生徒指導部）
- ・学校経営会議

以上の6セクションから具体的な取り組みと方策が提案されている。

感想等

校長先生のリーダーシップ

全く新しい学校を創るという強い意志の下、各セクションに対し御自分のビジョンを示し、実行を

促している。と、同時に開かれた学校を目指し双方向（保護者・生徒と学校）のスムーズな交流を目指し、単なるアンケート形式の情報収集、公開に止まらず新入生の保護者全員に対して、夏休みを利用して朝の9時から夜の9時迄を使って、相手の都合に合わせた面接を実施されていることには少なからず驚かされる。

教員の資質について

女子校から共学校になるということについて教員の中に意識の戸惑いは無かったのかという質問については、明確にそれは無かったということである。女子校時代の生徒定員充足率は3割程度だったので、新システムになってから若い教員がどっと採用された。それで、旧意識を切り替えないと自然淘汰されるという現象も起きていた。

評議委員会

地域に開かれた学校、地域と共存するという観点では地元商店街の方々に役員になっていただいて、学校を応援してもらう体制をとっている。各季節毎の行事、学校祭や体育祭等々には地域の方々を学校に招待している。
(富居 啓一)

G 校

調査期日 平成25年11月6日（水曜日）

調査委員 大森 隆實、富居 啓一、澤村 興平

説明者 学校長

学校概要

- ・全校生38名（1学年6～7名）の小規模校
- ・「知・徳・体」を育む教育を掲げる。正門前の掲示に、「徳・知・体」と有り、徳が前に出ている印象を強く受けた。
- ・農園での労作教育や国際理解教育の英語学習等を重視し、多年齢学級教授法で異年齢児童の交わりによる、学習効果の向上を図っている。

学校評価

- ・学校関係者評価を実施している

① 保護者対象のアンケート

項目：学習環境 教材 特色教育 宗教教育 教員の対応 情報教育 満足度

：学校に力を入れてほしいこと

② 児童対象のアンケート

項目：学校は楽しいですか

：教室は落ちつきますか

：授業内容がよく分かりますか

：労作を頑張っていますか

：違う学年の人とも遊んだり話したりしますか

：その他

いずれも、集計結果を学校要覧に掲載し、保護者及び入学希望者の保護者等に公表している。

(澤村 興平)

H校、I校、J校

調査期間 平成25年11月14日（木曜日）・15日（金曜日）

調査委員 大森 隆實、富居 啓一、澤村 興平

<H校>

- ・平成19年県の学事課から招集がかかり、平成20年度から学校評価表を作成し、公表するよう指導があった。
- ・学校教育を改善するきっかけとして、小・中・高で研修を行い、学園としてのモチベーションを上げる。
- ・評価→公表→講評→評価 効果を上げる努力につなげる。
- ・年1回の評価を行い、11月末日までに評価をまとめ、年度末に公表する。
- ・平成22年度は、「縦（年齢に応じたサービスにつなげる）」と「横（同学年の年度ごとの違いを分析）」の分析を行った。
 - 一人ひとりを観て違いを大切にす指導へつなげる。
 - コミュニケーションを重視し、保護者との面談を最低年3回行う。
- ・教師が家庭での仕事としての毎日の宿題を精一杯努力している様子を良く観てくれるとの児童の評価につながっている。
- ・個人指導を重視している。担任＋補助教員で6年間見続けることにより、児童の変化を見ることができる。
- ・危険の指摘→改善→情報として発信

<I校>

- ・上記学校と姉妹校のため、ほぼ同じ事例が見られる。

<J校>

- ・教員の資質向上に資する。
- ・専任と講師とで姿勢が異なるので改善したい。

（澤村 興平）

L校

調査期日 平成25年11月27日（水曜日）

調査委員 大森 隆實、富居 啓一、澤村 興平

説明者 学園長、校長、教頭、学園主事

学校評価について

- ・平成19年より実践。市教委・県教委からの指導があった。
 - 縛りはないが、やる義務はあり、公立との違いなどの説明
- ・文科省の通達に沿い
 - 自己評価：目標の設定－評価－報告を行っている。
 - 学校関係者評価：学校関係者評価委員会を設置し、年3回開催している。保護者、元保護者、卒業生、有識者の15人で構成している。

第 三 者 評 価：なし

- ・私学としての基準がないので、ISO9001 を導入している。
- ・内部監査の仕組みを活用
 - 監査の仕方を学習し監査の資格を取得する。
- ・評価結果に出た不適合にはいち早く対応し、改善方法を模索している。
- ・授業評価については、指導目標を重視し、その評価を校務分掌と教科部会で検討を行い、下記の項目に留意し、整合性を図りながら新しい目標の設定を行っていく。
 - 修正と改善の連鎖 <授業を変えていかななくてはならない>
 - 他人や個人のせいにならない。
 - 組織として、小・中・高での教員配置転換および交流（業務命令）を行い、教員の可能性と児童・生徒の可能性を模索していく。

2. 学校評価の好事例（参考事例）等

C 校 自己評価の実施概要

I. 自己評価実施概要

- ・形 態 アンケートによる調査（無記名方式）
- ・対象者

対 象 者	人 員	回答率	備 考
生徒（1年から5年）	608名	98.4%	回収（中学 254名 高校 344名）
卒業生（6年）	177名	94.4%	回収（167名）
保護者（1年から5年）	608名	93.1%	回収（中学 241名 高校 325名）
卒業生保護者	177名	81.4%	回収（144名）

II. 評価概要

- ・評価項目数 【1年～5年生徒】 30項目（26項目が程度を問う設問）
【6年卒業生】 30項目（25項目が程度を問う設問）
【1年～5年保護者】 20項目（16項目が程度を問う設問）
【卒業生保護者】 20項目（17項目が程度を問う設問）
- ・程度を問う問題の選択肢
1：思う 2：だいたい思う 3：あまり思わない 4：思わない 5：わからない
1：満足 2：やや満足 3：やや不満足 4：不満足 5：わからない
- ・対象者ごとの結果概要（傾向）
 - ①【1年～5年生徒】について
 - ・中・高校生とも総合的な満足度が上昇し、80%に近づいてきた。その他のほとんどの質問項目で昨年度より数値が上昇した。特に中学生については、学習に関する内容の上げ幅が大きい。しかし、まだ60%以下の数値であり、十分とはいえない。生徒は興味のわく授業展開を求めている。塾や予備校に行く必要を感じている生徒は減少傾向にあり、学校での授業と家庭学習の充実をさらに推進したい。また、朝学習の効果を生徒が実感していない。
 - ・担任や友人関係（90%以上）、クラスでの満足度もさらに上昇した。

Ⅲ. アンケート結果

【在校生アンケート】 在籍：608名 回収：598名（98.4%）

現在の学校生活において思う程度を次の(1)～(5)のうちから選ぶ。

(1)思う (2)大体そう思う (3)あまりそう思わない (4)そう思わない (5)わからない

*数字は(1)＋(2)の比率

	中学（１～３年）			高校（４年・５年）		
	22年度	23年度	24年度	22年度	23年度	24年度
１．制服がよい						
２．本校のおかげで規則正しい(規律ある)生活が送れる						
３．いじめなどが少ない						
４．設備が整っている						
５．部活動・クラブ活動がよい						
６．女子校に入ってよかった						
７．私立に入ってよかった						
８．よい友人が多い						
９．よい先生がたくさんいる						
10．担任が自分のことを考えてくれる						
11．興味のもてる授業が多い						
12．わかりやすい授業が多い						
13．自分の学力を伸ばしてくれる						
14．習熟度授業がよい						
15．朝学習は学力向上に役立っている						
16．家庭学習は昨年と比べて増加した						
17．塾や予備校に行く必要を感じている						
18．学習と部活が両立できるように配慮されている						
19．進路についてよく面倒を見てくれる						
20．将来に役立つことを教えてくれる						
21．本校に入学して、将来に希望がもてるようになった						
22．やる気を出させてくれる						
23．知人や将来的に自分の子供に本校を勧める						
24．クラスに満足している						
25．総合的に見て学校生活に満足している						

設問26からは選択した上位２位までを記載する。

		(１位)	(２位)
		22年度	23年度
26．校内で好感の持てる教員は何人いるか	中学 4・5年	2～4人 2～4人	5～9人 5～9人
27．好感の持てる理由	中学 4・5年	話しかけやすい やさしい	やさしい 話しかけやすい
28．楽しく、充実している学校行事	中学 4・5年	学園祭 修学旅行	〇〇体験学習 学園祭
29．会食についての感想	中学 4・5年	残さず食べる 残さず食べる	おいしい マナーに気をを使う
30．知らない人へ本校を紹介する場合の内容	中学 4・5年	礼法 礼法	行事が多い 授業が厳しい

E 校 目標と評価の観点

重点目標	具体的取組	評価の観点	評価
「学力を伸ばす学校」であるための指導の充実	シラバスを生徒全員に配布し、授業内容・授業進度等を明確にし、年間を見通した学習をさせる。	【満足度指標】 シラバスが全教員・全生徒の指標となっている。	A
	チャイムと同時に授業を開始し、チャイムと同時に授業を終了する。	【努力指標】 チャイムの鳴る3分前に行動を起こす。	B
	普通コースにおける進学補習を実施し、大学進学を質量ともに増やす。	【努力指標】 全教科で積極的に実施し、結果を出す。	B
	演習により、基礎学力の定着を図る。	【努力指標】 全教科で積極的に参加し、成果を上げる。	B
	いろいろな資格を取得させることで、学力の伸長をはかる。	【成果指標】 全生徒が3級以上の資格を持つ。	D
	授業評価を実施し、授業の質を高める。	【成果指標】 生徒の意見が反映され、教員の授業への取組が向上した。	実施せず
「うつくしく、逞しく」の精神を身につけるための指導の充実	皆勤賞を設け、毎日欠かさず学校へ通学し、授業の大切さを実感させる。	【成果指標】 皆勤者を大幅に増加させる。	B
	卒業生等に講演をお願いし、実社会の厳しさと労働することの大切さを学ぶ。また、卒業生の高校時代の話聞き、自分の高校生活の参考にさせる。	【満足度指標】 生徒が感動を覚える講演会。	B
	校風の高揚により、愛校心と帰属意識を育てる（校歌・応援歌）。	【成果指標】 愛校心を大きく増加させる。	C
保護者と提携した学校づくり	保護者面談会により、保護者との連携をはかる。	【成果指標】 生徒への指導がいつそうやりやすくなる。	B
	家庭訪問を実施することで、生徒の教育環境を知り、指導に生かす。	【満足度指標】 保護者との信頼関係が醸成される。	C
	P T A総会へ積極的に参加してもらうことにより、保護者との連携を深める。	【満足度指標】 保護者が学校の状況を認識する。	C
	P T A活動に参加しての満足度 P T A 3 委員会の活動	アンケートや口コミで評価する。	A
	P T A活動が生徒の教育的支援になっている各種行事への参加があり、このことが家庭の中で活用されているか。	【満足度指標】 情報発信と回収、P Rがなされているか。	C

F 校 学校評価委員会等についての学校便りの記事

第2回学校評価委員会・学校関係者評価委員会・***事業国際人材の育成 F 高等学校評価委員会が開かれました。

この会議には、県議会議員（本校卒業生）が来賓としてご出席。町長（本学園副理事長）、教育委員会管理指導主事、警察署長、本校の系列大学の学長をはじめ各位のご出席をいただきました。

本校の今年度の現状と課題等について、各担当より説明がありました。

F 校

平成25年度学校評議員会並びに学校関係者評価委員会***事業国際人材の育成F高等学校
評価委員会「地域の声を聞く会」

質疑応答

●校務分掌を通しての教職員が取り組んでいることについて

＜Aさん＞ 看護科2クラスになるが、教員はどうなるのか。

———現在シミュレーション中。今後の状況で基幹病院や学校立地場所で引率教員が楽になる。
次年度入学してくる生徒にとっては基幹病院で実習ができないので実習場所を増やす必要
があると考えている。9月末までに文科省に申請して受け付けてもらう予定。

＜Aさん＞ 看護科の担任は1年生から看護科教員であることが希望である。

———そうやらざるを得ないと思っている。また、現在はそのようになっている。

●本校の現在の課題等への取り組みについて

＜Bさん＞ 看護科は定員が増えているが、受け入れ体制（教育体制）はどうなのか。

———志願者については、**の中学を卒業し、母親と一緒に本校のある市内にアパートを借りて5年間通うという生徒がいる。また、昨年**県から寮があったら是非入学したいという問い合わせがあった。今後、寮の整備が必要となるのではないかな。
質的な学習の確保については、入試である一定のレベル以上で合格としている。国家試験に合格しないと看護師になれないので、それに対応する学力や強い意志・意欲が必要である。入学してからもカウンセリングの技術等も含めて適切に工夫しながら対応していく。

M 校

授業参観後の懇談会の活用事例

※2012年度第1回学校関係者評価委員会・懇話会議事録より

日 時 2012年11月20日（火） 12:30～14:00

午前中2，3時間目中高等部オープンクラス参観及び4時間目初等部授業参観後に設定

場 所 視聴覚室

出席者 学校関係者評価委員：PTA会長、同窓会会長

学 校 評 価 委 員：校長、教頭（司会）

オ ブ ザ ー バ ー：理事長 1名欠席（評議員・学校関係者評価委員）

議 事

1. 学校評価アンケート調査について

（1）実施の趣旨・経緯 中間報告より

（2）結果の考察 中間報告より

（3）意見交換

- ・項目により若干ばらつきはあるものの、全体的には満足できる評価となっており、本校の教育内容や指導の体制は概ね指示されているといえる。
- ・情報公開や意見聴取の項目が低い傾向がある。最近の移転問題や放射線問題が影響してい

と考えられるが、情報開示や真摯な対策を継続することで改善していくと思う。

- ・以前に比べ保護者の不満が減ってきたように思う。
- ・「人格的成長」と「学力的成長」の両立が7割近い評価を受けているのは良いが、学内だけの評価になっていないか。本校のことを良く知らない外部の保護者にも本校の良さが伝わるよう対策を強めなければならない。

2. 授業参観の感想

(1) 中高等部

- ・全体に静かに集中していて姿勢は良いと感じる。
- ・生徒の反応が消極的で、挙手が少なく、発表の声も小さいと感じた。積極的な姿勢を奨励する教師の指導がもっとあっていいのではないかな。
- ・教師の一方的な進行になりがちな授業もある。教師は生徒に向けてしっかりアイコンタクトを取り、反応を確かめながら進めるべきだ。
- ・高校英語のグレード別授業では、生徒の理解度に応じて、基本的なことにも立ち返りつつ丁寧な指導をしているのが印象的だ。教師の都合でなく生徒の必要を考えて行う授業が良い。
- ・少人数のメリットを生かし、大学受験に対応する力を十分身につける指導ができている。
- ・大規模校のような進学コース制はとらない。一人ひとりに合わせた指導を行い、誰もが伸びていけるチャンスのある教育を行う。

(2) 初等部

- ・4年生の図工は落ち着いて集中して絵をかいていた。バックグランド音楽を流すなどの工夫が良い。
- ・3Aの英語は本当に楽しそうに取り組んでいた。その授業を支えているのが複数教師制だと思う。ネイティブ教師、日本人教師、担任の役割分担がうまくかみ合い、そのメリットが活かされている。

第1回授業参観評価まとめ（2012.11.20実施）

次の表は学校関係者評価委員に11月20日に授業参観していただいた上で、回答していただいた内容をまとめたものです。

A大いに評価できる Bまずまず評価できる Cやや問題がある D大いに問題がある

教師に対する評価観点				
	観 点	A委員	B委員	C委員
1	声量、言葉遣い、指示の出し方、説明の仕方等は適切か	欠席	B	A
2	板書の仕方、机間巡視、児童生徒の指名等は適切か		B	B
3	児童生徒への対応、つまづき等への対応は適切か		B 先生の問いかけ、生徒の答えのような形式があるといい。	B
4	分かりやすく楽しい授業を心がけているか		B	B
5	教材準備、教材研究、指導方法の工夫等はできているか		B	B
6	その他			

児童生徒に対する評価観点				
1	授業態度（聞く態度、作業態度、ノートの取り方、私語など）		B	B
2	積極的に参加しているか（挙手、発言、質問等）		C 発言は少ない。	C
3	教師との関わり方かどうか（言葉遣い等）		B	B
4	授業中以外の態度はどうか（挨拶、言葉遣い、友人との関わり方等）		B	B
5	その他			
環境や施設に対する評価観点				
1	校舎内の壁、床、天井、窓、トイレ等に汚れや破損はないか		B	B
2	教室内、廊下等の整備は適切か（整理整頓、汚れ、掲示物の乱れ等）		B	A
3	机・椅子・教材教具等は適切か（汚れ、破損、故障等）		B	B 第2理科教室の水回りはもう少しきれいに掃除を
4	安全・防災設備は適切か（火災報知器、非常灯等）		B	B
5	その他			暖房が効いているが上部ばかり暑く足元が寒い。

N 校

学校評価制度実施規程

（目的）

第1条 この規程は、N高等学校（以下「本校」という。）の教育水準の向上を図り、かつ本校の教育目標を達成するため、本校の教育活動その他の諸活動について、本校の教職員で構成される自己評価委員会による自己評価を行うとともに、当該自己評価の結果について、本校の生徒の保護者、本校に関係する地域住民等の本校の学校関係者などにより構成された学校関係者評価委員会から意見を求め、その結果を公表することを目的とする。

（自己評価委員会）

第2条 自己評価委員会は、本校の校長及び次に掲げる委員をもって組織する。

（1）教頭

（2）事務長

（3）その他委員長が必要と認めた教員

2 自己評価委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

3 委員長に事故のあるとき又は欠けたときは、予めその指名する委員がその職務を代理する。

4 自己評価委員会は委員長が招集し、当該委員長が議長となる。

5 委員長は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求めることができる。

（学校関係者評価委員会）

第3条 学校関係者評価委員会は、本校の校長及び校長から委嘱を受けた次に掲げる委員をもって組

織する。

- (1) 本校の住所地の自治会長
- (2) 本校の同窓会長
- (3) 本校のPTA会長
- (4) **会会長
- (5) 校長が推薦する専門高校又は中学校・高等学校の校長又は教頭
- (6) 本校の事務長

- 2 学校関係者評価委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
- 3 委員長に事故のあるとき又は欠けたときは、予めその指名する委員がその職務を代理する。
- 4 学校関係者評価委員会は委員長が招集し、当該委員長が議長となる。
- 5 委員長は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求めることができる。

(自己評価委員会の所管事項)

第4条 自己評価委員会は、次に掲げる事項を扱うものとする。

- (1) 自己評価の実施に関する事項
- (2) 自己評価の報告書の作成並びに公表に関する事項
- (3) その他、委員長が必要と認めた事項

(学校関係者評価委員会の委員の意見)

第5条 学校関係者評価委員会の委員は、次に掲げる事項について意見を述べることができる。

- (1) 学校運営や教育活動に関する事項
- (2) 開かれた学校づくりの推進に関する事項
- (3) 学校、家庭、地域社会の連携に関する事項
- (4) 学生の進路実現及び部活動の振興に関する事項
- (5) その他、校長が必要と認めた事項

(自己評価委員会の委員の任期)

第6条 自己評価委員の任期は、4月1日から翌年の3月31日とし、再任は妨げない。

(学校関係者評価委員会の委員の任期)

第7条 学校関係者評価委員の任期は、委嘱の日から委嘱の日の属する年度の末日とする。なお、再任は妨げない。

- 2 委員が欠けたときは、速やかに新たな委員を委嘱することができる。この場合において、当該委員の任期は前任者の残任期間とする。

(公表)

第8条 本校は、第4条に規定する自己評価及び第5条に規定する意見を整理して報告書を作成し、当該報告書を公表するものとする。

(日当及び旅費)

第9条 学校関係者評価委員は、校長及び事務長を除き、日当及び旅費を支給する。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、学校評価制度に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成24年度4月1日から施行する。

参考（自己評価の評価項目）

評 価 項 目		自己評価率					
		前期		後期		平均	
		A	B	A	B	A	B
1	基本的生活習慣と基本的規範意識の確立を図る						
①	規範意識の高揚	48%	52%	56%	41%	52%	47%
②	挨拶の励行	70%	30%	76%	21%	73%	26%
③	校則の遵守及び徹底	36%	61%	41%	56%	39%	59%
④	遅刻者撲滅に向けての取り組みの強化	48%	42%	41%	50%	45%	46%
2	授業改善及び授業力の向上に努め、基礎学力の定着を図る						
①	分かりやすい授業の工夫に心がけ、チャイムと同時に授業を開始する	55%	39%	56%	38%	56%	39%
②	課題の提出、ノートの点検、確認テストを繰り返し、基礎・基本の学習事項の定着を図る	70%	27%	76%	18%	73%	23%
③	シラバスの充実に努め、授業内容や評価についての理解を促す	45%	48%	53%	38%	49%	43%
④	教材研究や授業公開に積極的に取り組み、授業力の向上に努める	42%	52%	44%	47%	43%	50%
⑤	生徒による授業評価を真摯に受け止め、改善に努める	39%	52%	41%	44%	40%	48%
3	進路意識の高揚を図り、高い志のある進路目標の実現に努める						
①	第一学年は自己理解とともに将来を見通した進路意識・目標作りをする。また、二年次以降の選択科目について適切なアドバイスに努める 第二学年は外部の進路説明会やオープンキャンパス等への積極的な参加を促し、進路目標の選択や決定を図る 第三学年は目標達成のため、最大限の能力を発揮させ、進路の実現を図る	58%	33%	50%	35%	54%	34%
②	十分な進路指導ができるよう、常に進路に関する情報や知識の習得に努める	39%	55%	44%	44%	42%	50%
③	進路の実現に向けて最大限のバックアップができる体制作りを心がける	42%	45%	50%	38%	46%	42%
4	部活動・生徒会活動等の課外活動や学校行事の充実と積極的な参加を促す						
①	部活動の活性化に努め、学校生活に潤いと活力を与える	55%	36%	44%	38%	50%	37%
②	学校行事への積極的な参加により、クラスや学年の団結力を強め、一体感を図る	52%	36%	47%	41%	50%	39%

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた

○ 校

自己評価と学校関係者評価の公表事例

平成24年度 学校自己評価及び学校関係者評価書

1. 今年度の重点目標・具体的な取り組み

学校経営方針	*****
本年度学校重点目標	1) 生徒の豊かな成長を保障する場としての学校づくりを進める。 2) 入学者の定員を確保するとともに、新学習指導要領に基づく教育課程を移行措置に従い実施し、**大学との高大連携を充実させる。
本年度の具体的な取り組み	1) 受験者数・入学者数を増やす。 2) 活力あるPTA活動の実施とともに、学習活動の環境を確保する。 3) 学力向上に努める。 4) 規律ある学校生活を実現する。 5) 安定した進路実績を実現する。 6) 心身の健康に問題を持つ生徒の早期発見に努め、支援が必要な生徒の対応に努める。 7) 地域に信頼される開かれた学校づくりに取り組む。

本年度の学校自己評価の結果

	重点目標	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校経営	入学者定員を確保し、適切な教育環境を維持・発展させる。	専願推薦入学者100名、一般入試志願者400名を確保する。		ダイナミックな募集活動を展開したい。		
		市内にある8つの私立高校間での入学者占有率12.5%(平均値)以上を維持する。		魅力ある学校であるために、中長期的な取り組みをしたい。		
学校関係者評価者による意見		中学生の高校選択の基準は部活の要素が大きい。また、学校の魅力を保護者に上手に伝えることが大切である。				
総務・渉外	活力あるPTA活動の実施とともに、学習活動の環境を確保する。	PTA活動の活性化を図り、会報を年3回発行する。		参加しやすい雰囲気作り、魅力的な企画を提案していきたい。		
		生徒の学習環境の確保に努め、避難訓練などの充実を図る。		普段から指示が徹底するようにしておきたい。		
学校関係者評価者による意見		震災の訓練を繰り返すことはとても重要である。沿岸の学校を見習い、いざというときに、体が反応するよう訓練を身につけさせた方が良い。				
学習指導	学ぶ意欲を育て、学習する習慣を身につけさせる。	各教科週2回家庭学習課題を出し、家庭学習の定着を図る。		意識とねらいを再確認し、更に充実させていきたい。		
		各定期考査前に学業不振者に補習を実施する。		成績不振者に対するケアを継続していきたい。		
	教員の授業力向上を図り、生徒の学力向上に努める。	授業交換や教科内授業等により可能な限り自習時間を無くし、授業時間の確保に努める。		さらに継続し、臨時時間を組むなど配慮していきたい。		
		校内研修会の充実と校外研修の積極的参加に努める。		来年度は県の私学研修会が復活するので多く参加していきたい。		
学校関係者評価者による意見		家庭学習、不振者補習は継続して欲しい。今後、成果が、楽しみである。生徒自ら学ぶ姿勢が出てくることを期待したい。				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立、学習規律の徹底、自主的・自立的な生活態度の育成により、心身の健全な発達を図る。	生徒1人ひとりの「チェックシート」を利用し、遅刻を減少させる。		遅刻について、事前に知らせておきたい。		
		頭髪・服装についてのマナーアップ運動を通年で実施する。		全校集会、学年集会などでも指導していきたい。		
		部活動参加率を男子80%、女子65%以上に高める。		2,3年生の退部者を減らし、部活動参加率を上げていきたい。		

P 校

町内・自治会長の評価の取り入れ事例

平成24年度 学校評価 内部評価アンケート

重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない 達成度 [4]75～100% (ほとんど) [3]50～74% (まあまあ) [2]25～49% (もう少し) [1]0～24% (わずか)		教務部 平成24年度重点目標											
		項目 3 1		①学力の向上に向けて、到達度評価の工夫、外部模試、検定などのより一層の活用などを進める。結果として、各種学力アセスメントで示される学力が、過年度、経年比較において向上することを具体的な目標とする。									
		項目 3 3		②新校舎での新しい教育環境に対応した情報環境、教務上の連絡体制、学習環境整備、教室配置の工夫を進めるとともに、I C T機器を中心とした新しい教育支援システムの研究・活用をより一層、進める。									
		項目 3 5		③体験活動を含めた各種行事において、これまでの成果を踏まえ、さらに事前・事後の取り組みを充実させ、生徒自身がその行事などにおいて主体的な活動を行うことを進めていく。さらに、その具体的な成果を学校全体で共有する。									
		項目 3 1		項目 3 3		項目 3 5							
重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度								
部署コード／平均		3. 6	3. 1	3. 6	2. 9	3. 6	2. 9						
1	31												
8	31												
9	31												
10	31												
12	31												
24	31												
28	31												
38	31												
41	31												
45	31												
48	31												
50	31												
58	31												
63	31												
66	31												
72	31												
<取組状況、次年度への課題など>													

よりよい学校づくりのために 平成24年度実施アンケート（地域の方による5段階評価）

いつも本校生徒のために、ご協力いただき、ありがとうございます。
よりよい*****をつくるために、地域の皆様のご意見をお聞かせください。
恐れ入りますが、2月6日（水）までに町会長様／自治会長様へご提出ください。

町会名 ***** 町会

以下の項目について、5～1のいずれかを○で囲んでください。

5……まったくそう思う 4……まあそう思う 3……普通
2……あまりそう思わない 1……まったくそう思わない

No	質 問	評 価				
1	* * に基づいた教育をしています。この教育方針は実践されていると思いますか。	5	④	3	2	1
2	P校の生徒は、学生らしい身だしなみをしていると思いますか。	5	④	3	2	1
3	P校の生徒は、交通ルールなど社会の決まりを守っていると思いますか。	5	4	③	2	1
4	P校の生徒は、他人（ひと）を尊重する言動ができていると思いますか。	5	4	③	2	1
5	P校の生徒は、挨拶がしっかりできていると思いますか。	5	④	3	2	1
6	P校は、地域に溶け込み認知されている学校だと思いますか。	5	④	3	2	1
7	P校のホームページを見たりして、本校をよく知っていますか。	5	4	③	2	1
8	「P校は、私達、地元の学校だ」という好意的な認識が持てる学校ですか。	5	④	3	2	1

9	●P校の生徒についてどう思いますか。 礼儀正しくよい生徒が多いように思う。
---	---

10	●P校と地域がよき協力関係になるためには何をしたらよいと思いますか。 地域行事などに大いに協力してもらいたい。
----	---

11	●P校がよりよい学校になるためにはどうしたらよいと思いますか。 開かれた学校になって欲しい。学校行事などに近隣住民等を招いてもらいたい。
----	--

12	●ほかに何かアドバイスや要望がありましたら、お書きください。 長い校舎建築が続いている。早く騒音から解放されたい。
----	---

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

Q 校

学校評価の企画と年間計画事例

学校評価（自己評価）について①（案）

1. 学校評価の目的

文部科学省（文科省）は、学校評価の目的について、次の3点を挙げている。

- 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図ること
- 学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進めること
- 設置者が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、教育水準の保証・向上を図ること

以上のことと、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すこと及び、学校が説明責任を果たし、家庭との連携協力の推進が重要視されていることを踏まえ、本校において、下記の目標を定め、学校評価を進めていく。

—— 学校評価の目的 ——

具体的な視点で重点化した年度目標や具体策の達成状況を把握し、改善を行う「評価サイクル」（PDCA[※]）の繰り返しによって、学校運営を改善し、教育の質の向上を図ることと、外部評価の実施や評価結果の公表等の取り組みも含めた、年間を通した評価活動を実施することにより、教育内容の充実を図る。 ※ Plan（計画） Do（実行） Check（確認） Action（改善）

2. 学校評価の種類

【自己評価】⇒教職員による評価

【学校関係者評価】⇒保護者等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として実施する評価

【第三者評価】⇒学校とその設置者（法人）が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から実施する評価

3. 自己評価

（1）内容

- 重点的に取り組むことが必要な単年度の目標を具体的かつ明確に定め、その目標の達成に向けた評価項目・指標を精選して設定する。
- 評価項目・指標に基づき、目的の達成状況や取組状況を評価するとともに、その改善策を検討する。
- 自己評価を実施するにあたり、児童・保護者から寄せられた具体的な意見や要望、児童による授業評価など、児童・保護者を対象とするアンケート等の結果を活用する。

（2）評価結果の公表、情報提供

- 自己評価・学校関係者評価の結果と、それらを踏まえた今後の改善策について、学校便りへ

の掲載、報告書の発刊、ホームページへの掲載等により、広く保護者に公表する。

- 日頃の取り組みなど学校に関する情報を、随時、学校便りやホームページを通して、保護者に対して日常的・積極的に発信していく。

（３）実施手順

—ポイント—

- 重点化された具体的な目標の設定
⇒重点化された目標設定が自己評価の始まりであり、重点目標は、本校の課題に即した具体的で明確なものとし、総花的な設定を避けて精選することが重要である。
- PDCA サイクルにより自己評価の実施
⇒重点化された目標に基づく評価（評価項目の設定）、評価結果に基づく改善方策の立案が重要である。

—手順—

- ①精選された具体的かつ明確な重点目標の設定
- ②重点目標の達成に必要な具体的な取り組み等を、自己評価の評価項目として設定（５月実施）
- ③評価項目の達成・取り組み状況を把握するための指標の設定（自己評価書の作成：５月実施）
- ④重点目標の達成を目指した具体的な取り組みの推進
- ⑤学校運営に関する様々な情報・資料を、継続的に収集・整理
- ⑥全教職員の参加による組織的な自己評価の実施
- ⑦中間評価会を実施し、（１１月実施）その結果に基づいた重点目標、評価項目・指標等の見直し
- ⑧学校関係者評価の実施（従来実施している保護者・指導対象のアンケート：２月実施）
- ⑨学校関係者評価も踏まえ、最終評価会（３月）を実施し、自己評価の結果や改善策について、総括評価としてまとめ、広く保護者への公表（翌年度の４月実施：学校方針説明会等）

4. 自己評価書の作成

（１）目的

教職員が学校教育目標を共有し、かつ達成状況を評価するとともに、保護者への説明責任を果たすという見地からも自己評価書の作成が強く求められている。

そこで、学校長が示す「学校経営方針」や前年度の総括評価を踏まえて整理し、内容・記述の仕方等について学校評価（自己評価）を実施し、検証・改善サイクルとして有効に機能することを目指して自己評価書（総括シート・項目別評価シート）を作成することによって、自己評価を実施する。

本校として自己評価の目的は、次の３点である。

自己評価についての本校の目標

- 教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指す。
- 教育活動の成果を公表し、学校の説明責任を果たすとともに、家庭との連携・協力を進める。
- 本年度学校経営方針及び昨年度の総括評価に基づき、教育活動の改善に資する。

(2) 自己評価実施の流れ

※ 5月上旬 学校評価委員会 部会 別途 1 (達成状況・評価の理由・次年度への改善点は空欄にしておく)

学校目標や昨年度までの反省を受けて、各部に分かれ、学校評価項目別シートの目標・評価項目・取り組む内容を検討し、決定する。



5月末 学校評価委員会 全体会

各部で立案した案を全体に周知し、意見を聞き、修正する。



10月初 学校評価委員会 中間評価 部会 別途 2

個々の教員より中間評価を集約し、まとめる。(項目別評価・中間結果と分析)

※各教員が自分の取り組みについて評価する。

(第3者的評価ではなく、一個人の評価とする。)

(各個1～5点で点数をつけ、その平均を全体の評価とする。)



10月中 学校評価委員会 中間評価 全体会

取り組みの進展状況・課題について周知する。



2月末 学校評価委員会 最終評価 部会 別途 3

個々の教員より本年度の最終評価を集約し、まとめる。(項目別最終評価と分析)

※各教員が自分の取り組みについて評価する。

(第3者的評価ではなく、一個人の評価とする。)



3月上 学校評価委員会 最終評価 全体会

各部からの本年度の学校評価の最終評価を周知し、次年度へつなぐようにする。



3月中 学校評価総括評価シートを作成し、本年度のまとめとする。 別途 4

学校評価部会

1. 学校経営の重点

○教務部長・教務部

2. 学習指導・研修の重点

○校務研修部長・研修部

3. 生活指導・保健管理の重点

○児童部長・児童部

4. 進路指導および児童募集の重点

○企画部長・企画部

総括評価

○教頭・教務部長・校務研修部長・児童部長・企画部長

※○印は、部会のまとめ役

(部会は、各部ごとに時間をとって行い、全体会は職員会議内で行うものとする。)

別途 1

項 目 別 評 価 シ ー ト (例)

(3) 第 1 回学校評価委員会の実施 (各項目別分科会に分かれて実施)

記 述 欄		記 述 内 容
学校教育目標		人に愛される人 信頼される人 尊敬される人を育成する。
1. 重点目標		当年度に重点的に取り組む目標
2. 評価項目の達成状況	評価項目	①学校経営の重点 ②学習指導・研修の重点 ③生活指導・保健管理の重点 ④進路指導及び児童募集の重点 ⑤その他
	達成状況	該当する項目別評価シートの「達成状況」欄の右列の評価を記載する。
	評価の理由	該当する項目別評価シートの「結果と分析」欄を要約する。
3. 次年度への改善点		全ての項目別評価シートの「次年度への改善点」を要約する。

(4) 項目別評価シート (別途 2 参照)

記 述 欄		記 述 内 容
目 標		総括評価シートの「重点目標」の達成に向けた当該評価項目 (重点) の当年度の目標 (「何をどのような状態にするのか」を記述する。)
取り組む内容 (指標)		目標達成に向けた取り組む内容と取り組み状況を把握するための指標の設定 (具体的に分かりやすいように記述する。) ⇒「何をどのような方法で、どのような状態にするのか」「何に、どれだけ取り組むのか」などの表現で記述する。)
結果と分析		①全ての取り組む内容 (指標) について、達成状況が目標と比べて「どうであったか」を記述し、【達成状況】欄の左列の評定理由が分かるように記述する。 ②各取り組む内容 (指標) の達成状況をどのような形でまとめた結果、【達成状況】欄の右列の評定になったのかを記述する。
次年度への改善点		取り組む内容 (指標) については、「何が課題で」「どのように改善していくのか」を具体的に記述する。

(5) 評価基準

評価基準	記 述 内 容
5	目標を上回って達成した。
4	目標どおりに達成した。
3	取り組みを進めたが、目標を達成するには至らなかった。
2	取り組んだが、改善の余地を残した。
1	ほとんど取り組むことができず、目標も達成できなかった。

1. 学校経営の重点 目 標 ～～ ～～～		小学校
評価項目	記 述 内 容	達成状況
①組織運営	職責、個人情報の管理、校務分掌の円滑な推進、業務の効率化等	5
②安全対策	安全（防災）マニュアル等の作成、避難訓練の実施状況等	2
③校種間連携	接続学校園（幼・小、小・中）との連携（児童の活動）等	1
④家庭との連携	情報発信（学級・学年便り等）、保教会活動への参加等	3
⑤施設・設備	施設・設備の管理、安全点検の実施状況等	4

R 校

学校関係者評価の評価者の選抜事例 ※2012年度からの学校評価の基本方針から抜粋

<学校関係者評価者>

- 学校関係者評価を行うため、学校関係者評価委員を選抜する。
 - 2013年度より1～6年生の各学年から1名を選抜し、委員による学校評価を行う。
 - 任期は、2年とする。（1年ごとに半数改選で1・3・5年生を改選学年とする。初年度の2013年は、1・3・5年生は3年任期、2・4年生は2年任期、6年生は1年任期でスタートする）
 - 学校関係者評価委員は、4月当初と、8月・2 or 3月の年3回、学校評価委員と意見交換をする。
 - 選抜は、各学年の先生方の推薦や管理職の推薦を経て、校長が決定し任命する。
- 自己評価の結果を基に、自己評価の客観性、透明性を高めるため、学校関係者により日々の教育活動を見学し、学校評価委員と意見交換を行って共通理解や、学校の教育活動を吟味することで建設的な方向性を打ち出していく。
- 保護者全体へのアンケート結果も、学校関係者との意見交流の参考資料とする。
- 学校関係者評価は、できる範囲の公表をする。保護者アンケートは公表する。

S 校

第三者評価の規程と実施事例

6 第三者評価

学校の教育力を高め、地域に信頼される魅力ある学校づくりの推進を図ることを目的として、学校が設定する「目指す学校像」、重点目標及びその実現に向けた取組等について、次に掲げる事項を実施することにより第三者評価を行うものとする。

(1) 第三者評価委員会の設置

- 学校の教育や運営に関して高い識見を有する者によって構成される第三者評価委員会を設置する。
- 第三者評価は、学校の自己評価のプロセスや課題解決に向けた取組の的確性、適切性に

ついて評価を行う。

(2) 第三者評価の実施

第三者評価は、文書による調査及び学校訪問による調査等に基づき行う。

ア 文書による調査

文書による調査は、学校自己評価シート及び学校の組織及び教育活動の概要等を示す文書により行う。

イ 学校訪問による調査

学校訪問による調査は、学校の管理職からのヒアリング、教職員や保護者・児童生徒との対話等により行う。

(3) その他

この要綱に定めるもののほか、第三者評価委員会に関し必要な事項は、校長が定めるものとする。

実施事例

学力向上と進路目標の実現について

家庭学習の充実が一つの課題であるが、家庭での学習の一部を校内で行わせる取り組みをしている学校が増えてきている。自発的に学習に取り組ませる場を多く提供しているのである。例えば、部活動の後1時間でも学校で勉強できる体制をとっている学校もあれば、駅前にサテライト教室を設けている学校もある。また、校内のちょっとしたスペースに机と椅子を置き、生徒に自由に勉強させている学校もある。勉強する場を家庭だけに限定せず、校内でも学習できるような設備、態勢を検討してみてはどうか。

授業力向上のための取り組みは今後も継続すべきである。公開授業や研究授業を実施することは大切であるが、互いの授業を見て批評しあう活動を半強制的にでも行うようにすべきであろう。中高の連携もなおいっそう図るべきである。

英語教育

数値目標を直ちに設けるべきである。各学年の終了時にどのくらいの英語力を身に付けて欲しいかを、英検や TOEIC、TOEFL、GTEC などの外部テストの点数で示すようにする。日常的な教育活動に方向性を与えるためにも、こうした目標を具体的に立てることは大切である。また、英検の合格者を表彰するなどの取り組みも必要であろう。学力をつけさせるためにはある程度の競争も不可欠である。

他校の例を見ると、英語のシャワーなどの英会話的な活動は必ずしも学力テストの成績向上につながらないことがわかる。どちらの分野にも偏らない均等な目配りが求められている。

個人情報の保護について

学校関係者の評価は妥当である。できるだけ学校での生徒の様子を知りたいというのは当然の要求である。個人情報を保護できる範囲内で可能な限り校内校外の様子を写真などで知らせるようにして欲しい。

大地震に備えた態勢づくりについて

生徒が校外で地震にあった場合にどう行動すればよいかも指導すべきであろう。＊＊との連携など、相互援助機関のネットワークを考えてみてはどうか。また、必要な情報を生徒手帳に記載しておくなどのことも考えてほしい。

丁 校

学校評価実施要領及び評価委員会設置要綱

学校評価委員会

1. 学校評価実施の趣旨

2007年（平成19年）6月の学校教育法改正、同10月の学校教育法施行規則改正により自己評価、学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられ、2008年4月より実施が義務付けられました。その目的について文部科学省では次の3点を挙げています。

- ①各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより学校として組織的、継続的な改善を図ること
- ②各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすと共に、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること
- ③各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること

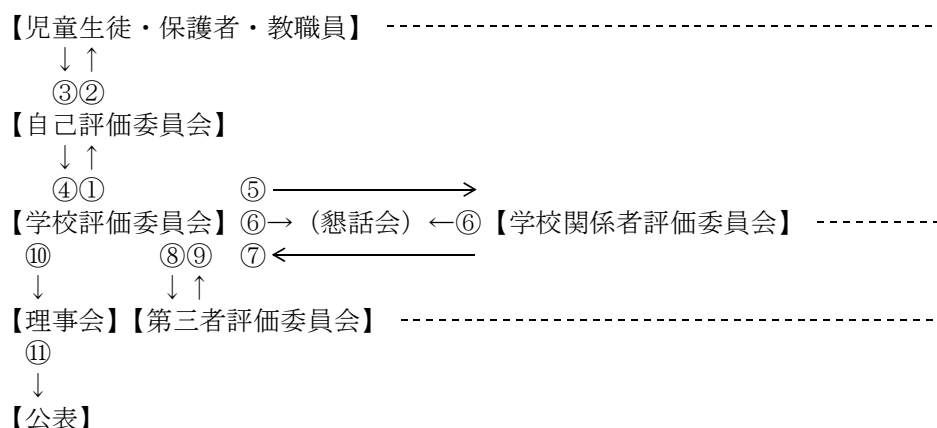
私立学校では上記3点を含め、あらゆる分野において改善・向上を目指し、組織的・継続的に努力を重ねています。私立学校の「建学の精神」とその実現を目指す日々の実践は常に厳しい評価にさらされています。すなわち存続そのものが評価であり、絶えざる改善・向上の取り組みなくして存続はありえません。本校では内外の評価委員の忌憚のない評価をもとに、本校の教育活動の長短の現状を検証し、よりよい教育活動の実現に結びつけることが大切と考えます。

※学校評価のスケジュール

- | | |
|--------|--|
| 8月 | 教師研修会 |
| 10月 | 児童生徒・保護者・教師学校評価アンケート調査 |
| 10・11月 | 学校評価委員会がアンケート調査結果を学校関係者評価委員会へ提出
授業参観等の結果をふまえて第1回評価委員懇話会開催 |
| 1・2月 | 学校関係者評価委員による報告書作成及び学校評価委員会へ提出
第2回評価委員懇話会
第三者評価委員による評価報告書作成及び学校評価委員会へ提出 |
| 3月 | 学校評価委員会より理事会へ報告 |
| 4・5月 | 公表 |

2. 評価委員会設置要綱

(1) 評価委員会の組織図



(2) 各委員会の役割（文中の①～⑪は組織図の数字に対応する）

i 学校評価委員会

校長（委員長）、教頭（副委員長）、以下学校運営委員会のメンバー7名により校正され、自己評価委員会、学校関係者評価委員会、第三者評価委員会及び懇話会の職務内容を決め、次の職務を遂行する。

- ① 自己評価委員会へ評価資料の収集を依頼する。
- ④⑤ 自己評価委員会の評価資料を基に報告書を作成し、学校関係者評価委員会へ提出する。
- ⑥ その後懇話会を開催し、学校関係者評価委員会へ資料を提供する。
- ⑦⑧ 学校関係者評価委員会の報告を受けて第三者評価委員会へ提出し、評価を依頼する。
- ⑨⑩⑪ 第三者評価委員会の報告を受けて理事会へ報告し、公表する。

ii 自己評価委員会

学校評価委員で構成し、委員長を教頭、副委員長を各部長とする。各部の部長は副部長と共に小中高の連携をとり、その部を中心に次の職務を遂行する。校務分掌主任及び教科主任はこれを補佐する。

- ①② 学校評価委員会の計画を受けてアンケート調査等を実施する。
- ③④ 調査結果を集計し、委員長へ提出する。事務長を中心に財務等の自己評価報告書を作成し、委員長へ提出する。
- ⑤ 委員長は集計結果を受けて各部の自己評価報告書を作成し、学校評価委員会へ提出する。

iii 学校関係者評価委員会

P T A四役より1名、評議員より1名、同窓会役員より1名で構成し、次の職務を遂行する。

- ⑤⑥⑦ 学校評価委員会よりの自己評価報告書を精査し、懇話会を経て学校関係者評価委員会報告書を取りまとめ、それを学校評価委員会へ提出する。

iv 第三者評価委員会

第三者により構成し（1人でも可）、次の職務を遂行する。

- ⑧⑨ 学校評価委員会より最終報告を受け、精査し、これを学校評価委員会へ提出する。

2012年度学校評価各委員会一覧

i 学校評価委員会	校長（委員長）、教頭（副委員長）、理事長、初等部長、初等部副部長、中高等部長、中高等部副部長、事務長
ii 自己評価委員会	教頭（委員長）、初等部長（副委員長）、中高等部長（副委員長）、理事長、校長、初等部副部長、中高等部副部長、事務長
iii 学校関係者評価委員会	P T A会長、評議員、同窓会会長
iv 第三者評価委員会	〇〇学園園長、〇〇大学学長

3. 自己評価アンケート項目の設定基準

（１）「自己評価アンケートは網羅的で細かなチェックを行うものではなく、重点化された目標を設定し精選して実施するものである」という文部科学省通達の趣旨に従い、アンケート項目を設定した。

（２）2008から2010年度の３年間は、「目指す学校像」、「学習」、「生活」、「行事」の４分野に対する意識調査を22の詳細項目にわたって調査し、有意な一定の結果を得た。2011年度は継続調査として上記４項目を細分化せずに、ざっくりと４項目の満足度を調査した。

同時に新しい試みとして、本校の日頃の教育活動に対する満足度を知るため、新たな４項目「意見聴取の機会」「教師同士のコミュニケーション」「情報公開」「安全対策」の満足度調査と２項目「本校は学習指導と生活指導のどちらに力を入れているか」「どちらに力を入れて欲しいか」の優先順位調査を実施した。

今年度はこれらの経過をふまえたうえで、評価委員の助言を参考に、本校の教育方針に対する満足度を率直に正面から問うことにした。これが児童生徒・保護者用アンケートのⅥ「人格的成長と学力的成長の両立達成度」、Ⅶ「優先度」についての設問である。

さらに教師用のアンケートでは、保護者がどちらを欲しているか推察する問いも実施した。教師（本校）と保護者の意識の乖離または一致度を知るためである。

（３）建学の精神、今年度の重点目標、教育方針は以下のようになっている。

建学の精神 「—————」

重点目標 「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなた方も人にしなさい」

教育方針

- ・ ころ豊かな、知性を備えた児童生徒の育成
- ・ 各自の個性を尊重し、創造性豊かな児童生徒の育成
- ・ 英語教育の徹底と国際的視野の向上を図り、国際人として社会に貢献できる児童生徒の育成
- ・ 運動を通して強健なころと身体をつくり、神と人ともに奉仕する児童生徒の育成

4. 2012年度自己評価アンケート調査項目

【児童生徒・保護者用】

I. 過去4年間の継続調査

〔A〕建学の精神等、本校の根幹をなす本校の指導全般について

- | | |
|---------------|----------------|
| (1) 大いに満足している | (2) まずまず満足している |
| (3) やや不満である | (4) 大いに不満である |

〔B〕学習指導に対する本校の取り組みについて

- | | |
|---------------|----------------|
| (1) 大いに満足している | (2) まずまず満足している |
| (3) やや不満である | (4) 大いに不満である |

〔C〕人格教育に対する本校の取り組みについて

- | | |
|---------------|----------------|
| (1) 大いに満足している | (2) まずまず満足している |
| (3) やや不満である | (4) 大いに不満である |

〔D〕行事全般に対する本校の取り組みについて

- | | |
|---------------|----------------|
| (1) 大いに満足している | (2) まずまず満足している |
| (3) やや不満である | (4) 大いに不満である |

II. 本校があなたの意見を聞く機会を作ってくれていると感じますか

- | | |
|-------------|--------------|
| (1) 大いに感じる | (2) まずまず感じる |
| (3) あまり感じない | (4) ほとんど感じない |

III. 本校の教師同士のコミュニケーションについてどのように感じますか

- | | |
|-------------------|--------------------|
| (1) 大いに取れていると感じる | (2) まずまず取れていると感じる |
| (3) あまり取れていないと感じる | (4) ほとんど取れていないと感じる |

IV. 本校の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開や隠し事等について

- | |
|------------------------------|
| (1) 十分に情報公開し、隠し事がほとんどないと感じる |
| (2) まずまず情報公開し、隠し事がまずまずないと感じる |
| (3) あまり情報公開せず、隠し事が多少あるように感じる |
| (4) ほとんど情報公開せず、隠し事が非常に多いと感じる |

V. 本校の安全対策全般についてどのように感じますか

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| (1) 大いに対策をとっていると感じる | (2) まずまず対策をとっていると感じる |
| (3) あまり対策をとっていないと感じる | (4) ほとんど対策をとっていないと感じる |

VI. 建学の精神にもとづいて「人格的な成長」（豊で強健なこころ、個性、創造性など）を促し、「学力的な成長」も達成するのが本校の教育方針です。この方針は達成できていると感じますか。

- | |
|---|
| (1) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方とも大いに達成できている |
| (2) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方ともまずまず達成できている |
| (3) 「人格的な成長」は達成できているが、「学力的な成長」は不十分だと感じる |
| (4) 「人格的な成長」は不十分だが、「学力的な成長」は達成できていると感じる |
| (5) 両方とも不十分である |

VII. 上記の方針について、あなたは次のどれを望みますか

- (1) あきらかに「学力的な成長」を重視して欲しい
- (2) どちらかというと「学力的な成長」を重視して欲しい
- (3) あきらかに「人格的な成長」を重視して欲しい
- (4) どちらかというと「人格的な成長」を重視して欲しい
- (5) 現在の方針を堅持して欲しい

【教師用】

I. 過去4年間の継続調査（自分自身の努力に対する満足度）

〔A〕建学の精神等、本校の根幹をなす指導全般に関するあなたの満足度は？

- (1) 大いに満足している
- (2) まずまず満足している
- (3) やや不満である
- (4) 大いに不満である

〔B〕学習指導に関するあなたの満足度は？

- (1) 大いに満足している
- (2) まずまず満足している
- (3) やや不満である
- (4) 大いに不満である

〔C〕人格教育に関するあなたの満足度は？

- (1) 大いに満足している
- (2) まずまず満足している
- (3) やや不満である
- (4) 大いに不満である

〔D〕行事全般に関するあなたの満足度は？

- (1) 大いに満足している
- (2) まずまず満足している
- (3) やや不満である
- (4) 大いに不満である

II. 本校（あなた）は、保護者・児童生徒の意見等を聞く機会を作っていると思いますか

- (1) 大いに思う
- (2) まずまず思う
- (3) あまり思わない
- (4) ほとんど思わない

III. 本校（あなた）の教師同士のコミュニケーションについてどのように感じますか

- (1) 大いに取れていると感じる
- (2) まずまず取れていると感じる
- (3) あまり取れていないと感じる
- (4) ほとんど取れていないと感じる

IV. 本校（あなた）の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開や隠し事等について

- (1) 十分に情報公開し、隠し事がほとんどないと感じる
- (2) まずまず情報公開し、隠し事がまずまずないと感じる
- (3) あまり情報公開せず、隠し事が多少あるように感じる
- (4) ほとんど情報公開せず、隠し事が非常に多いと感じる

V. 本校（あなた）の安全対策全般についてどのように感じますか

- (1) 大いに対策をとっていると感じる
- (2) まずまず対策をとっていると感じる
- (3) あまり対策をとっていないと感じる
- (4) ほとんど対策をとっていないと感じる

VI. 建学の精神にもとづいて「人格的な成長」（豊で強健なこころ、個性、創造性など）を促し、「学力的な成長」も達成するのが本校の教育方針です。この方針は達成できていると感じますか。

- (1) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方とも大いに達成できている
- (2) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方ともまずまず達成できている

- (3) 「人格的な成長」は達成できているが、「学力的な成長」は不十分だと感じる
- (4) 「人格的な成長」は不十分だが、「学力的な成長」は達成できていると感じる
- (5) 両方とも不十分である

VII. 上記の方針について、保護者はどのように欲していると思いますか

- (1) あきらかに「学力的な成長」を重視して欲しい
- (2) どちらかという「学力的な成長」を重視して欲しい
- (3) あきらかに「人格的な成長」を重視して欲しい
- (4) どちらかという「人格的な成長」を重視して欲しい
- (5) 現在の方針を堅持して欲しい

VIII. 上記の方針について、あなたは次のどれを望みますか

- (1) あきらかに「学力的な成長」を重視して欲しい
- (2) どちらかという「学力的な成長」を重視して欲しい
- (3) あきらかに「人格的な成長」を重視して欲しい
- (4) どちらかという「人格的な成長」を重視して欲しい
- (5) 現在の方針を堅持して欲しい

5. 自己評価アンケート結果の処理方法

※Ⅰ～Ⅴについての数値は、(1)～(4)をポイント化して満足度を表したものである。

- (1) 大いに満足している……………3点 (2) まずまず満足している………2点
- (3) やや満足している……………1点 (4) 大いに不満である……………0点

回答総数12名の場合

- 例1 (1) 12人 (2) 0人 (3) 0人 (4) 0人
 $(3 \text{ 点} \times 12 \text{ 人}) + (2 \text{ 点} \times 0 \text{ 人}) + (1 \text{ 点} \times 0 \text{ 人}) + (0 \text{ 点} \times 0 \text{ 人}) = 36 \text{ 点}$
 $36 \div (3 \text{ 点} \times 12 \text{ 人}) \times 100 = 100 \text{ ポイント}$
- 例2 (1) 6人 (2) 6人 (3) 0人 (4) 0人
 $(3 \text{ 点} \times 6 \text{ 人}) + (2 \text{ 点} \times 6 \text{ 人}) + (1 \text{ 点} \times 0 \text{ 人}) + (0 \text{ 点} \times 0 \text{ 人}) = 30 \text{ 点}$
 $30 \div (3 \text{ 点} \times 12 \text{ 人}) \times 100 \approx 83 \text{ ポイント}$
- 例3 (1) 3人 (2) 3人 (3) 3人 (4) 3人
 $(3 \text{ 点} \times 3 \text{ 人}) + (2 \text{ 点} \times 3 \text{ 人}) + (1 \text{ 点} \times 3 \text{ 人}) + (0 \text{ 点} \times 3 \text{ 人}) = 18 \text{ 点}$
 $18 \div (3 \text{ 点} \times 12 \text{ 人}) \times 100 \approx 50 \text{ ポイント}$
- 例4 (1) 0人 (2) 0人 (3) 6人 (4) 6人
 $(3 \text{ 点} \times 0 \text{ 人}) + (2 \text{ 点} \times 0 \text{ 人}) + (1 \text{ 点} \times 6 \text{ 人}) + (0 \text{ 点} \times 6 \text{ 人}) = 6 \text{ 点}$
 $6 \div (3 \text{ 点} \times 12 \text{ 人}) \times 100 \approx 17 \text{ ポイント}$

全員が大いに満足していれば100ポイントとなり、各項目が均衡していれば満足度50ポイント、全員が大いに不満なら0ポイント。一般に満足度60ポイント以上で正常とされている。

※Ⅵ～Ⅶ(Ⅷ)についての数値は、回答総数に対するパーセンテージを表す。

U 校 学校関係者評価の評価事例

平成25年3月に開催された小学校評価委員会では、下記メンバーによる活発な意見交換があり、重点目標が概ね達成された確認と保護者アンケートからくみ取れる次年度以降、特に留意すべき点などが指摘された。関係者の方々には、後日、評価項目について書面にてご意見を提出していただいた。

平成24年度小学校学校評価委員会 出席者 ※敬称略

<オブザーバー>

学園長 * * * * (学校評価委員会委員長)
 常務理事 * * * * (学校評価委員会事務局)
 事務局長 * * * * (学校評価委員会委員)
 参 与 * * * * (学校評価委員会委員)

<小学校 学校評価委員会>

有識者 * * * * (〇〇大学教授) ※ご欠席
 中学校委員(接続校) * * * *
 幼稚園委員(接続校) * * * *
 小学校父母の会部会長 * * * * ※ * * * * (代理出席)
 小学校指名保護者 * * * * (2年協議員)
 小学校指名保護者 * * * * (4年協議員)
 小学校評価委員 * * * *
 委員長 * * * *
 <記録> * * * * (本学園小学校教諭)

保護者評価

<保護者1>

評価項目	評 価
学習指導	〇〇プランの方針「数学」「英語」の授業を低学年から行うことに加え、心の成長「〇〇〇〇」という授業を新設する等、大変すばらしいことだと思う。が、指導に当たる先生によって、かなりバラツキがあるように感じる。また、行事の多さと授業の兼ね合いも難しい。学ぶ楽しさ、「学ぶという事」から始まり、学校での「学び方」「板書の仕方」「ノートの作り方」など、集団学習の基本を徹底していただきたい。
生活指導	少人数クラスに賛成。ただ、これも人数の問題だけではなく、子ども一人ひとりと気持ちが向き合う指導をお願いしたい。子どもは意外と先生をよく見ている。(直感的に感じている)
学内広報	周知されるまでには時間と回数が必要だと思う。引き続き、内容の濃い広報活動をお願いします。 6年保護者に向けての中学校説明会はとてもよかった。特に、現役の中学生(小学校の卒業生)の話を聞くことができ、より具体的にイメージができた。

安全対策	安全対策は年々改善していただき、親として感謝している。また、方面別集会を親も参加するスタイルをとったのもよかった。ぜひ、今後も続けていってほしい。アンケートでも各学年共に高い評価であるのも学校のご努力の賜だと思う。
小学校6年間全ての教育に感謝します。特に、子どもたちの自主性を重んじた数々の行事、そこに向けての先生方のご指導は本当に素晴らしいです。反面、「学習」のスタート時期である小学校時代、十分に勉強ができていないか難しい。(行事準備のために授業を充てる等)「学ぶ」ということの本質を重んじる小学校、机に向かうことだけが勉強ではないことは百も承知しています。だからこそ、先生方お一人お一人の采配によるところが大きいように感じます。 学校側は多くの子が学習塾に通う現状をどう捉えているのでしょうか。その多くは受験のためではなく、授業を補うためのもののようにです。本来ならば、学校での勉強は、学校の先生が目標レベルに達するまで指導していただくのがその姿だと思うのですが……。さらなる小学校のご発展をお祈りします。	

<保護者2>

評価項目	評 価
学習指導	創立者〇〇先生の「伝統ある教育理念」を基に創立〇周年に向けた「〇〇プラン」への具体的な教育改革には先生方の熱い思いを感じ、さらなる学園の発展を確信する思いであります。低学年では基礎学力の向上を、高学年では中学進学を見越した学習内容等も取り組み、学力の底上げを期待している。
生活指導	「挨拶」は人とのコミュニケーションの第一歩、本学園の子には「明るく元気で挨拶ができる子ども」になってほしい。ぜひ「挨拶運動」を。また、車通学する子どもが多く見受けられ、「ドライブスルーの学校」と耳にしたことも。通学時で身につくマナー・ルール・基礎体力・友達との交流のためにも、やむを得ない都合による車通学以外は子ども自身での通学を徹底すべきです。
学内広報	周囲で「学園ホームページに関心を持つようになった。」との声を多く聞くようになった。スキー学校のオンタイムの情報は保護者が知りたかった情報で、ホームページを身近に感じるに至り、情報だけでなく、心の繋がりをを感じる。また、連絡校との進学説明会は大変有意義であり、子どもたちが進学を楽しみにする意志が強くなったと感じられた。
安全対策	安全対策強化により、不振者対応には功を奏し、安全な学校という印象を強く感じた。また、緊急時、公立・私立学校間でのメーリングリストでは情報の交換として大きな成果を上げ、緊急時対応が迅速かつ正確となり、保護者として大変感謝する次第。地震対策として教室内の落下物等の点検も今一度確認いただきたい。
〇〇プランに向け、1年生から導入される「英語」。「英語で遊ぼう」では他大学からの大学生ボランティアが多く、異年齢交流のためにも、ぜひ、〇〇大学の学生のボランティアも多く参加	

していただけたらと思う。また、英語を身につけ、コミュニケーションするにはやはり「挨拶」から。まず日本語で挨拶ができるようにし、「日本文化」にも興味・関心・知識のある国際人になるためにクラスデーなどには茶道や書道など「日本文化」に触れる機会があればと思う。日本文化の良さを知り、国際人として世界に大きく羽ばたく本学園の子に期待を込めて。

<保護者 3>

評価項目	評 価
学習指導	中学校の先生からのお話は、大変貴重な内容でした。基礎学力の向上に向け、平成25年度から「数学」実施。〇〇プランでは1年生から「英語」導入。「少人数学級編成」等の新たなプランに大変期待しております。本学園独自の「遊び」「散歩」から得られる体験は、本学園の子の基礎だと思うので、今後も残していただきたいと思います。
生活指導	子どもたちのお手本となるよう、まずは保護者のマナーを見直す必要を感じました。以前からお話のある通学時のマナー、最近では携帯電話のマナー等を改めて家庭で話し合いたいと思います。今後ともご指導よろしくお願いいたします。
学内広報	「学園だより」等の手に取れる冊子に比べ、「ホームページ」の利用はまだ少ない結果となっているようです。充実したホームページを開くきっかけとして、今回試験的に行われたスキー学校映像の配信等は保護者の興味を引く内容だと思うのでとてもよいと感じました。
安全対策	小学校内の安全対策は高い評価だと思います。災害時用の備蓄も万全と伺い、安心して子どもを通わせることができ、感謝いたします。
評価委員会に出席させていただき、貴重なお話を伺うことができ、本学園の子は、学園全体の先生方に育てていただいているのだと感じました。小学校での6年間を大切に、親子共々成長していきたいと思います。	

<保護者 4>

評価項目	評 価
学習指導	年々、授業時間の確保等、学力向上に努めているのを感じておりましたが、〇〇プランの完成に向けて、さらに努力されていることがわかりました。1年生からの数学と英語の授業の実施や新教科の設置等、新カリキュラムにより、よりよい学習ができることを期待いたします。
生活指導	登下校時のマナーに関して、春秋の交通安全週間に加え、1年を通して指導を行っていただき、大変感謝しております。残念ながら保護者のマナーが問題となっておりますが、保護者自身、マナーの悪さに気づいていないことも多いと思うので、具体的な事例を挙げ、保護者に伝えていくことが改善につながるのではないかと思います。

学内広報	すぐ上の中学校の情報を求める保護者が多いかと思いますが、6年生だけではなく、中学校生活が気になり出す4，5年生の保護者に対しても、詳しい情報を伝える機会があってもよいのかなと感じました。
安全対策	震災時もそうでしたが、10月の〇〇での事件においても、子どもたちの安全を第一に的確な判断をしていただき、大変感謝しております。安心して子どもをお任せすることができる学校であると思います。
評価委員会に出席させていただき、学園長をはじめ、学園の各校から見た小学校に対する意見を伺うことができ、大変貴重な経験となりました。また、アンケートより保護者の求めるものを取り入れ、本学園の良さを残しながらもよりよい学校づくりに努めていただいていることに心より感謝しております。今後も魅力ある学校であるために、保護者としても協力させていただきたいと思います。ありがとうございました。	

接続校評価

<接続校委員1>

評価項目	評 価
学習指導	小学校の先生方が、〇〇プランや新カリキュラムづくりなど、日々教材研究されていることがよい方向に向かい、保護者の方々からも期待されていることがよくわかりました。基礎学力については、どのレベルまで到達したら保護者の方々が満足、安心なさるのか、具体的にあげることは難しいかもしれません。小学校の特色でもある、遊びの中で、いかに大事なことを学んでいるかについてお話をしていき、引き続きご家庭と連携を深めていくとよいのではないかと思います。
生活指導	評価委員会に出席して、保護者の方々の反省もうかがい知ることができました。子どもたちの生活指導はもちろんですが、保護者や教員の日々の生活姿勢を見て、子どもたちは学んでいると思います。交通のルールや公共の場でのマナー、携帯電話の使い方の約束を、子どもだけではなく、保護者にも積極的に話していくことが必要な時代になってきているように思いました。 登校時の指導に関しても、朝早くから先生方が指導してくださり、ありがとうございます。いずれは子どもたち自身が、公共、交通のマナーを考え、実行できるようになればよいと思います。地域の方々は、学園に対して、とても温かく見守ってくださっていると思うので、それに甘んじることもないよう、小学校の子どもたちの明るさ、人なつこさなど、本学園の子の良さを伸ばして行かれたら、さらによいと感じました。
	年長組の保護者を対象とした、小学校の先生方による説明会を、今年度は6月に行い、よく理解した状態で小学校を親子で見学させていただけることは、進学を希望する保護者にとっては、ありがたいことです。 次に進学する学校のことについて、興味が強いようにも感じたので、教師は引き続

学内広報	き小学校内や他校のことを発信しながらも、保護者自身も受身ではなく、自ら調べていただくようお願いすることでも必要ではないかと思いました。 幼稚園でも、幼小や小～大までの連携について、希望する意見も出ていたので、一貫校のメリットとして、学園全体として一つの行事や活動等、取り組めるとさらによいのではないかと思いました。
安全対策	いろいろなパターンを想定して、避難訓練を行っていることがよくわかりました。訓練の回数が多いからと行って、必ずしも安全ということではありませんが、普段からの心構えが大事であると思いました。自分の身を自分で守ることや、有事の際は必ず教師が助けに来てくれるということを、生活の中で子どもたちが理解し、教員との信頼関係が築かれた上で、訓練がなされているものと感じました。先生方のこれまでの取り組みが、高評価につながっているものと感じました。
小学校の先生方が、〇〇先生の教育について日々研究され継承しながら、時代の流れや保護者、子どもたちの様子にあわせて、教育研究をなさっていることがよくわかりました。 スキー学校の様子を企画広報とコラボレーションして、ホームページにアップさせたり、広報として新しい取り組みをなさっていることは、すばらしいことだと思いますし、先生方の努力が感じられます。 保護者の期待が高いからこそ、様々な意見が出るといいますので、小学校から始まった本学園が実験校として、今後のさらなる飛躍に期待しています。	

< 接続校委員 2 >

評価項目	評 価
学習指導	クラス担任による指導の差が大きいと感じるときがある。
生活指導	
学内広報	
安全対策	塀に囲まれている環境はうらやましい限りです。
中学校での生徒の明るい雰囲気は、小学校のおかげだと感じている。積極性のある生徒がきちんと育っていると思う。	

本年度の総合評価と来年度の目標

今年度の重点目標については、各推進部を中心に教職員一丸となって精力的に取り組んできた。いくつかの課題を残しつつも、一応の成果を収めることができた。

しかし、多くの目標は今年度で終わるものではなく、今後も新たな目標とともに継続して取り組んでいくことになる。来年度も引き続き、積極的に取り組んでいく覚悟である。

また、保護者アンケート結果からは、保護者の方々が日頃、本校の教育についてどのようにお感じになっているかを知ることができ、とてもよかったと同時に、多くの検討課題が浮き彫りになった。少数意見だからと軽視することなく、一つ一つの検討を加え、今後の教育に生かしていきたい。

保護者アンケートの中に、「書かされるばかりで学校側の返答がない」とのご指摘をいただいた。〇〇プランの実現をもってかなり解決する部分もあるが、保護者のマナー教育も含めて、保護者と直接語り合える場を作していきたい。

V 校

自己評価・学校関係者評価等の報告事例

学校評価委員会報告書

学校評価委員会

学校評価委員会を開催し、自己評価の結果および改善策をご報告いたします。

本校が掲げる学習指導、生徒指導、進路指導、人権教育は、重要な教育目標であり、評価できるものである。

◎学習指導においては、

積極的に取り組んでおり、学習目標の設定、指導方法の研究により、学力の向上が図られていると評価できる。

◎生徒指導においては、

挨拶・マナー・服装など規律ある生活習慣の指導がなされており、生徒も身に付けつつあると感じる。廊下で出会ったときなどの元気な挨拶に清々しさを感じる。これも毎日の登下校時の校門での挨拶の指導や生徒の自主的な挨拶運動による成果だと評価できる。一方、一部の生徒の制服の着こなしが気になるのは、残念なことである。

また、校内がいつも清掃され、季節の花が植えられるなど、環境が整っているのは気持ちがいい。その点では、生徒たちも学校の美化に対する意識が高まり、公共心の高揚にも通じる。こういうことでは、家庭でも保護者が折に触れ話題にすることが望ましい。

◎進路指導においては、

進路学習、情報提供、ガイダンス等が行われ、生徒の希望、目標設定の実現において、きめの細かい指導がなされている。

◎人権教育においては、

周囲の人を尊重し、よい人間関係を築くなど、身近なところでは友人関係を良好に保っている。生徒たちは、おおむね友人関係を良好に保っていると感じられる。

◎総括として、

学校や先生方と家庭の距離が、大変近く感じられる。丁寧な学習面、生徒指導面での指導によるものと感謝している。

アンケート結果で、学校生活での満足度に保護者と生徒たちの評価に差異があった。これには、学校と家庭とがさらに連携を密にして、努力することにより向上させることを今後の目標としたい。

平成24年度 高等学校における学校評価（関係者評価）の結果報告

平成24年度に高等学校において実施した学校評価（関係者評価）の結果を報告します。

■学校評価の実施方法

- 1) 実施時期 平成25年1月
- 2) 調査対象 高等学校の保護者・生徒（全）
- 3) 評価項目 教育活動全般および学校に対する全体的評価を行いました。
- 4) 評価方法 各項目について、5段階評価を行いました。
 - 5：その通りである
 - 4：どちらかといえばその通りである
 - 3：どちらともいえない
 - 2：どちらかといえば違う
 - 1：まったく違う

■評価の重点項目

◎評価の重点項目

- ① 学習指導の充実
- ② 生徒指導の充実
- ③ 進路指導の充実
- ④ 人権教育の充実

◎平成24年度の学校教育目標

1. 学 習 基本的な学習態度を身に付け、基礎学力の習得・定着を図り、学力の向上を目指す。
2. 生 活 基本的な生活習慣、規律ある態度を養い、集団生活における社会性を身に付けさせる。
3. 進 路 将来の進路目標を見つけ、個性を磨き、目標を実現しようと努力する態度を育てる。
4. 人 権 人権意識を高め、周囲の人を尊重し、よい人間関係を築こうとする態度を養う。

■概 評

【関係者評価の昨年度との比較】

本校の教育理念は人をつくることにあり、豊かな人間性を備えた人の育成を目指している。この学校評価は保護者・生徒による関係者評価に基づくものである。関係者による学校評価を行うことによって、学校の教育目標を実現するための教育内容や指導方法が適切なものであるか振り返り、今後のさらなる教育改善に取り組もうとしている。

このアンケートの回収は、在籍者数1386名のうち保護者932件（回収率67%）、生徒1255件（回収率91%）であった。1000件を超えるデータの平均値であるため、わずかな数字の動きであっても、かなりの数の保護者または生徒の評価が変化したと捉えなければならない。

平成23年度の教員の自己評価では、特に教科指導・生徒指導・生徒支援（進路指導を含む）・人権教育の分野・項目で高くなっている。この結果は、教員が目標・課題を意識して、熱心に教育に取り組んだことの表れということができる。保護者・生徒の評価では14項目で平成23年度より上回っているがそれほど高くないことから、教員の熱意や意欲が必ずしも保護者・生徒には浸透していない部分があるということである。私達はいっそう教育内容や指導方法の改善に取り組まなくてはならない。

【重点的な目標と計画】

重点的な目標は、上に掲げた学習・生活・進路・人権の4つの柱である。この4つの教育目標は、自己評価と比べてその数値が関係者評価において低く出る傾向にあり、これらの評価をさらに上げるためには、教科指導や生活指導、学年・学級における指導のあり方を見直し、改善して指導にあたらなければならない。教員と生徒のコミュニケーションのあり方、支援的指導、個々に応じた対応などいっそうの丁寧さやきめ細かさが求められる。

■アンケートの集計結果とコメント

保護者・生徒への質問項目と集計結果は以下の通りである。

※昨年度（平成23年度）の集計結果と比較・検討した。

番	項 目	H23 保護者	H23 生徒	H24 保護者	H24 生徒
1	授業は落ち着いた雰囲気の中でわかりやすく教えている	3.3	3.1	3.2	3.1
2	学力向上のために教科の学習内容を熱心に指導している	3.5	3.3	3.6	3.3
3	生徒の進路に関する説明会や情報提供がなされている	3.7	3.3	3.7	3.5
4	学園の短大や大学への進学がある程度保証されていて安心だ	3.8	3.3	3.9	3.5
5	生徒個々の個性や目標に応じた進路指導が行われている	3.6	3.3	3.6	3.4

1. 2は、教科指導についての評価である。落ち着いた学習環境、わかりやすい指導など、いずれも評価は高くはなく、下がった項目もあり厳しく受け止めなければならない。基本的な学習態度を身に付けさせ、基礎学力がしっかりと定着し、さらに向上するよう改善が求められる。保護者や生徒はよりわかりやすい授業を望んでいると受け止めなければならない。

◎教科指導について個々の教員が創意工夫を図るとともに、教科指導法について研修会を持つことを検討しなければならない。

3. 4. 5は、進路指導についての評価である。保護者の内部進学への評価もアップしている。生徒の評価が全ての項目で昨年度を上回っていることを受け、さらに目標実現に向けての熱心な指導を展開する。

◎3年間にわたる計画的な進路指導・進路学習を実施するとともに、生徒一人ひとりに対する進路相談を丁寧に実施したい。

番	項 目	H23 保護者	H23 生徒	H24 保護者	H24 生徒
6	いろいろなクラブ活動・特設科などが活発に行われている	4.0	3.7	4.2	4.0
7	文化祭・体育祭など行事は活発に行われている	3.9	3.5	4.0	3.7
8	服装・頭髪・持ち物など生活面での規則・ルールは適切である	3.6	3.2	3.6	3.4
9	生活面での規則・ルールはよく守られている	3.5	3.2	3.4	3.2
10	学年・クラスでの生活指導はしっかり行われている	3.6	3.3	3.7	3.4
11	学校での友人関係・友だち付き合いはよい	3.9	3.6	4.0	3.8

6. 7は、生徒会活動の評価である。保護者・生徒も高い評価となっており、活動に対する理解が進んだものとみられる。多くの生徒が活躍できる生徒会活動をさらに充実したものになるよう支援していく必要がある。

◎生徒間の親睦を深め、体験と行動を通して学ぶことの意義を考え、新たな企画も検討してみたい。

8. 9. 10は、生徒指導の評価である。「規律・マナーの向上」を目指し、月間目標等を掲げて指導はしているものの、保護者・生徒とも生徒指導を十分にやっているという評価には至っていない。

規則・ルールを守るという項目での保護者の評価は厳しい。生徒にわれわれ教員の真意が伝わるような丁寧な指導の工夫が必要である。

◎生徒一人ひとりに熱心に関わり、規律やマナー・社会性を身につけることの大切さをよく説明して生徒指導にあたりたい。

11は、友人関係の評価である。保護者・生徒とも友人関係はほぼ良好だと受け止められている。昨年度より評価は上がっていることを受け、引き続きよりよい人間関係を築くよう指導していかなければならない。

◎周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築くことが大切だと教えていきたい。

番	項 目	H23 保護者	H23 生徒	H24 保護者	H24 生徒
12	生徒は先生を信頼しており先生・生徒の関係はよい	3.6	3.2	3.7	3.2
13	勉強や進路、個人的な悩みなど先生に相談しやすい	3.5	3.1	3.6	3.1

12. 13は、生徒と教員の信頼関係の評価である。保護者の評価はわずかではあるが上がっており、教員に対してある程度信頼を寄せてくれているようだ。しかし生徒からの信頼は十分という評価ではない。生徒からの信頼をより得られるように生徒の気持ちを受け止めて、悩み事などの相談に応じていかなければならない。

◎生徒をよく観察し、理解し、受け止め、ともに考え、課題を解決していこうと心がけたい。そのような意識と態度を身に付けるための研修を企画する必要がある。

番	項 目	H23 保護者	H23 生徒	H24 保護者	H24 生徒
14	学校からの行事予定など連絡事項は家庭によく伝えられている	3.9	3.3	4.0	3.4
15	学校のトピック・情報はホームページなどでよく伝えられている	3.7	3.2	3.7	3.3
16	生徒会活動やPTAの活動は活発でよく協力している	3.3	3.3	3.3	3.5

14. 15は情報公開の評価である。保護者へはメルポコによる情報発信等、ある程度評価されている。生徒の評価はアップしているものの、学校の情報発信は十分とはいえない。

◎生徒が生き生きとした学校生活を送ることがまず大切で、そのことが情報として丁寧に定期的に発信されれば、保護者の学校理解はさらに深まるだろう。

16は、PTA活動の評価である。これは家庭と学校の連携についての評価でもある。活動であれ生徒指導であれ、家庭と学校の連携は十分ではなく、保護者の評価は十分なものとはいえない。生徒の評価はややあがったが、高くはない。生徒指導面では、教員はそのつど家庭と連絡を密に取り合っているが、家庭との多方面にわたる連携をさらに拡充することが求められている。

◎PTA活動は一部の委員にとどまりがちである、多くの保護者にも門戸を広げたい。

番	項 目	H23 保護者	H23 生徒	H24 保護者	H24 生徒
17	フォーマルとインフォーマルの組合せが可能な制服に満足している	3.9	3.7	4.1	4.0
18	学校の施設・設備はよく整っている	3.9	3.5	4.1	3.8
19	学校の美化・清掃は行き届いている	3.9	3.4	4.1	3.6
20	学校の雰囲気は全体的によいと思う	3.8	3.3	4.0	3.3
21	学校は楽しく、入学してよかったと思う	4.0	3.3	4.1	3.5
22	この学校は生徒を成長させてくれると思う	3.8	3.3	3.9	3.4

17. 18. 19. 20は、学校の教育環境全般に対する評価である。全ての項目でわずかながら上昇している。保護者はおおむね教育環境に満足しており、生徒の評価も昨年度より上がっているが、学校の

雰囲気づくり等満足度がより高くなるよう環境の整備に努めたい。

◎新しい校舎も完成し校舎・施設の改修等教育環境の整備・美化に努めている。

21. 22は、本校の教育に対する総合的な評価である。保護者はおおむね満足していただいているが、生徒の評価は昨年度に比べるとあがってはいるが決して高くない。教員はもっと生徒の中に入り込んで指導し、生徒が自分に自信が持てるよう個性・能力を伸ばし、成長を促さなければならない。

◎保護者・生徒の満足度を高めるためにすべての努力を払わなければならない。教育環境・教育内容・教員の資質向上・進路保証等、教育のすべての分野のたゆまぬ改善・努力が求められる。

■学校運営の改善

関係者評価の結果を昨年度の数値との比較検討をふまえ、今後の重点的な目標・指導計画、改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

本校が設定している教育目標は、生徒の健全な育成に必要なかつ適切なものと考え、上記の通り引き続き目標として掲げていきたい。それらの教育目標について、一層その成果を上げるための計画および具体的な方策を検討する必要がある。

2. 今後の改善方策

◎学校の重点目標とその実施計画

①学習指導の充実

ア) 教科指導委員会において授業の充実方策や学習指導の計画や目標の設定を行う。

イ) 教科会議において教科指導の充実や指導方法の検討を行う。

②生徒指導の強化

ア) 生徒指導部と学年が連携して、生徒の規範意識を高め、規律ある態度を養うよう年間の指導計画を立てる。

イ) 学級において基本的な生活習慣や学習態度が身に付くよう日常的にきめ細かく指導する。

③進路指導の充実

ア) 進路指導部を中心として情報の提供やガイダンスを行い、目標の実現を支援する。

イ) 担任を中心として生徒の進路相談を受け、目標の設定と実現に向けた助言を行う。

④人権教育体制の充実

ア) 人権教育部において学年ごとの目標を設定し、年間の指導計画を立てる。

イ) 学級において日常的な人権意識の涵養に努め、計画的な人権指導を実施する。

3. 今後の学校運営のあり方

本校の建学の精神や教育方針を根幹に据えつつ、現在の教育課題や生徒・保護者のニーズに応える充実した教育活動を展開していこうとしている。そのためには保護者等の関係者による学校評価を謙虚に受け止め、常に教育改善に努めていきたい。教育内容を充実させ、教育目標が達成できるよう教育計画を立て、組織を整え、教員の資質向上に努め、教員間の連携を強化し、学校全体の教育力向上に一層努めていきたいと考えている。

平成24年度 高等学校における学校評価（自己評価）の結果報告

平成24年度に高等学校において実施した学校評価（自己評価）の結果を報告します。

■学校評価の実施方法

- 1) 実施時期 平成25年3月
- 2) 調査対象 高等学校本務教員
- 3) 評価項目 教育活動全般および学校運営に係わる項目について自己評価を行いました。
- 4) 評価方法 各項目について、5段階評価を行いました。
 - 5：その通りである（達成度 80～100%）
 - 4：どちらかといえばその通りである（達成度 60～79%）
 - 3：どちらともいえない（達成度 40～59%）
 - 2：どちらかといえば違う（達成度 20～39%）
 - 1：まったく違う（達成度 0～19%）

■評価の重点項目

◎建学の精神 —————

◎教育の目的 —————

◎教育方針 —————

◎平成24年度の学校教育目標

1. 基本的な学習態度を身に付け、基礎学力の習得・定着を図り、学力の向上を目指す。
2. 基本的な生活習慣、規律ある態度を養い、集団生活における社会性を身に付けさせる。
3. 将来の進路目標を見つけ、個性を磨き、目標を実現しようと努力する態度を育てる。
4. 人権意識を高め、周囲の人を尊重し、よい人間関係を築こうとする態度を養う。

◎学校の重点目標とその計画

① 教員・教科間の連携強化

- ア) 教育課題について教員間で日常的によく話し合って連携を深める。
- イ) 会議・委員会で教育課題に対して適切に協議し迅速に対応する。

② 学習指導の充実

- ア) 教科指導委員会において授業の充実方策や学習指導の計画、目標の設定を行う。
- イ) 教科会議において教科指導の充実や指導方法の検討を行う。

③ 人権教育体制の充実

- ア) 人権教育部において学年ごとの目標を設定し、年間の指導計画を立てる。
- イ) 学級において日常的な人権意識の涵養に努め、計画的な人権指導を実施する。

④ 生徒指導の強化

- ア) 生徒指導部と学年が連携して、生徒の規範意識を高める規律ある態度を養うよう年間の指導計画を立てる。
- イ) 学級において基本的な生活習慣が身に付くよう日常的にきめ細かく指導する。

⑤ 学習支援の充実

- ア) 学習の理解が遅れている生徒を把握し、放課後にも補充の基礎学習指導を行う。
- イ) 教科の単位を修得し進級できるよう、計画的・日常的にきめ細かく指導する。

⑥ カウンセリングマインドの育成

- ア) 一人ひとりの生徒に寄り添いその声に耳を傾け、抱えている問題を共に考える。
- イ) 問題を抱えている生徒に対して、教員が連携して対応し支援していく。

⑦ 進路指導の充実

- ア) 進路指導部が中心となって情報の提供やガイダンスを行い目標の実現を支援する。
- イ) 担任を中心として生徒の進路相談を受け、目標の設定と実現に向けた助言を行う。

⑧ 教員の資質向上

- ア) 教員一人ひとりが自らの教育活動を振り返り、課題を見つけて改善・研鑽に取り組む。
- イ) 研修の場を増やし互いの意見交換や理解・経験の共有ができる機会を設ける。

■評価結果の分析

【結果の概評】

全体として前年度より評価は上がっているが、いくつかの項目においては評価が低下している。

生活指導の分野では、引き続き高い評価結果が得られたが、規則・ルールを理解させ守らせるために、なお充実した取り組みが求められている。生徒支援の分野では、学習支援・カウンセリングマインド・進路指導・内部進学のいずれの項目でも高い評価結果が得られた。

教員はこれらの分野を中心に課題を意識し、熱心に教育活動に取り組んでいるものといえる。しかし、学習指導や生徒指導について、教員は熱心に取り組んでいると自己評価しているが、生徒・保護者による関係者評価は必ずしも高くない。このことから、教員の意欲や指導が生徒や保護者に十分理解され浸透していない部分があり、その成果をあげるためには、今後とも指導内容・方法等について改善を図る必要があるといえる。

危機管理マニュアルについては、東日本大震災以降、これまでにない充実した対応策が求められているが、十分な改善が加えられたとはいえないので、一層の努力が必要である。教員研修については、少しの改善は見られるが教員間で学びあう環境が十分に整えられていないこと、校内研修が十分実施できていないこと、また、学外で研修を受けた教員の成果が他の教員に共有されていないことなど、まだまだ改善しなければならない課題として残っている。

【目標達成状況と方策を振り返って】

① 教員・教科間連携の強化

教員間の連携・チームワークは一定程度実現したが、さらなる充実が求められている。教育課題や問題に対して、一部は共通の理解をもって適切に対処することができたが、他の課題に対しては、対応が十分ではなかった。組織・委員会も教育活動の推進に向けてほぼ円滑に機能したが、教育課題の成果をあげるためにさらに充実した取り組みを図りたい。教科間の連携については、新たな教育課程の実施に向けて強化を図りたい。

② 学習指導の充実

わかりやすい授業の実践と学習意欲および学力の向上を目標に各教科で積極的に取り組んだ。それらの目標に対して一定の成果をあげることができたが、必ずしも十分とはいえない。今後とも、学習目標の設定、指導方法などを研究・協議し、さらによりよい授業の実践を目指し、学力の向上を図りたい。

③ 人権・教育体制の充実

人権教育部の年間指導計画や学年ごとの目標に沿って指導することができた。さらに追加して学校外の講師を招いて人権学習を実施することもできた。学級においてもホームルームの時間を活用する

など日常的な人権意識の涵養に努めた。しかし、学習活動のあらゆる場面で人権意識を育てるという点については十分とはいえない。

④ 生徒指導の強化

生徒指導部と学年が連携して、挨拶・マナー・服装・出席など、生徒の規範意識を高め規律ある態度を養うよう計画的に指導した。学級においては、生徒の抱える課題等をふまえて個々に応じた指導を心がけた。その成果は現れつつあるが、さらにきめ細かく粘り強く指導を行い、生徒に規律ある生活態度と社会性を身に付けさせたい。

⑤ 学習支援の充実

学習の理解が遅れている生徒のために、放課後の基礎学習指導を学期ごとに行った。その成果もあって、学習への意欲を少しずつ高めることができ、また年度末に教科の単位が修得できない生徒の数を抑えることができた。

⑥ カウンセリングマインドの育成

担任を中心として、学年・保健室・相談室が連携して、一人ひとりの生徒が抱えている問題を共に考え、支援することができた。ただ、生徒が抱える問題は多様であり、その解決も長期的な取り組みを必要としているものがある。それだけに、教員の生徒理解力・対応力を高めるための研鑽が求められる。

⑦ 進路指導の充実

進路指導部を中心に情報提供やガイダンスを行い、生徒の進路目標の設定やその実現に向けて支援することができた。個々の生徒の進路課題や目標は多様であるので、担任を中心として相談力や助言力を高めたい。

⑧ 教員の資質向上

学校として研修の機会を積極的に設ける、また個々の教員が研鑽に励もうとする環境を整える必要がある。教務部を中心に研修の機会を増やし、互いの意見交換や理解・経験の共有ができる場を設け、今後さらに学校全体の教育力の向上につなげたい。

■評価の集計と分析

1. 学校運営

評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価	H21 評価	H22 評価	H23 評価	H24 評価
私学の独自性	建学の精神について	建学の精神を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行っている。	3.6	4.0	3.9	3.9	4.1
	教育方針について	教育方針を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行っている。	3.5	3.9	3.8	3.8	3.9
教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程の編成は学習指導要領に沿っている。	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
	教科の教育計画について	年間を通じた教育計画を教科別に立て、シラバスに沿って指導している。	3.8	3.9	4.0	4.0	3.9
教職員連携	教員・教科間連携状況	教育課題について教員間で日常的によく話し合っており、教育活動が行われている。	3.3	3.6	3.8	3.7	4.0
	会議の有効性	職員会議・学年会議を始め各種会議・委員会が、情報交換と課題検討の場として有効かつ効率的に機能している。	3.3	3.3	3.4	3.5	3.6
財務関係	教育の充実と経費節減に関する意識	私学経営の財務状況に関心を持ち、学園の発展を目指して教育活動の充実を図っている。	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7
		経費の節減や教育活動と財務との均衡のあり方を考えて、学校経営を行っている。	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7
情報公開	ホームページの活用状況	学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開をしている。	4.1	4.0	3.9	3.8	4.0
危機管理	危機管理対応状況	危機管理マニュアルを作成し非常時の役割を分担している。	3.6	3.7	3.6	3.4	4.1
		緊急時に備え、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とっている。	3.7	4.0	3.9	3.9	3.9

<コメント>

(1) 建学の精神

建学の精神をよく理解し、折あるごとに想起している。今年度も建学の精神、教育方針をふまえた教育活動を一層強化して展開することとしたので、日常の教育現場に即してさらに浸透させていくことを心がけたい。

(2) 教育方針

創立以来の教育方針に沿って年間の教育目標を立て教育活動を実践している。理念は教育の現場でこそ実践されなければならないので、さらに日常の教育活動の中で教育方針を浸透させていきたい。

(3) 教育課程

学習指導要領をふまえ、各コースの特色とカリキュラムに沿って指導にあたっている。学習指導要領の理念も十分にふまえて実践することが大切である。昨年と同様に高い評価となっている。

(4) 教育計画

年間の教育計画を立てて指導にあたっているが、0.1評価が下がった。授業や活動の現状を見つめ、問題点を改善していかなければならない。

(5) 教員連携

教育課題について、教師間の相互理解と協力の大切さを認識して取り組み0.3評価が上がった。教師間のチームワークを一層強化していきたい。

(6) 会議の有効性

昨年より0.1上昇し、3年連続の改善となった。さらに明確な計画と実行に結びつけるよう努める。常に教育課題を意識しつつ課題の優先順位、連絡と協議の区別等をふまえ、実のある協議・会議運営を行いたい。

(7) 私学経営

経営と教育のバランスについて多くの教員が意識しているが、経営や財務と教育活動を直接結びつけて活動することは難しい。教員は生徒指導や教育課題に重点を置かざるを得ない。

(8) 財務経費節減

私学の教員として学校経営という視点を持ち経費節減に努めつつ教育活動に当たることが大切である。教員は教育の質を高めることが経営の安定につながると理解して教育に当たっている。

(9) 学校ホームページ

学校の情報公開は進みつつあり、教育活動や学校の情報はほぼ伝達されている。具体的な教育実践を盛り込むなど、さらに情報公開を充実させ、学校と保護者・地域の理解と連携を深めることが大切である。

(10) 危機管理

危機管理には自然災害・火事などの防災や対人的な防犯や保護衛生に係わるものなどがある。防災教育委員会を発足させ、マニュアルの見直しを進め役割分担をより明確にするなど安全・安心な学校を目指している。

(11) 安全対策

危機管理や安全について、その対応が学校において重要であるとの認識を教職員が日頃から持つことが大切である。公的機関との連携のもと防災訓練・AED講習などを安全対策として実施している。

2. 教育内容

評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価	H21 評価	H22 評価	H23 評価	H24 評価
教科指導	学習指導	授業に創意工夫を行い、わかりやすい授業を行っている。	3.9	4.1	4.1	3.9	4.1
		生徒の学習意欲を高め、学力を向上させる授業を実践している。	3.7	4.2	4.2	4.1	4.1
	授業環境について	授業を受ける基本的な態度・マナーを身につけさせ、落ち着いた雰囲気指導している。	3.5	3.7	3.7	4.3	3.5
情報教育	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	3.5	3.7	3.6	3.6	3.6
	情報モラル教育	情報発信に伴う責任など、情報モラルの教育に取り組んでいる。	3.6	3.6	3.8	3.6	3.8
人権教育	人権教育体制	周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践している。	3.9	4.2	4.2	3.7	4.0
		人権にかかわる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。	3.6	3.9	3.9	4.0	3.9
環境教育	実践的態度の育成	自然を大切にすると心と環境を保全しようとする態度を育てている。	3.1	3.6	3.6	3.3	3.3
保健教育	保健・健康に関する指導について	心身共に健康で安全な生活を送るための行動や態度を養っている。	3.8	4.1	3.9	3.9	3.8
生徒会活動	生徒会活動支援状況	文化祭・体育会などの生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	4.3	4.2	4.4	4.3	4.1
その他	読書推進	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	2.8	2.8	3.0	2.6	2.8
	国際理解	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	3.8	3.5	3.8	3.6	3.9

<コメント>

(12) 学習指導

基礎基本を理解させるためにわかりやすい授業を実践しようと努力し、教員の評価は0.2上昇している。しかし、生徒の評価は上がっていないことから、学習指導のあり方について授業技術の向上など一層の努力と工夫が求められる。

(13) 学習意欲向上

学習内容に興味・関心を持ち意欲を高めさせ、学力を向上させようと努力している。教員評価も生徒評価も前年並みであるが、より具体的な対策が求められる。

(14) 授業環境

授業を受けるのにふさわしい基本的態度を身に付けさせ、落ち着いた教育環境を整備していこうと指導している。「礼儀と品性」に基づく規律ある授業環境づくりに努める。

(15) 情報活用能力

学校生活や社会生活においても必要な情報活用能力の育成について、一定の成果は見られるが、情報科における授業の充実を図るなど、さらに十分な成果をあげ、スキルアップできることが今後の課題である。

(16) 情報モラル

昨年度より0.1ポイント上昇しているが、今後ともパソコンや携帯電話の誤った使用や人を傷つけるような発信に対する指導・対策が求められる。人権教育の観点からも適切な指導が必要である。

(17) 人間関係

周囲の人を尊重し、友人関係を大切に、周囲の人たちと良好な関係を築くことの大切さを日常生活のなかでよく指導しているが、その精神が浸透しつつある。

(18) 人権意識

人権意識を高め、周囲の人を尊重し、差別をなくそうとする態度を養う指導が行われている。良好

な人間関係を築き、よりよい社会を目指すために正しい判断力と行動力を育てたい。

(19) 環境保全態度

環境問題に対する興味・関心を高め、それに必要な知識・態度を習得させ、生徒が主体的に活動できるよう授業や活動を通して育成していかなければならないが、まだ十分な取り組みが行われていない。

(20) 心身の健康

心身の健康教育は、保健体育科・保健室・相談室などを通して指導・啓発を行っており、生徒に対して人間関係にかかわる悩みや心のケアなどの面で積極的にサポートしている。

(21) 生徒会活動

生徒会の自主的な活動に対して積極的に支援している。スポーツ大会・文化祭・体育会など生徒会が中心となる行事が活発に行われており、教育方針の「実行から学べ」「明朗と自主」を実践している。

(22) 図書館利用

図書館は充実した書籍をそろえ、読書や学習にふさわしい環境ではあるが、生徒の利用状況は芳しくない。生徒が関心を持ちやすい図書を置き、図書だよりを発行するなど利用の啓発に努める。

(23) 国際理解

友好校との相互交流や留学の実施、選択科目に国際理解を取り入れるなど、異文化理解を推進する取り組みは一部で十分な成果をあげている。全体に、広く国際的な視野を持つこと、違いを理解し異文化を受け入れるなどの推進をさらに行っていきたい。

3. 生徒指導・支援

評価の点	評価項目	設 問	H20 評価	H21 評価	H22 評価	H23 評価	H24 評価
生徒指導	生徒指導について	生活の基本である時間を守るという指導を行っている。	4.1	4.1	4.3	4.2	4.1
		挨拶を初めとして、礼儀を重んじる生活態度を養う指導を行っている。	4.1	4.3	4.2	4.2	4.0
		服装・頭髪・持ち物など生活面での規則・ルールを理解させ守らせている。	3.8	4.0	4.0	3.9	3.7
		生徒に清掃、校内美化に取り組むよう指導している。	4.1	4.2	4.0	3.9	4.0
	家庭との連携状況	家庭と学校との協力と連携のもとに生徒指導を行っている。	4.4	4.3	4.2	4.2	4.3
生徒支援	学習支援について	学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行っている。	3.9	3.8	4.1	4.0	4.1
	カウンセリングマインド	生徒が抱えている問題に対して、一人ひとりを大切にしたいと細かい相談・指導を行っている。	4.0	4.1	4.2	4.0	4.1
	進路指導について	生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンスなどの進路指導を実施している。	4.1	4.1	4.3	4.2	4.2
		個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行っている。	4.1	4.2	4.3	4.1	4.1
	内部進学について	学園の短大や大学への進学を希望する生徒には積極的に支援している。	4.6	4.5	4.6	4.5	4.4

<コメント>

(24) 時間を守る

規律ある生活、時間を守ることの大切さについて熱心に指導している。何より学校生活が楽しく目標のあるものにすることが遅刻を減らすことにつながると理解して指導している。

(25) 挨拶と礼儀

教育方針「礼儀と品性」を掲げ、朝の挨拶運動や教室・廊下での挨拶などを実行している。よりよい人間関係づくりに挨拶の励行は欠かせない。挨拶の輪を広げ、さらに基本的な礼儀・マナーを身につけさせたい。

(26) 服装頭髪

規則を守れない事例は減少してはいるが、まだ改善の余地はある。生活指導は地道に粘り強く継続して実施したい。生徒が自主的に規律ある態度をとってくれるようさらに指導していきたい。

(27) 校内美化

美しく整理・整頓された教室でこそ落ち着いた学習も可能となり、また生活面も人間関係も良好なものとなる。生活指導の基本でもある環境美化活動に今後とも力を入れて指導していきたい。

(28) 家庭の協力

生徒指導に関して家庭との連携は電話・家庭訪問・懇談会などで、ある程度実現できている。生徒の気になる面も、日常的に家庭と連携・協力して、課題を早期に発見し、よりよい指導を積み重ねていきたい。

(29) 学習支援

学習の苦手な生徒、遅れている生徒に、放課後基礎学習を開講するなどきめ細かく丁寧に指導するよう心がけている。個々の生徒に対し、さらに行き届いた指導ができるよう改善を進めたい。

(30) カウンセリングマインド

一人ひとりが抱えている問題に目を向け、きめ細かく声をかけ、相談にあたろうとしている。担任・養護教諭・カウンセラーなどが連携して生徒を支えるように心がけている。

(31) 進路指導

進路情報の提供やガイダンスを実施し、将来の目標を決めるための判断材料を提供したり、見学・体験・相談の機会を設けるなど、学年・時間に応じて適切な指導を行っている。

(32) 進路相談

進路目標を決めかねているときや、不安を感じているときなど、生徒の個性に応じて相談に乗り適切な指導をしている。教育方針「個性の尊重」をふまえ、さらにきめ細かく、親身になって丁寧にサポートしていきたい。

(33) 内部進学

高短、高大の連携強化を図り、生徒が短大・大学の教育内容に触れ、それを参考に進路目標決定の一助にしてもらう取り組みを行っている。生徒の個性・適性をふまえて指導を行っている。

4. 教員研修・資質向上

評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価	H21 評価	H22 評価	H23 評価	H24 評価
教員研修	教員の資質向上について	教員間で授業内容を評価したり、生徒指導のあり方等指導方法について意見交換などを行う機会がある。	3.0	3.0	3.2	2.9	3.1
	校内研修	教育問題や生徒理解、人権教育等、効果的な校内研修計画を立案し、計画的に教職員の研修を実施している。	3.3	3.3	3.6	3.2	3.3
	研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制が整理されている。	2.9	2.8	3.4	3.0	3.1

<コメント>

(34) 教員間の意見交換

教員が相互に学びあうための機会は、個々が仕事に追われているなどの理由で、まだ十分に提供できていない。教員の資質を高め、よりよい教育実践ができるように、話し合いや経験交流の機会を設けたい。

(35) 校内研修計画

校内研修は定期的実施しているが、研修のあり方や内容については改善の余地がある。資質向上に資する内容を計画し、教員一人ひとりが満足できるよう実りあるものにしたい。

(36) 研修報告

教員が自ら研鑽に励み資質の向上を図ることは大切である。また教員が研修したことを報告し共有することも大切ではあるが、まだ十分とはいえない。さらに学びあう環境づくりを進めていきたい。

■今後の改善方策と学校運営

本校が掲げている教育の重点目標は、今日の学校教育において、また将来の社会を担う若者の育成という観点においても大切なものと考えている。それらの目標を実現し、その成果をあげるためには、より明確な指導計画と実践方策を打ち立てなければならない。

教科における学習指導、校務分掌における生徒指導や進路指導、学級・学年における生徒支援等について、指導方法の改善や支援体制の整備、指導力や資質の向上のための研修の充実などに取り組まなくてはならない。

教育課題を解決していくためには、学校の運営体制を整備し、教育方針や教育目標の共有と教員の連携・協力を一層推進していく必要がある。また、組織や委員会の機能を活性化させ会議運営のあり方を改善するなど、課題の解決に向けて意欲的に取り組み、その成果をより実りあるものにしていかなければならない。

■まとめ

【学校評価の目的と意義】

この学校評価は、教員による自己評価に基づくものである。自己評価を行うことによって、教員が本校の教育方針・教育目標を再認識し、それらを自覚しつつ日常の教育活動のあり方を振り返り、さらによりよい実践に取り組もうとする意欲を高めることができ、全体として学校組織を活性化させ、教育活動の一層の充実を図る契機となっている。

学校評価の結果とその分析を通して、本校の教育活動が成果をあげつつある分野と、そうでない分野があることを認識し、どこに課題があるのか、次年度どの分野に重点目標を置いて、どのような対策や教育計画を立てればよいかということが明確になってくる。これらをふまえて本校の教育力をさらに向上させたい。

【学校の教育力向上】

学校教育を支える根幹は、やはり一人ひとりの教員である。生徒に愛情を持って接し、生徒を成長させるのは教員である。したがって、教育内容の充実を図るうえで何より大切なことは、教員が自ら指導力と資質の向上を図り、教員間の連携を一層強化することである。そのチームワークの総和こそが学校の教育力となり、発展の原動力となる。

よい教育の実践こそ最も大切なことであり、保護者や地域社会の要望に応えられる教育を行うことが学校の発展につながるという観点から、一層教育の改善と健全で発展的な学校運営を進めていきたい。

第 4 章

学校評価と私学の対応研修会

第4章 学校評価と私学の対応研修会

学校評価調査研究事業を普及させる目的で、「学校評価と私学の対応研修会」を実施した。研修の対象者は、私立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校の学校評価の担当者・教務の先生・法人の関係者等をターゲットにした。また、参加に際して、地区に限るのではなく、東日本地区また西日本地区などのように、日程によって参加できるようにした。

内容は、学校評価の基本的な考え方を学ぶ講演、学校評価のアンケート調査による調査研究からの活用に向けての説明、および学校評価を実施するための研究協議などを実施した。

・学校評価と私学の対応研修会

【会期Ⅰ】日時：平成25年11月9日（土）の午後2時から午後5時

会場：札幌ガーデンパレス 〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目 TEL 011-261-5311

【会期Ⅱ】日時：平成25年11月16日（土）の午後2時から午後5時

会場：兵庫県私学会館 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通4-3-13 TEL 078-331-6623

【会期Ⅲ】日時：平成25年11月30日（土）の午後2時から午後5時

会場：福岡ガーデンパレス 〒810-0001 福岡市中央区天神4-8-15 TEL 092-713-1112

・教育課程編成と学校評価研修会

日時：平成25年12月7日（土）

会場：九段センタービル（L B 2階会議室） 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7

なお、この研修会では、私立学校の教育課程編成状況と、学校評価について研修した。

各研修会は、主任研究員の山路進が、「学校評価と私学の対応」についての講演を行い、その後に研究協議として「学校評価への対応」を実施した。

講演「学校評価と私学の対応」、研究協議「学校評価への対応」では、どの研修会でも下記の内容で質疑応答が活発に行われた。

- ・地域によって、学校評価の取り組み具合は異なる。
- ・自己評価は、ほとんどの学校で実施しているが、公表については検討中である学校もあった。
- ・学校関係者評価については、自己評価は実施しているが、PDCA サイクルの A（アクション）の部分がまだできていない。今後の課題である。
- ・自己評価の公表は、どこまで公開すべきか検討中である。
- ・自己評価の目標設定に課題がある。
- ・学校関係者評価については、検討しているが実施していない。
- ・学校関係者評価について、研修会で理解できた。
- ・今後も学校評価について情報を提供してほしい。

文部科学省初等中等教育局平成25年度「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」

私立学校における学校評価について、取り組み状況の分析、効果的活用を
目指した資料の提供および普及のための研修等の実践的調査研究 報告書

平成26年 3 月 5 日 印刷

平成26年 3 月10日 発行

発行人 一般財団法人日本私学教育研究所

所 長 中 川 武 夫

編著者 「私立学校における学校評価について、取り組み状況の分析、
効果的活用を目指した資料の提供および普及のための研修等の
実践的調査研究」事業運営委員会

山路 進（調査研究統括、監修、編集）

大森 隆實、澤村 興平、原 芳典、富居 啓一、
安藤 忠、波多野和彦、倉田 政彦

発行所 一般財団法人日本私学教育研究所

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷UNビル6F

TEL 03-3222-1621 <http://www.shigaku.or.jp>

印刷所 nagata Print 東京都八王子市片倉町510

The Education Institute for Private Schools in Japan

